

# 加古川市男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和8年3月

加古川市



# 目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果の概要.....	2
1	あなたやご家族のことについて.....	2
2	男女の平等感などについて.....	2
3	家庭生活について.....	2
4	就労等について.....	3
5	困難な問題を抱える女性への支援、DV等の状況について.....	3
6	市の男女共同参画推進に関する施策について.....	4
	【総括（全体まとめ）】.....	4
III	調査結果.....	5
1	回答者の属性.....	5
2	男女の平等感などについて.....	9
3	家庭生活について.....	40
4	就労等について.....	58
5	困難な問題を抱える女性への支援、DV等の状況について.....	65
6	市の男女共同参画推進に関する施策について.....	90
IV	参考資料.....	98



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女共同参画社会に関する市民の意識を調査することにより、現行の第5次加古川市男女共同参画行動計画に掲げる施策の進捗状況や課題を把握し、今後の男女共同参画を推進するための施策の参考とするとともに、第6次加古川市男女共同参画行動計画の策定資料とするため。

## 2 調査対象

加古川市在住の満18歳以上の市民から3,000人を無作為抽出

## 3 調査期間

令和7年12月18日～令和8年1月9日

## 4 調査方法

郵送による配布、郵送及びオンラインによる回答

## 5 回収状況

配布数	回収数		回収率
3,000通	1,049通	紙回答 659通	35.0%
		オンライン回答 390通	

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 あなたやご家族のことについて

回答者の属性は、女性が 57.7%、男性が 41.2%となっています（問1）。年齢層では「70歳以上」が 18.8%と最も高く、次いで「30歳代」が 16.3%、「40歳代」が 16.2%となっており、高齢層から子育て層まで幅広い回答が得られています（問2）。

主な仕事については、「正社員」が 36.8%で最も高くなっています（問3）。性別にみると、男性は「正社員」や「無職（家事専業、学生を除く）」の割合が高い一方、女性は「パート・アルバイト」や「家事専業」の割合が高くなっており、男女間で就業形態に差がある傾向がみられます（問3）。配偶者・パートナーの就業形態についても、男性回答者では配偶者が「パート・アルバイト」や「家事専業」である割合が高く、女性回答者では配偶者が「正社員」である割合が高くなっています（問4-1）。こうした回答者の背景は、以降の設問における役割分担や平等感の回答傾向に影響を与えていることがうかがえます。

### 2 男女の平等感などについて

各分野における男女の地位の平等感については、『家庭生活で』『職場で』『社会全体で』などの項目において、前回調査と比較して「平等」と回答する割合が増加し、「男性が優遇（“男性が優遇”と“やや男性が優遇”の合計）」と回答する割合が減少しています（問7 ア、ウ、ク）。特に『慣習・しきたりで』では、依然として 69.1%が「男性が優遇」と感じているものの、前回と比較してその割合は減少傾向にあります（問7 カ）。

ジェンダーに関する意識については、すべての項目において「同感しない（“どちらかといえば同感しない”と“同感しない”の合計）」とする割合が前回調査より増加しています（問8）。

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」に対して「同感しない」とする割合は 74.0%に達しており、男女ともに前回より増加していることから、固定的な性別役割分担意識の解消が進んでいることがうかがえます（問8 ア）。

一方で、性別による生きづらさについては、「家事や子育て、介護等の負担が一方にかたよりやすい」について「ある（“よくある”と“時々ある”の合計）」と回答した割合が 79.3%と高くなっています（問9 エ）。意識面では平等が進む一方で、現実的な負担の偏りに対しては依然として多くの市民が課題を感じている傾向がみられます。

### 3 家庭生活について

家庭内での役割分担については、『食事の支度』や『掃除・洗濯』、『日々の家計管理』において、男女ともに前回調査と比較して「自分と配偶者・パートナーと同程度」と回答する割合が増加しています（問10 ア、イ、ウ）。特に男性において、「自分がする」や「同程度」とする回答が増加し、配偶者に頼る割合が減少している点は、男性の家事参画が進みつつあることがうかがえます。

配偶者との役割分担への満足度は、「満足（“満足”と“どちらかといえば満足”の合計）」が 70.1%となっています（問10-1）。不満を感じる理由としては、「相手の協力が得られない」（41.6%）や「やり方について相手と意見が合わない」（37.3%）が上位に挙がっており、特に女性の 50歳代・60歳代

では「相手の性別役割分担意識が強い」ことを理由に挙げる割合が高くなっています（問10-2）。

生活の優先度については、希望では「個人の生活」を優先したい」とする割合が前回より増加していますが、現実には「仕事」を優先している」が24.6%で最も高くなっています（問13）。理想とするワーク・ライフ・バランスと現実との間には依然として乖離がみられ、特に働き盛り世代における個人の生活時間の確保が課題であると考えられます。

## 4 就労等について

女性の就労については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」との回答が51.8%で最も高くなっています（問14）。再就職にあたっての気がかりとしては、「賃金や勤務時間、働き方、休暇など、望む労働条件が得られるか」（62.2%）や「家庭との両立ができるか」（57.4%）の割合が高く、前回調査と比較してもこれらの項目に対する不安が増加している傾向がみられます（問15）。

職場環境については、女性が活躍するために必要なこととして「子育て・介護との両立のための職場の支援制度が整っていること」（68.5%）が最も多く求められています（問16）。また、ハラスメントの状況については、「自分自身が被害にあったことがある」が18.4%となっており、内容としては「パワー・ハラスメント」が79.4%と突出していますが、前回と比較して「セクシュアル・ハラスメント」の割合が増加している点は注視すべき課題です（問17、17-1）。

女性リーダーを増やすために必要なこととしては、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）をなくすこと」（57.2%）や「女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（54.8%）といった意識改革を求める声が多くなっています（問18）。制度面の充実に加え、周囲の理解や社会的な意識の醸成が、女性の活躍推進には不可欠であるとうかがえます。

## 5 困難な問題を抱える女性への支援、DV等の状況について

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行に関連し、必要とされる支援としては「相談窓口の周知」（64.3%）や「相談支援」（58.2%）が上位に挙がっています（問19）。DVの認識については、身体的な暴力だけでなく「いやがっているのに性的な行為を強要された」や「何を言っても長期間無視され続けた」などの行為に対しても、前回調査より「DVだと思う」とする割合が増加しており、暴力の捉え方が広範かつ厳格になっていることがうかがえます（問20 A）。

DVを受けた経験については、「大声でどなられた」において「まったくない」とする割合が前回より増加し、被害経験が減少している傾向がみられます（問20 Bコ）。一方で、被害にあった際の対応として「相談した」と回答した割合は40.9%で、前回調査よりも増加しており、被害の潜在化を防ぐ動きが進んでいることが考えられます（問21）。

相談相手については、「家族」や「友人」が上位となっており、身近な信頼関係の中での相談が中心となっています（問21-1）。今後、より専門的な支援につなげるためには、身近な相談相手から公的機関への橋渡しをスムーズにする情報提供のあり方が課題であると考えられます。

## 6 市の男女共同参画推進に関する施策について

加古川市男女共同参画センターの認知度については、「知らない」が69.4%となっており、前回調査と比較しても大きな変化はみられません（問22）。特に若い年代ほど認知度が低い傾向にあり、幅広い層への情報発信と、センターの機能や存在の周知が依然として大きな課題となっています。

男女共同参画社会の実現のために市に望むこととしては、「保育や介護に関するサービスを充実する」（53.2%）が最も高く、次いで「学校で平等意識を育てる教育を充実する」（44.8%）となっています（問23）。また、前回と比較して「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」ことを求める割合が増加しており、多様化する個人の悩みに寄り添う施策への期待が高まっていることがうかがえます。

今後は、高いニーズがある「保育・介護サービス」の充実に加え、若い年代をターゲットとした認知度向上施策や、性別を問わず気軽に相談できる体制の整備を検討していく必要があると考えられます。

### 【総括（全体まとめ）】

今回の調査結果からは、多くの分野で男女の平等感が向上し、固定的な性別役割分担意識も前回調査時より解消していることが確認されました。

家庭内においても、家事・育児を「同程度」に分担する割合が増加するなど、意識と実態の両面で男女共同参画が緩やかに進展している傾向がみられます。

一方で、依然として家事・育児等の負担が一方に偏りやすいという認識は根強く、仕事と家庭の両立に対する不安も増加しています。

また、市の男女共同参画の推進の拠点である男女共同参画センターの認知度が依然として低いことも課題です。

今後は、意識啓発を継続しつつ、現実的な負担を軽減するためのサービス充実や、個別の悩みに応じる相談体制の周知など、より実効性の高い施策の展開が求められます。

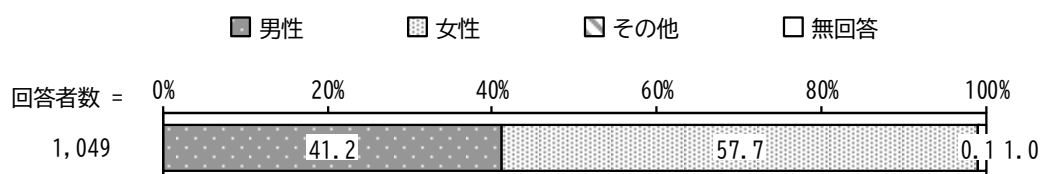
### Ⅲ 調査結果

#### 1 回答者の属性

問1 あなたの自認する性別をお答えください。(○は1つ)

「男性」の割合が41.2%、「女性」の割合が57.7%となっています。

図表1 性別

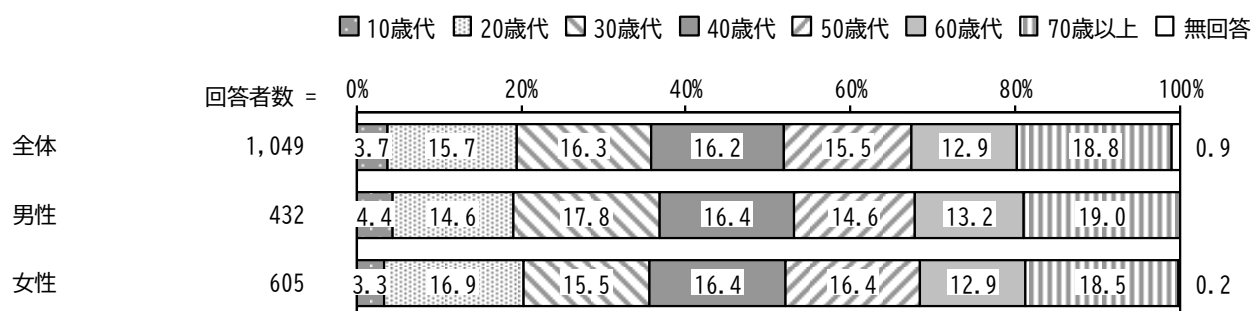


問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

「70歳以上」の割合が18.8%と最も高く、次いで「30歳代」の割合が16.3%、「40歳代」の割合が16.2%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

図表2 年齢

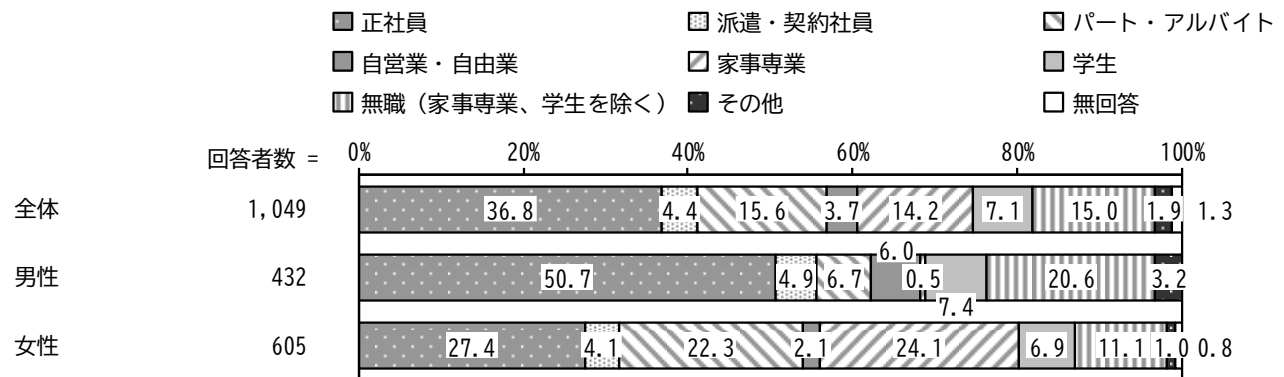


問3 あなたの主な仕事（就業形態）をお答えください。（○は1つ）

「正社員」の割合が36.8%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が15.6%、「無職（家事専業、学生を除く）」の割合が15.0%となっています。

性別にみると、男性で「正社員」「無職（家事専業、学生を除く）」の割合が高く、女性で「パート・アルバイト」「家事専業」の割合が高くなっています。

図表3 就業形態

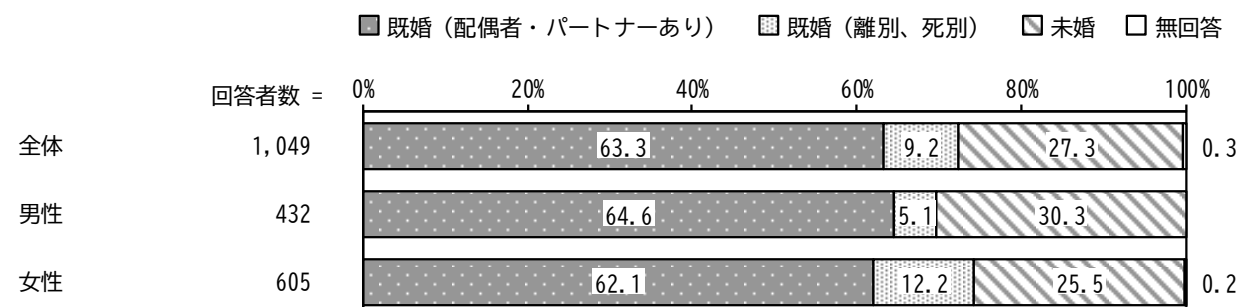


問4 あなたは結婚していますか（内縁関係など事実婚を含む）。（○は1つ）

「既婚（配偶者・パートナーあり）」の割合が63.3%、「既婚（離別、死別）」の割合が9.2%、「未婚」の割合が27.3%となっています。

性別にみると、女性で「既婚（離別、死別）」の割合が高くなっています。

図表4 婚姻状況



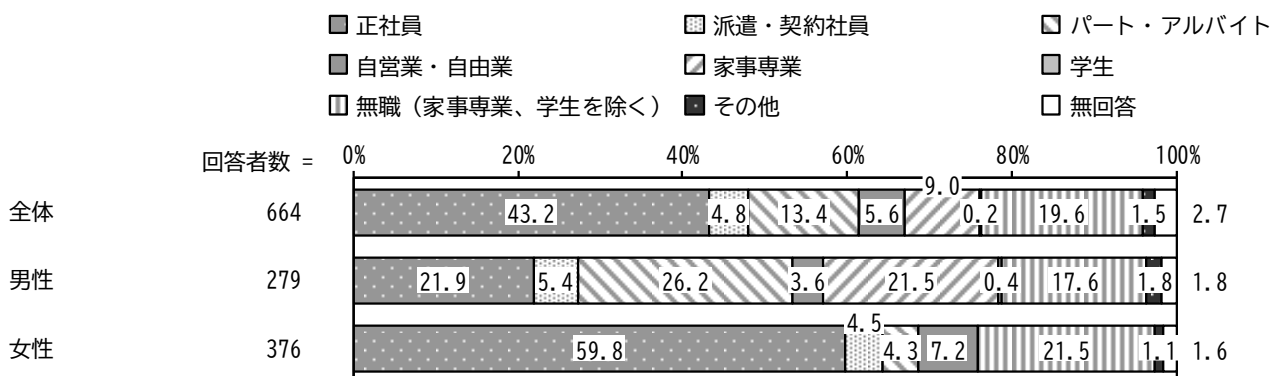
問4で「既婚（配偶者・パートナーあり）」を選ばれた方におたずねします。

問4-1 あなたの配偶者・パートナーの主な仕事（就業形態）をお答えください。（○は1つ）

「正社員」の割合が43.2%と最も高く、次いで「無職（家事専業、学生を除く）」の割合が19.6%、「パート・アルバイト」の割合が13.4%となっています。

性別にみると、男性で「パート・アルバイト」「家事専業」の割合が高く、女性で「正社員」の割合が高くなっています。

図表5 配偶者・パートナーの就業形態

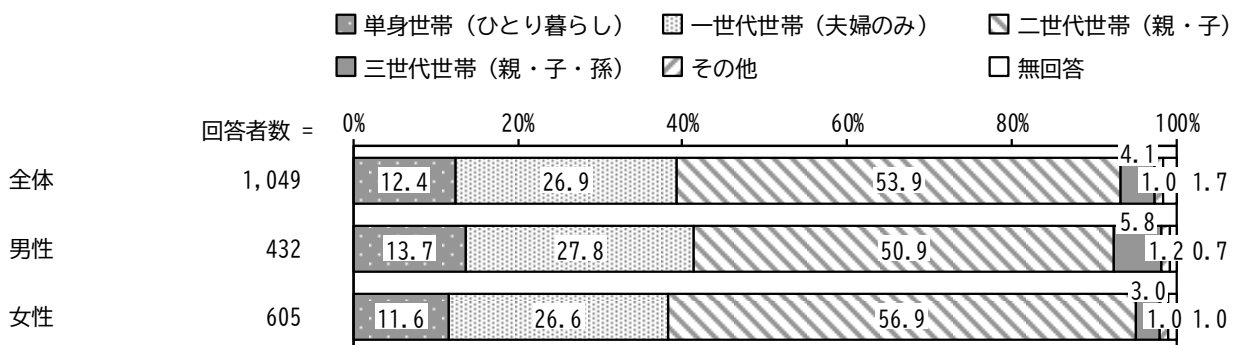


問5 あなたの世帯状況をお答えください。（○は1つ）

「二世帯世帯（親・子）」の割合が53.9%と最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」の割合が26.9%、「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合が12.4%となっています。

性別にみると、女性で「二世帯世帯（親・子）」の割合が高くなっています。

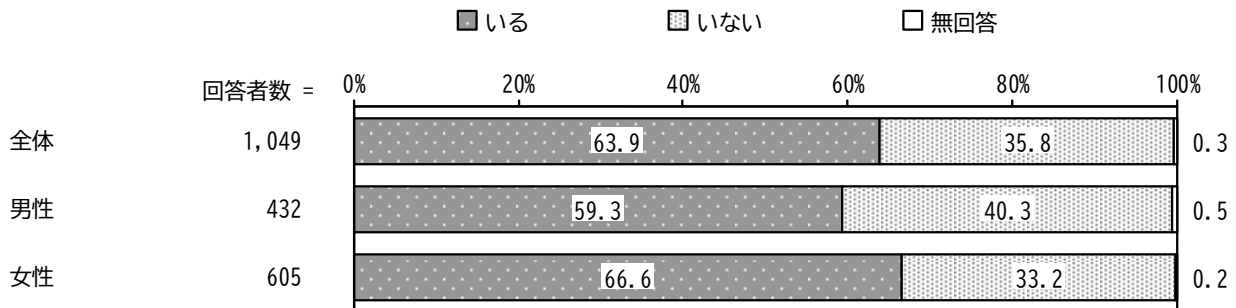
図表6 世帯状況



問6 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が63.9%、「いない」の割合が35.8%となっています。  
性別にみると、女性で「いる」の割合が高くなっています。

図表7 こどもの有無



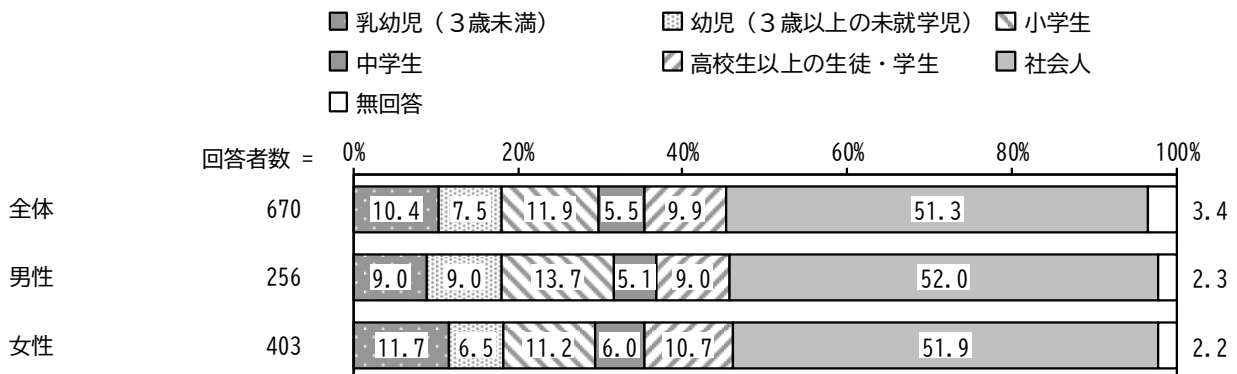
問6で「いる」を選ばれた方におたずねします。

問6-1 あなたの一番年下のお子さんは次のいずれにあたりますか。(○は1つ)

「社会人」の割合が51.3%と最も高く、次いで「小学生」の割合が11.9%、「乳幼児(3歳未満)」の割合が10.4%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

図表8 末子年齢

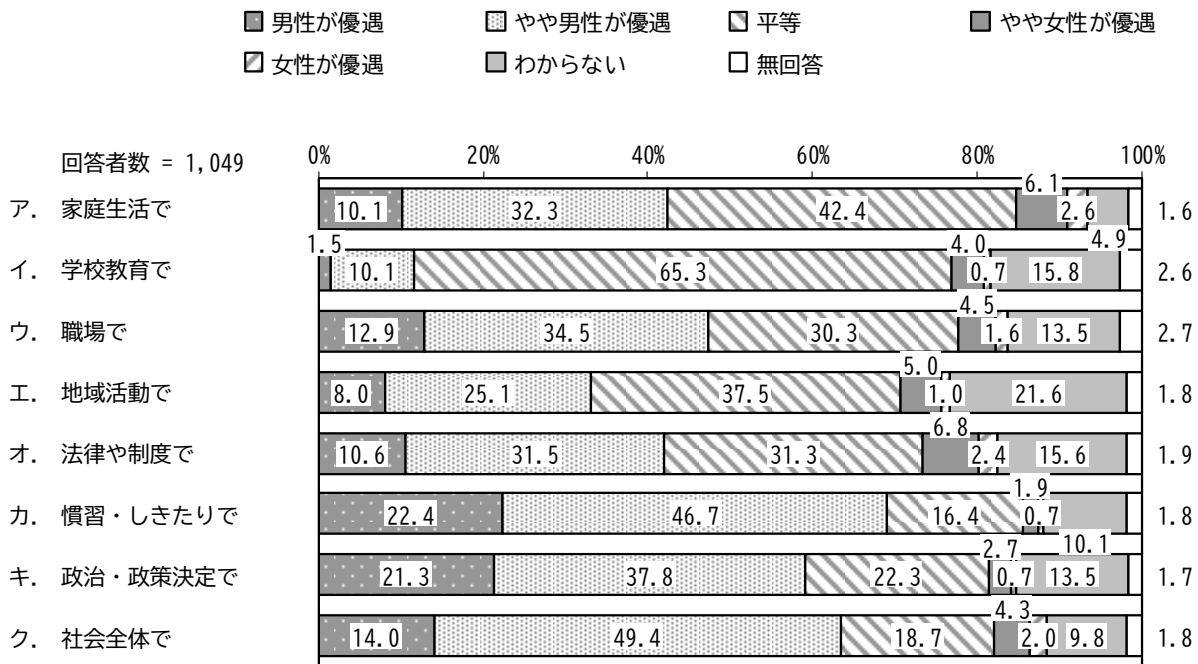


## 2 男女の平等感などについて

問7 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『カ. 慣習・しきたりで』で「男性が優遇」が、『ク. 社会全体で』で「やや男性が優遇」が、『イ. 学校教育で』で「平等」が、『オ. 法律や制度で』で「やや女性が優遇」が、『ア. 家庭生活上で』で「女性が優遇」が、『エ. 地域活動で』で「わからない」が高くなっています。

図表9 男女の地位の平等感



男女の地位の平等感について、『ア. 家庭生活で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”、“平等”の割合がそれぞれ42.4%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が8.7%となっています。

前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

男性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では50歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど「平等」の割合が高く、女性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。また、女性60歳代で「男性が優遇」、女性50歳代で「やや男性が優遇」の割合が高くなっています。

『イ. 学校教育で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が11.6%、「平等」の割合が65.3%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が4.7%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

男性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では年齢が下がるほど“女性が優遇”の割合が高い傾向にあり、女性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高くなっています。また、女性50歳代、女性60歳代で「やや男性が優遇」、男性10～20歳代、女性10～20歳代で「平等」の割合が高くなっています。

『ウ. 職場で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が47.4%、「平等」の割合が30.3%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が6.1%となっています。

前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

男性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど“女性が優遇”の割合が高く、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高い傾向にあります。また、男性50歳代、女性60歳代で「やや男性が優遇」、男性10～20歳代で「平等」の割合が高くなっています。

『エ. 地域活動で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が33.1%、「平等」の割合が37.5%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が6.0%となっています。

前回と比較すると、“男性が優遇”の割合が減少しています。

男性の前回と比較すると、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、“男性が優遇”の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。また、女性60歳代で「やや男性が優遇」の割合が高くなっています。

『オ. 法律や制度で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が42.1%、「平等」の割合が31.3%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が9.2%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

男性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど“女性が優遇”の割合が高い傾向にあり、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高くなっています。また、女性60歳代で「やや男性が優遇」、男性10～20歳代、男性50歳代、男性60歳代、男性70歳以上で「平等」の割合が高くなっています。

『カ. 慣習・しきたりで』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が69.1%、「平等」の割合が16.4%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が2.6%となっています。

前回と比較すると、“男性が優遇”の割合が減少しています。

男性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「男性が優遇」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では50歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど「平等」の割合が高く、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高く、「平等」の割合が低い傾向にあります。また、女性60歳代で「男性が優遇」、男性70歳以上で「やや男性が優遇」の割合が高くなっています。

『キ. 政治・政策決定で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が59.1%、「平等」の割合が22.3%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が3.4%となっています。

男性の前回と比較すると、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど、女性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。また、女性50歳代、女性60歳代で「男性が優遇」、女性40歳代で「やや男性が優遇」の割合が高くなっています。

『ク. 社会全体で』では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」を合わせた“男性が優遇”の割合が63.4%、「平等」の割合が18.7%、「やや女性が優遇」「女性が優遇」を合わせた“女性が優遇”の割合が6.3%となっています。

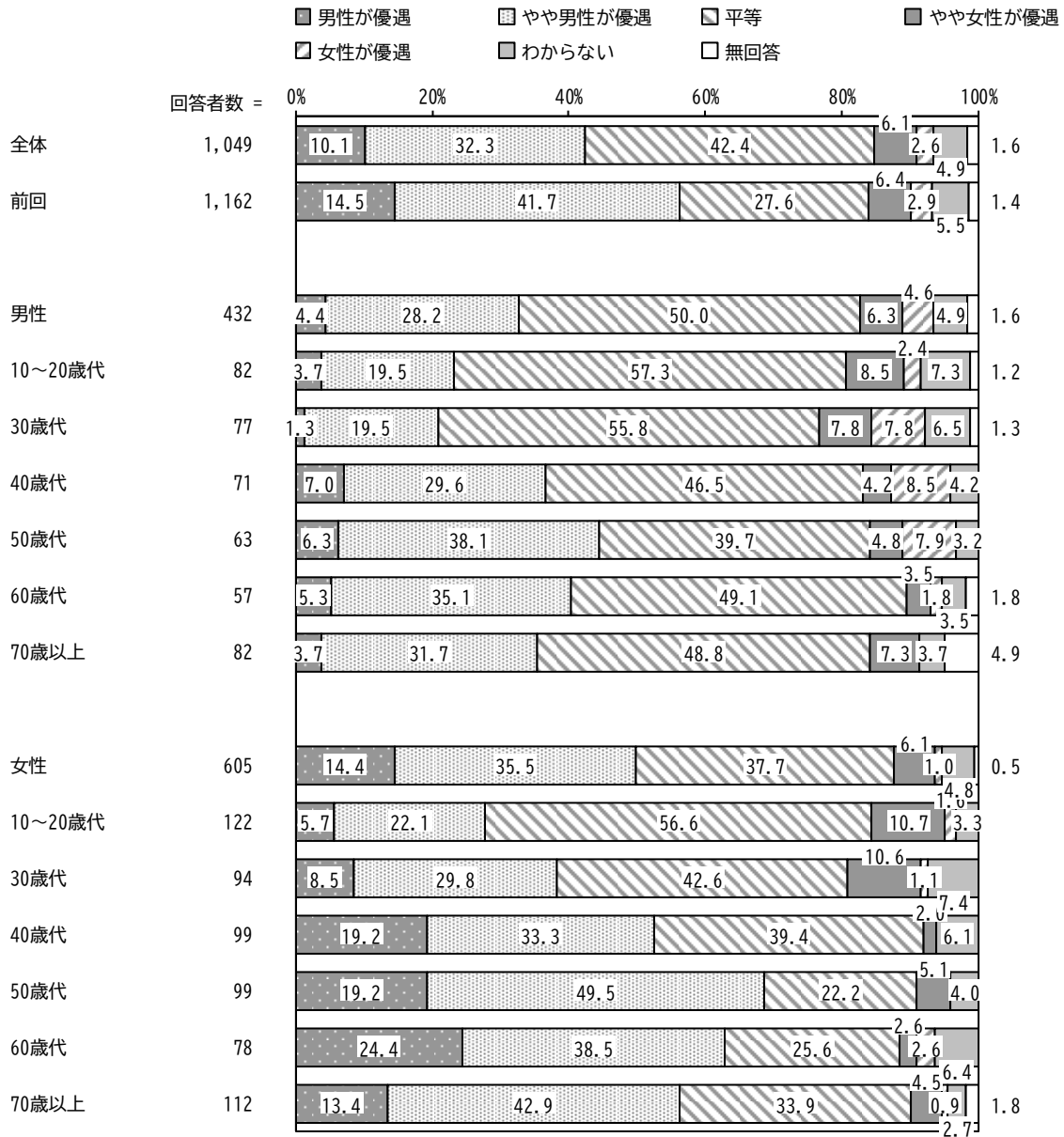
前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。男性の前回と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、“男性が優遇”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

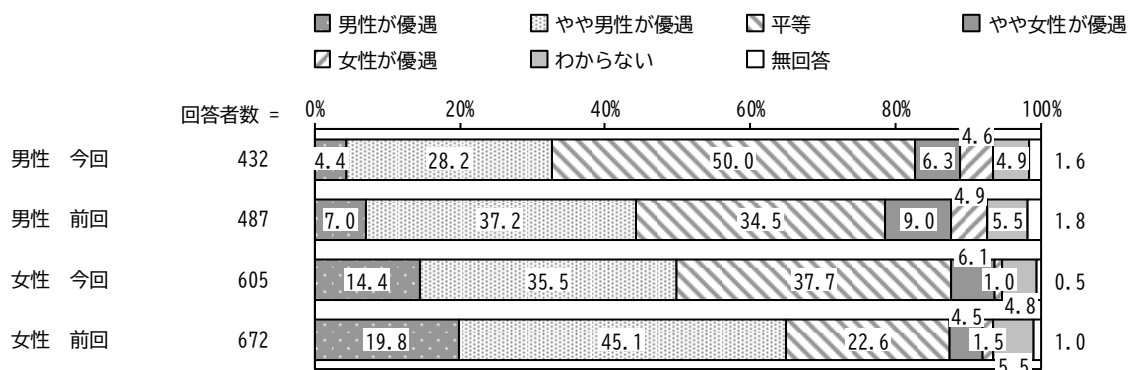
性・年齢別にみると、男性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど“女性が優遇”の割合が高く、女性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“男性が優遇”の割合が高く、「平等」の割合が低くなっています。また、女性50歳代で「男性が優遇」、男性60歳代で「やや男性が優遇」の割合が高くなっています。

ア. 家庭生活で

図表 10 男女の地位の平等感「家庭生活で」

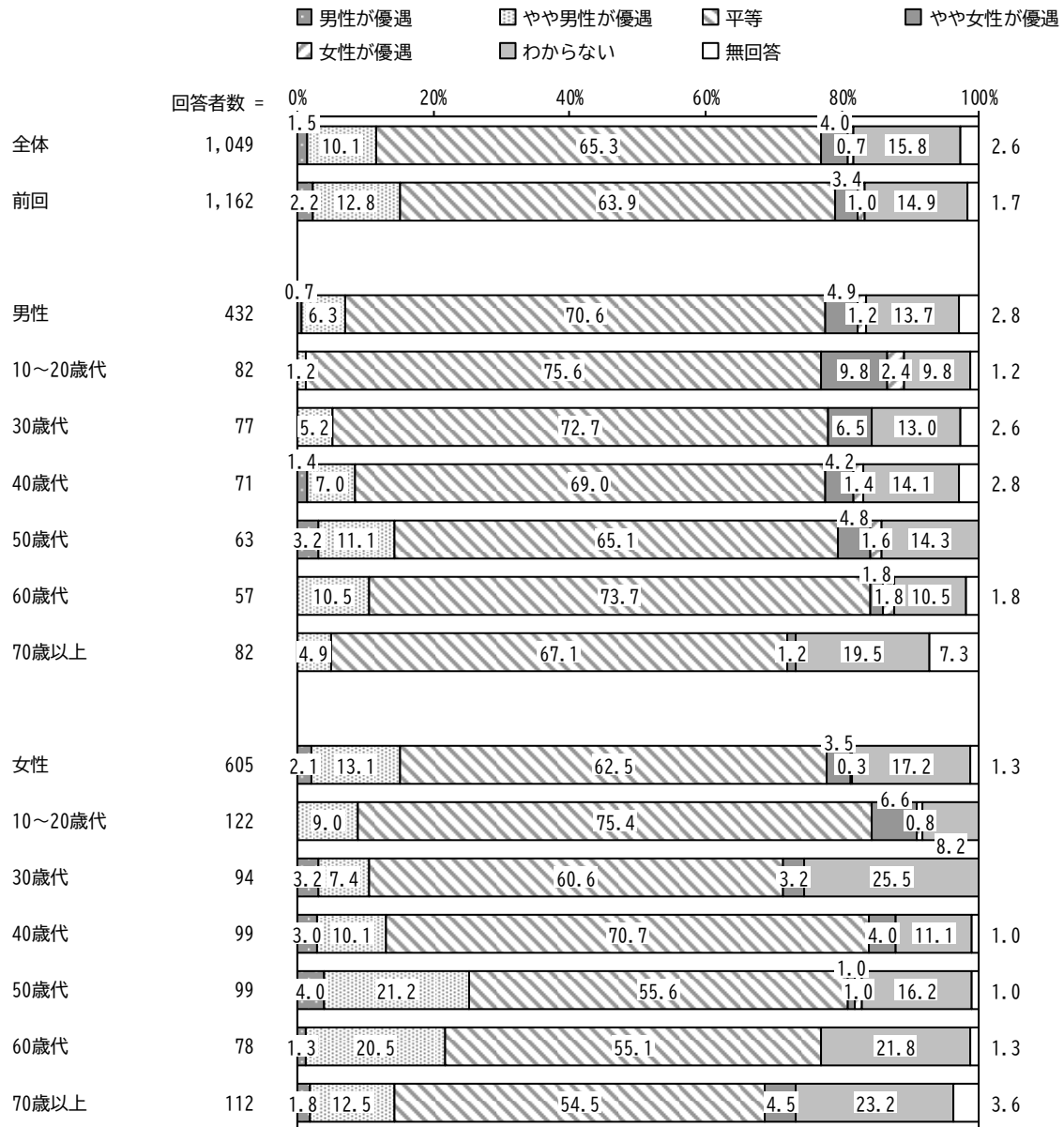


図表 11 男女の地位の平等感「家庭生活で」(性別)

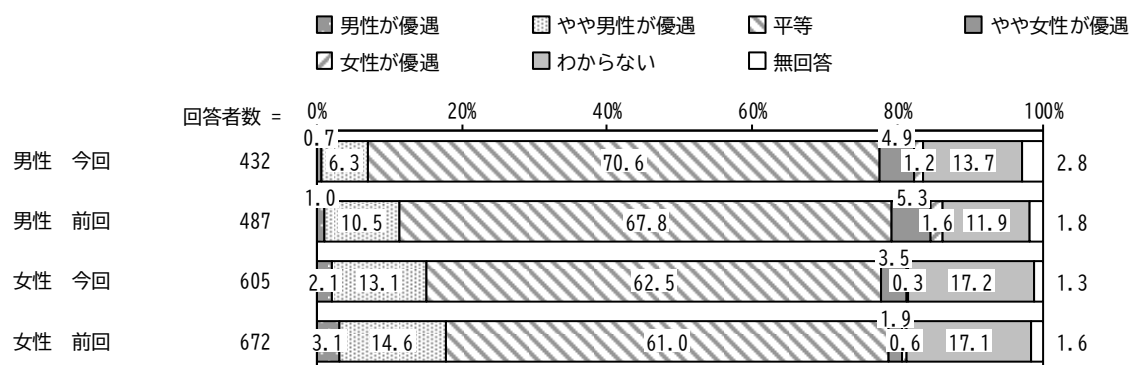


イ. 学校教育で

図表 12 男女の地位の平等感「学校教育で」

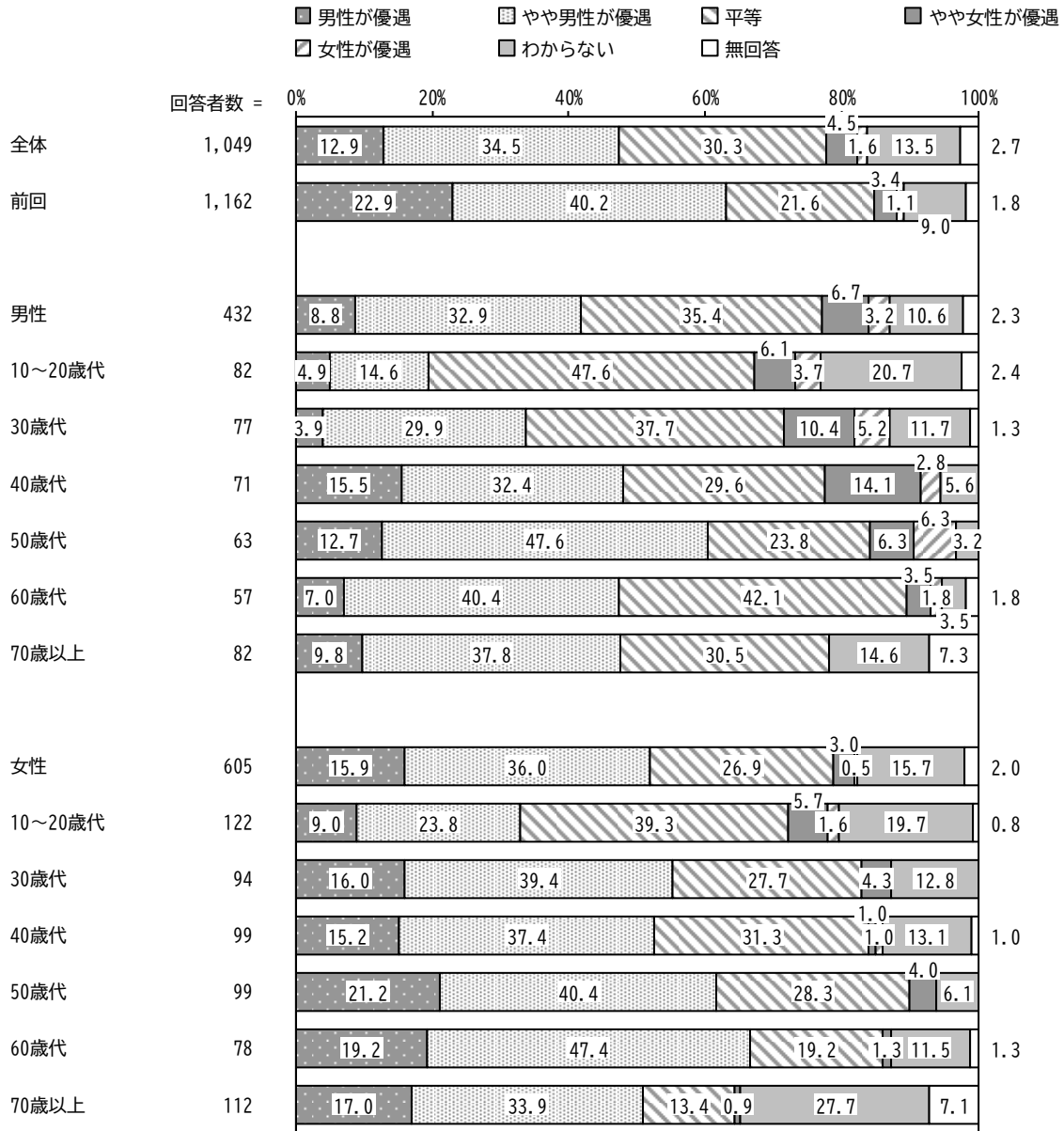


図表 13 男女の地位の平等感「学校教育で」(性別)

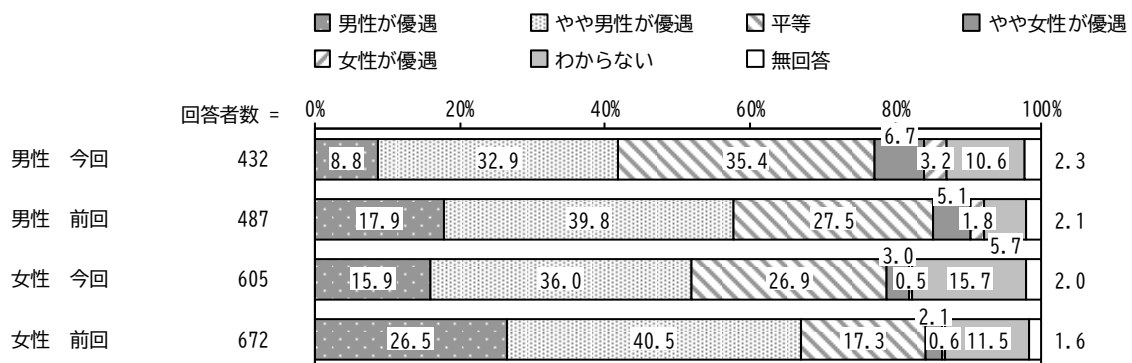


ウ. 職場で

図表 14 男女の地位の平等感「職場で」

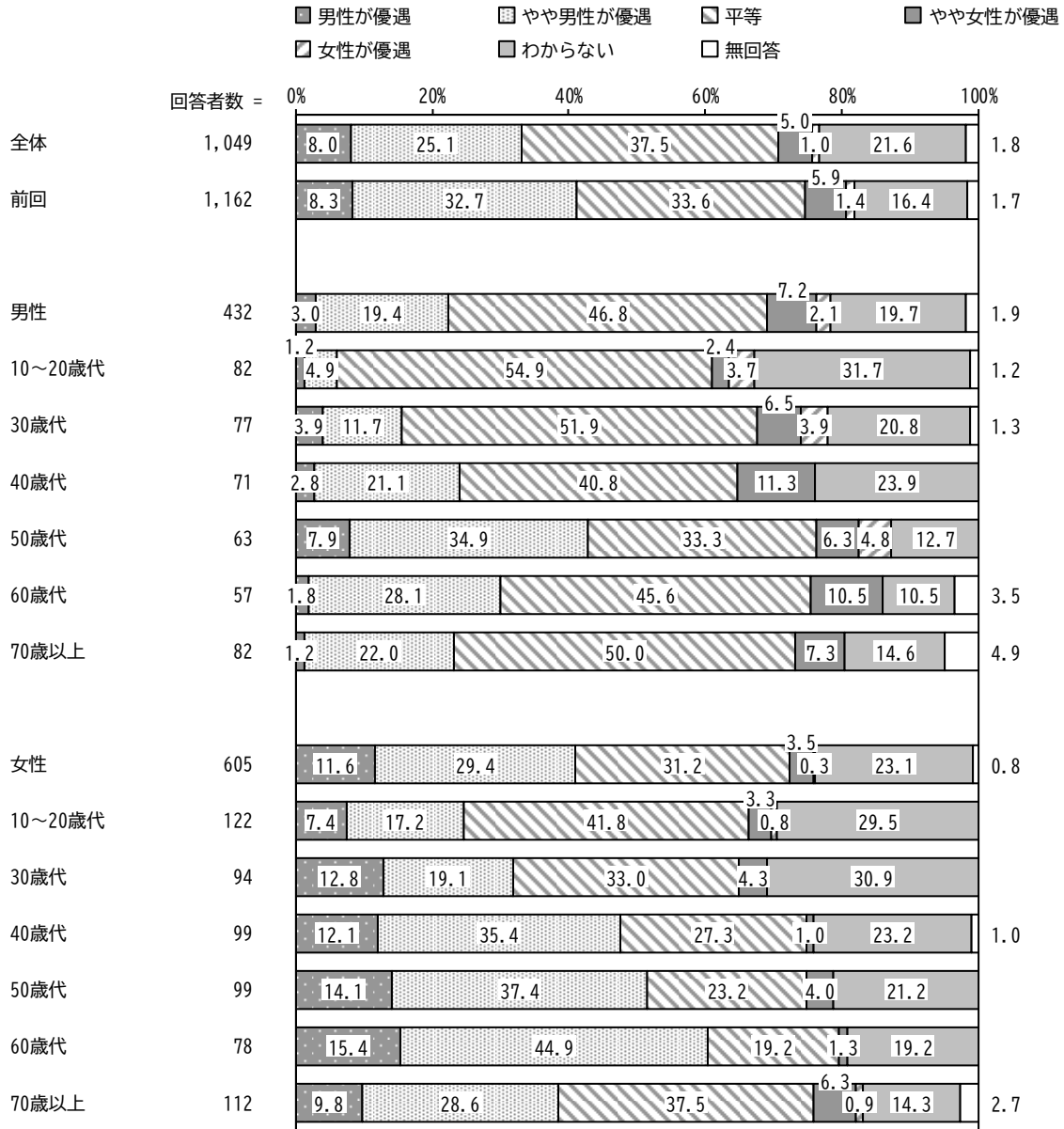


図表 15 男女の地位の平等感「職場で」(性別)

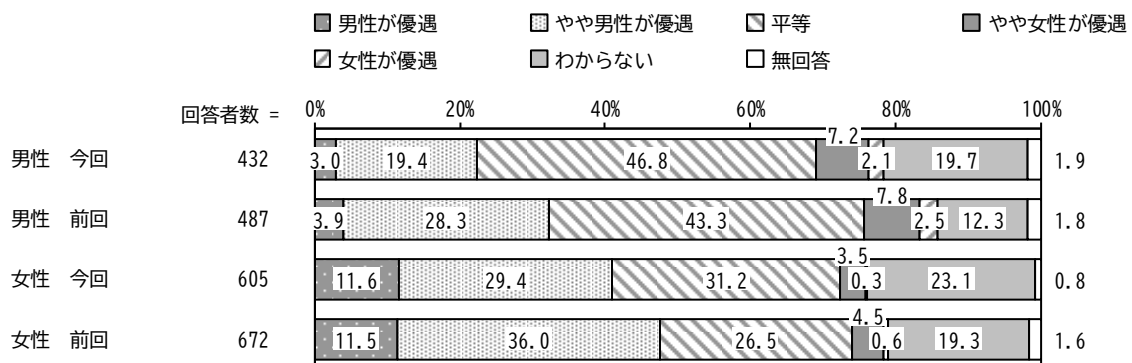


工. 地域活動で

図表 16 男女の地位の平等感「地域活動で」

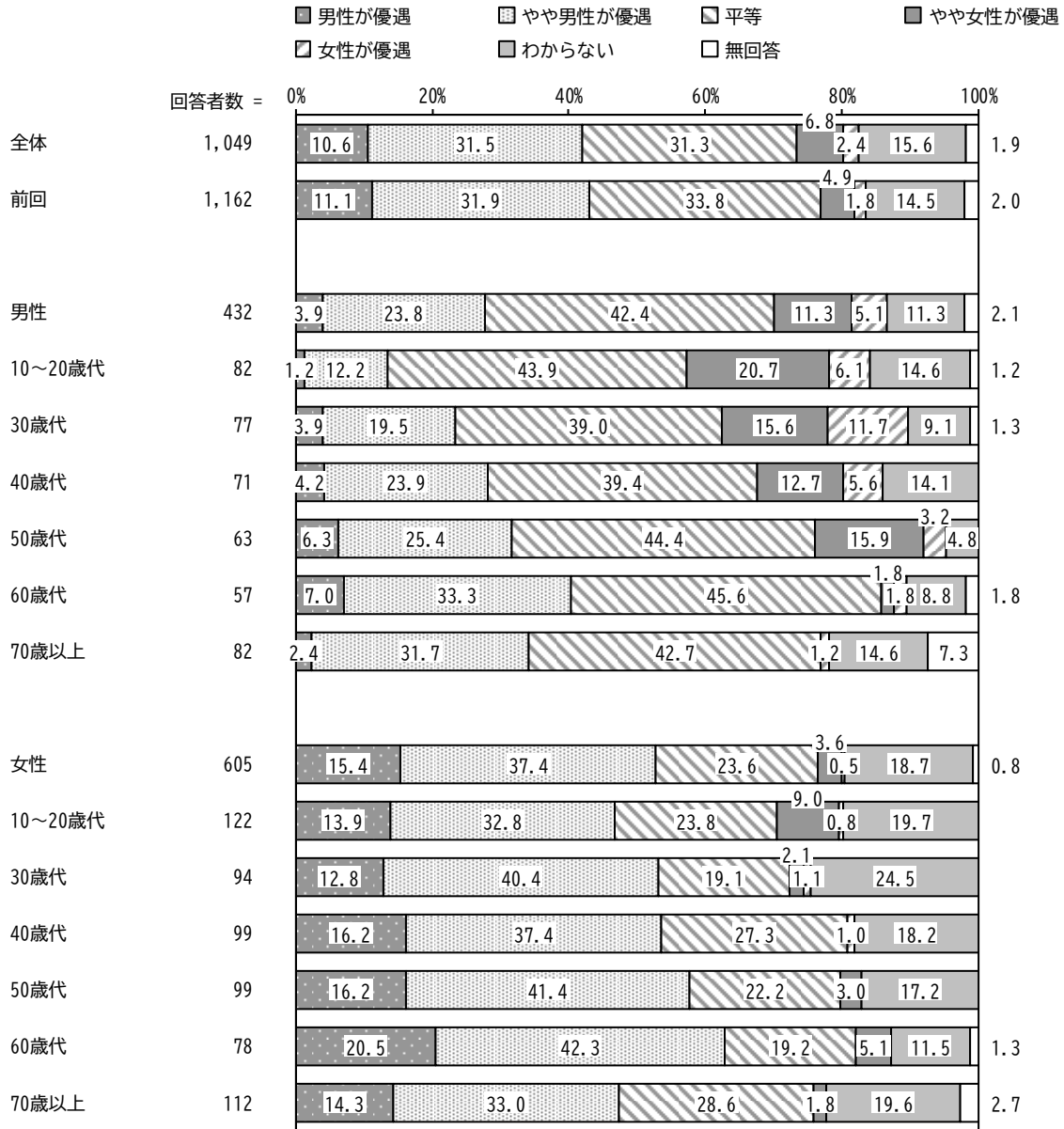


図表 17 男女の地位の平等感「地域活動で」(性別)

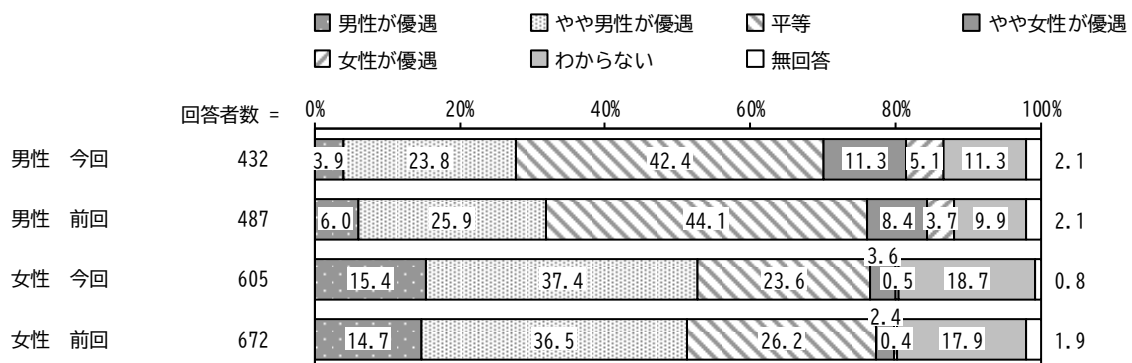


オ. 法律や制度で

図表 18 男女の地位の平等感「法律や制度で」

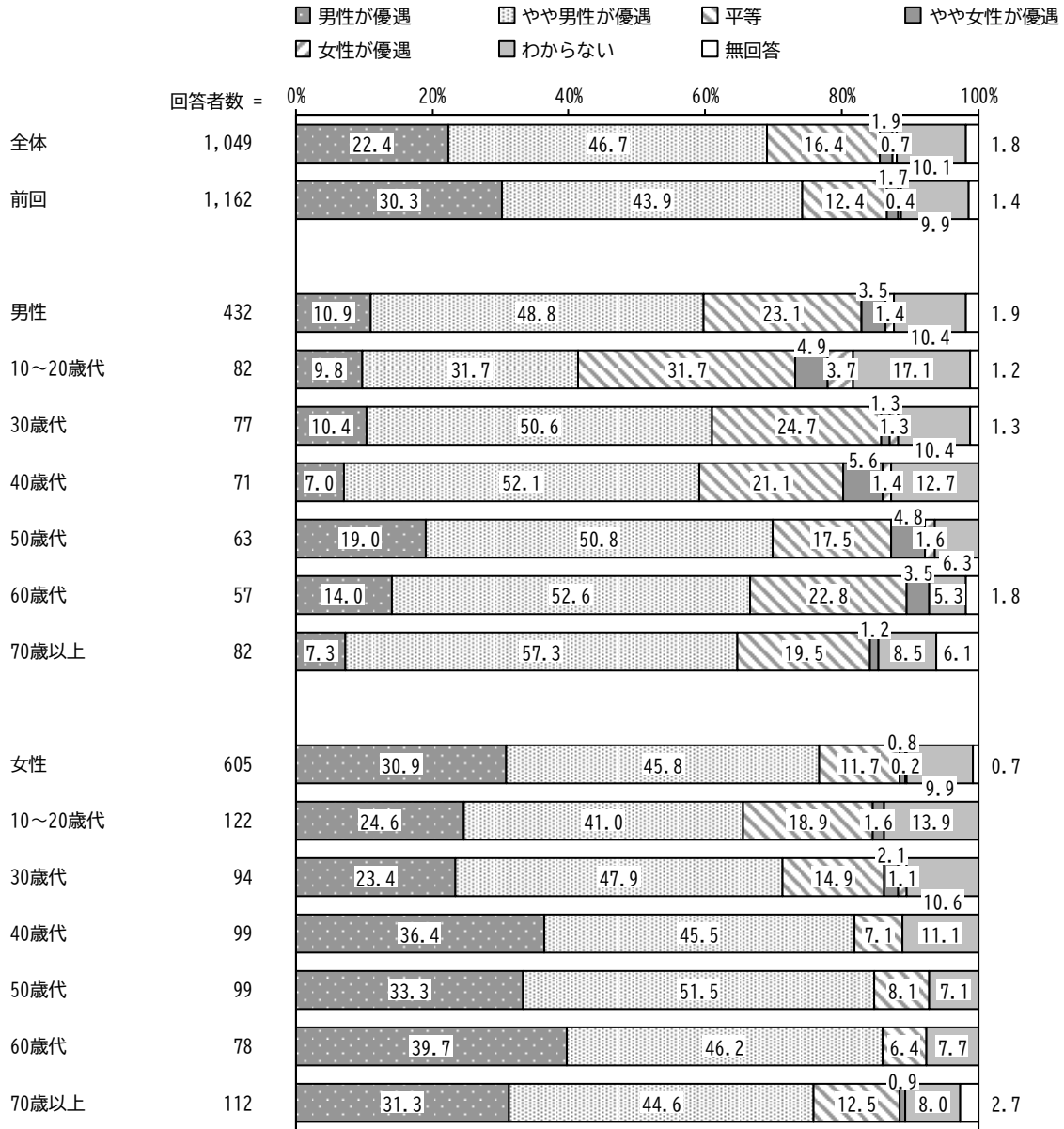


図表 19 男女の地位の平等感「法律や制度で」(性別)

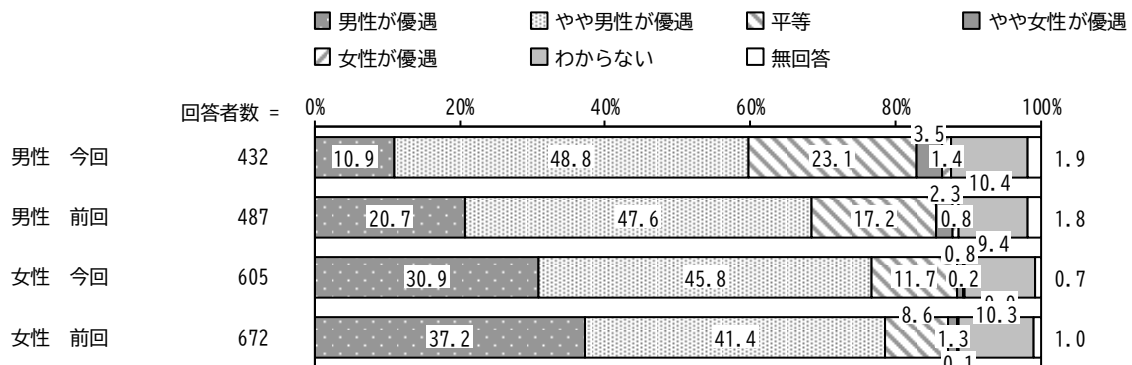


カ. 慣習・しきたりで

図表 20 男女の地位の平等感「慣習・しきたりで」

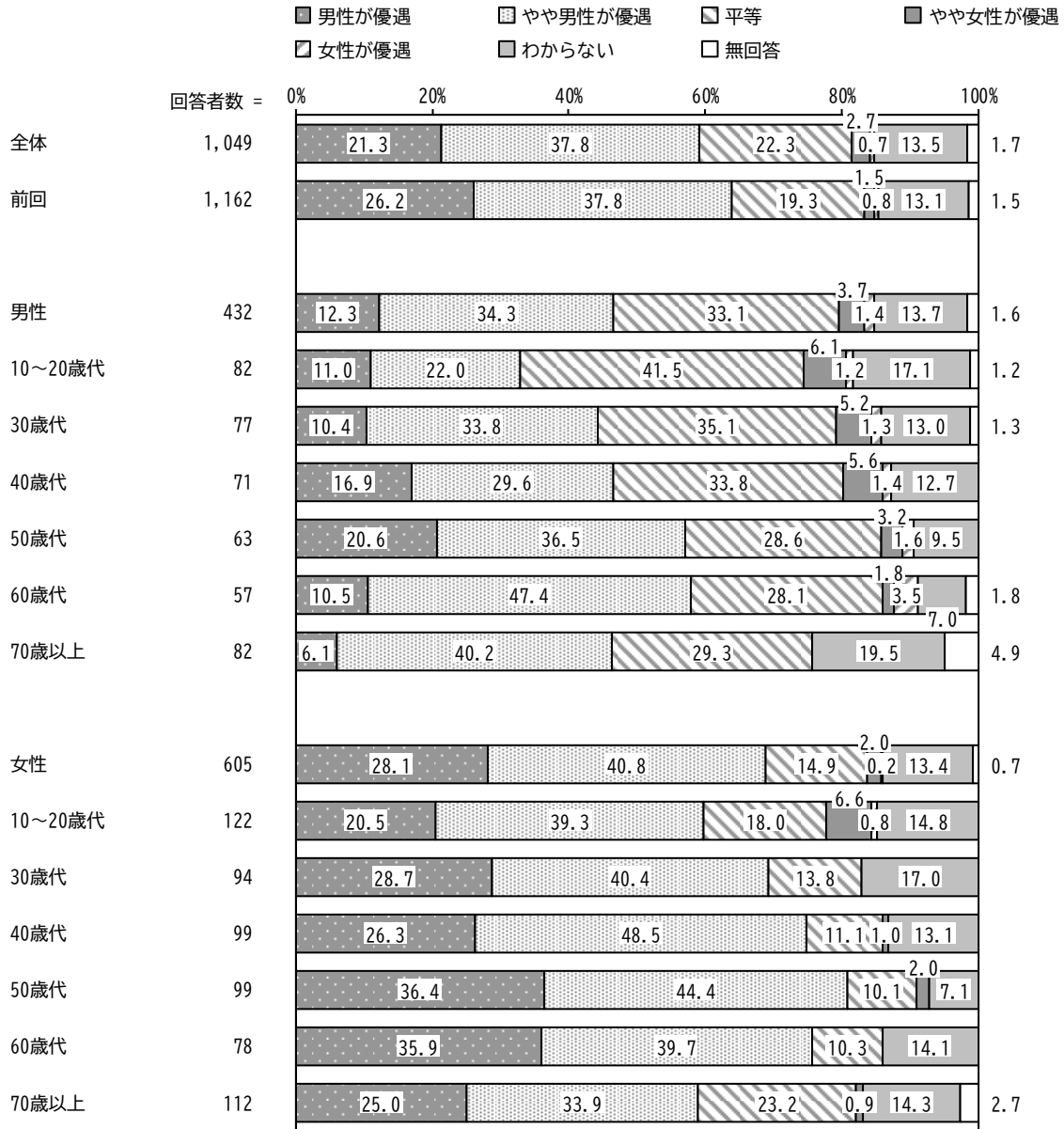


図表 21 男女の地位の平等感「慣習・しきたりで」(性別)

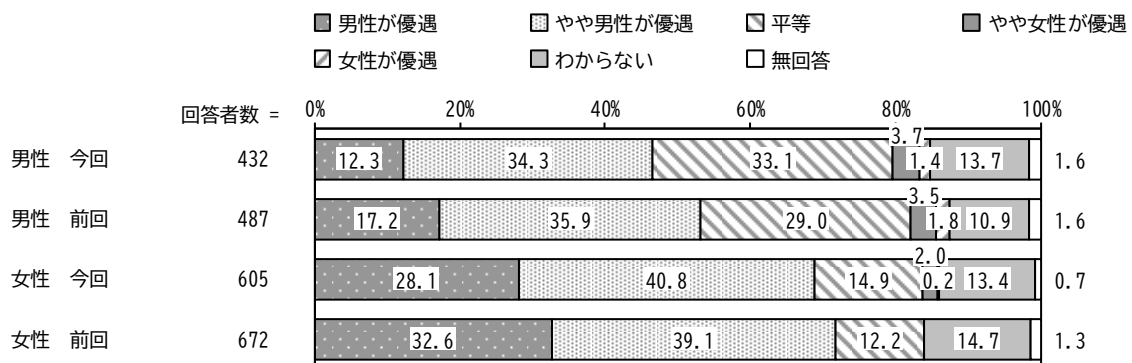


キ. 政治・政策決定で

図表 22 男女の地位の平等感「政治・政策決定で」

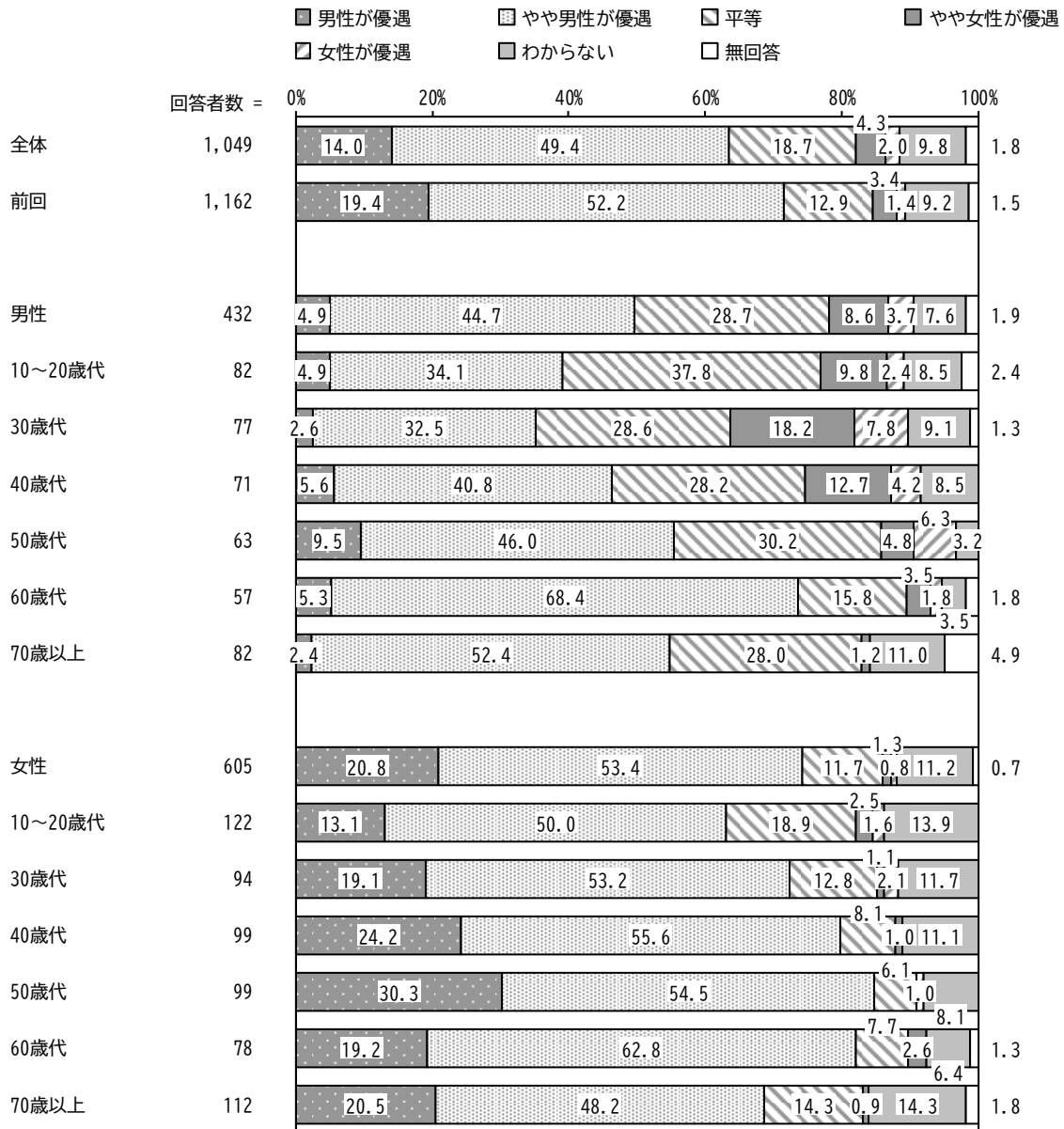


図表 23 男女の地位の平等感「政治・政策決定で」(性別)

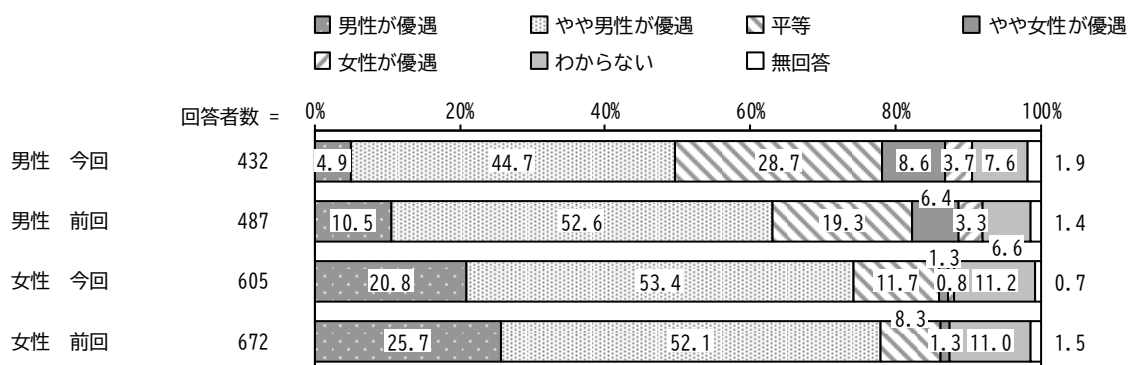


ク. 社会全体で

図表 24 男女の地位の平等感「社会全体で」



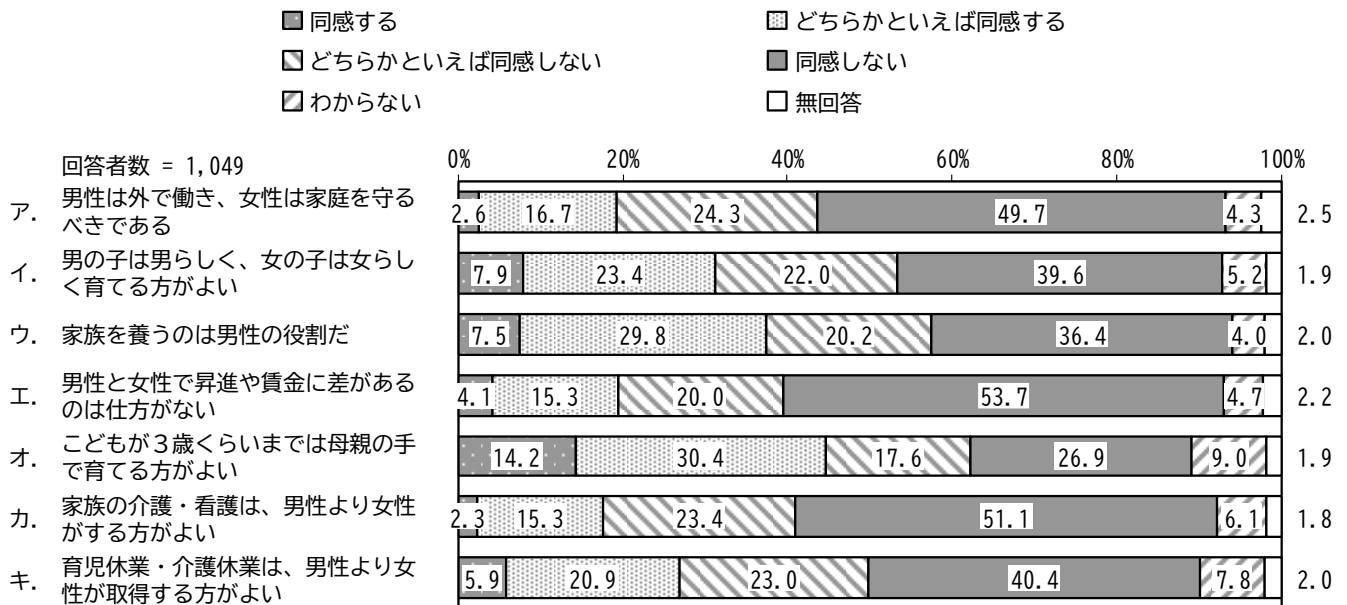
図表 25 男女の地位の平等感「社会全体で」(性別)



問8 あなたは、次のア～キのような考え方に対してどのように思いますか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『オ. こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい』で「同感する」「どちらかといえば同感する」「わからない」が、『ア. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである』で「どちらかといえば同感しない」が、『エ. 男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない』で「同感しない」が高くなっています。

図表 26 ジェンダーに関する意識



ジェンダーに関する意識について、『ア. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が 19.3%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が 74.0%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど“同感する”の割合が高い傾向にあります。また、女性 10～20 歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。

『イ. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が 31.3%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が 61.6%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど、女性では 10～20 歳代から 50 歳代まで年齢が上がるほど“同感する”の割合が高い傾向にあります。また、男性 50 歳代、男性 60 歳代で「どちらかといえば同感する」、女性 60 歳代で「どちらかといえば同感しない」、女性 10～20 歳代で「同感しない」の割合が高くなっています。

『ウ. 家族を養うのは男性の役割だ』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が 37.3%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が 56.6%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では 40 歳代から 70 歳以上まで年齢が上がるほど“同感する”の割合が高くなっています。また、女性 10～20 歳代、女性 60 歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。

『エ. 男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が 19.4%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が 73.7%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感する”の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では 10～20 歳代から 50 歳代まで年齢が上がるほど、女性では 70 歳以上から 40 歳代まで年齢が下がるほど“同感しない”の割合が高くなっています。また、男性 60 歳代、男性 70 歳以上で「どちらかといえば同感する」、男性 70 歳以上で「どちらかといえば同感しない」、女性 10～20 歳代で「同感しない」の割合が高くなっています。

『オ. こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が44.6%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が44.5%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感する”の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるほど“同感する”の割合が高い傾向にあります。また、男性50歳代、女性70歳以上で「同感する」、男性60歳代、男性70歳以上で「どちらかといえば同感する」、女性10～20歳代で「同感しない」の割合が高くなっています。

『カ. 家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が17.6%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が74.5%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男女ともに70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど“同感しない”の割合が高くなっています。また、男性50歳代、男性60歳代、男性70歳以上で「どちらかといえば同感する」、女性30歳代で「同感しない」の割合が高くなっています。

『キ. 育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい』では、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた“同感する”の割合が26.8%、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」を合わせた“同感しない”の割合が63.4%となっています。

前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

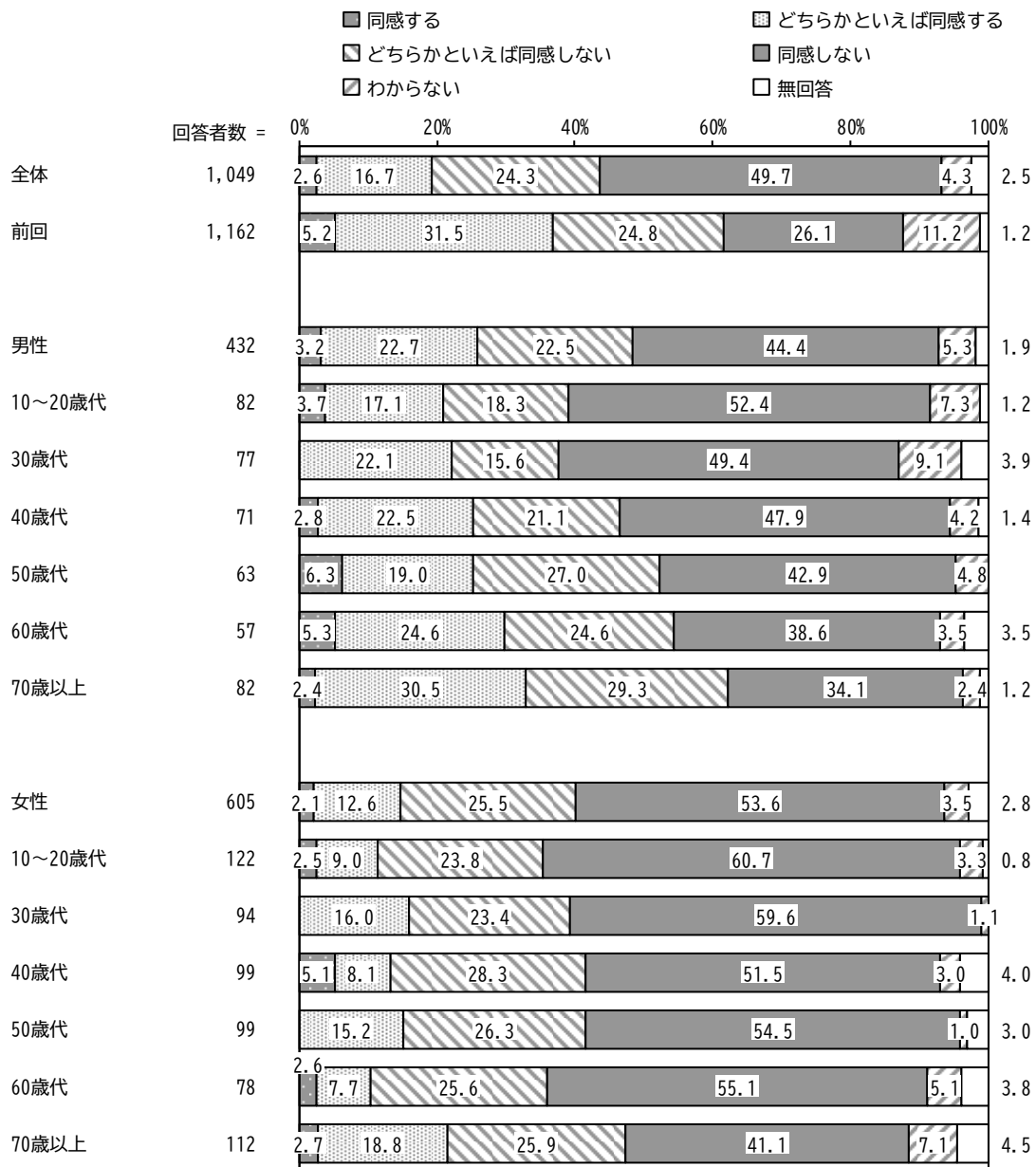
男性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

女性の前回と比較すると、“同感しない”の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“同感する”の割合が高くなっています。また、女性40歳代で“同感しない”の割合が高くなっています。

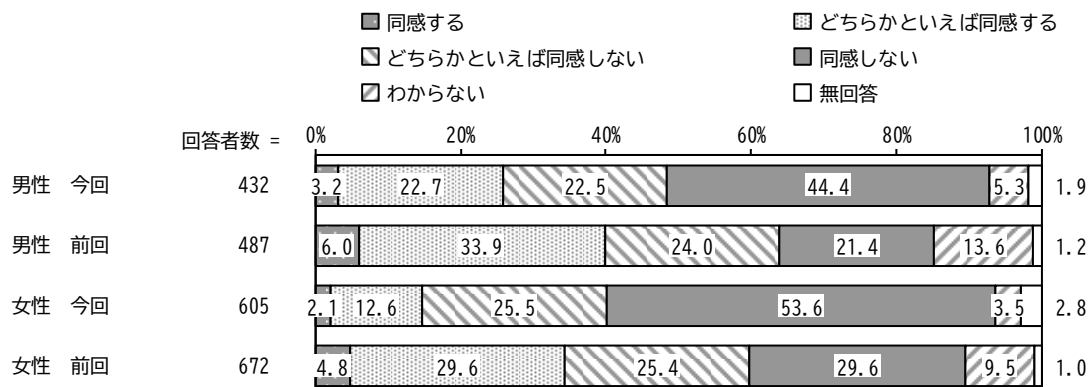
ア. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである

図表 27 ジェンダーに関する意識「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」



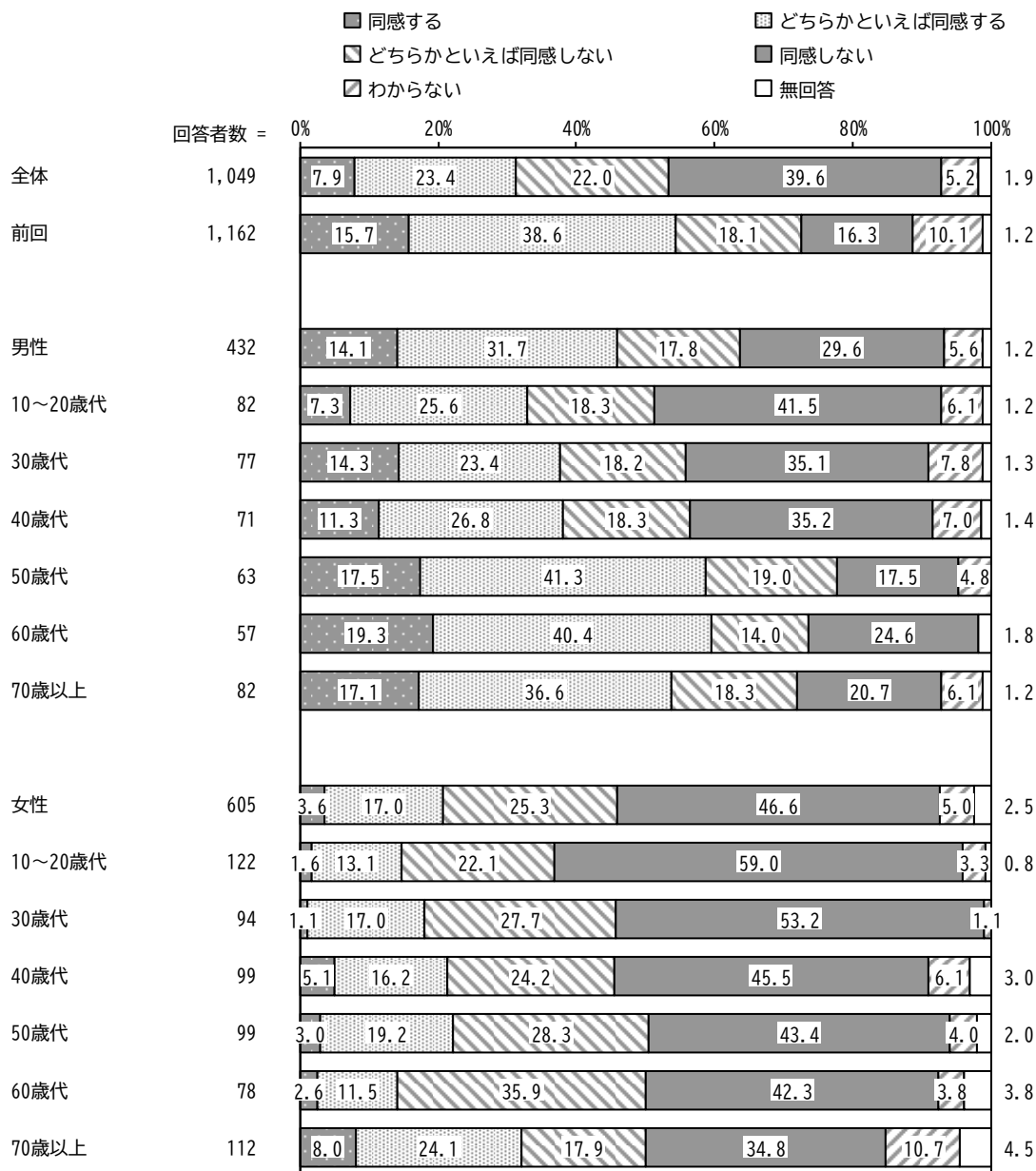
※前回調査の選択肢では、「同感する」が「賛成」、「どちらかといえば同感する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同感しない」が「どちらかといえば反対」、「同感しない」が「反対」となっていました。

図表 28 ジェンダーに関する意識「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」(性別)



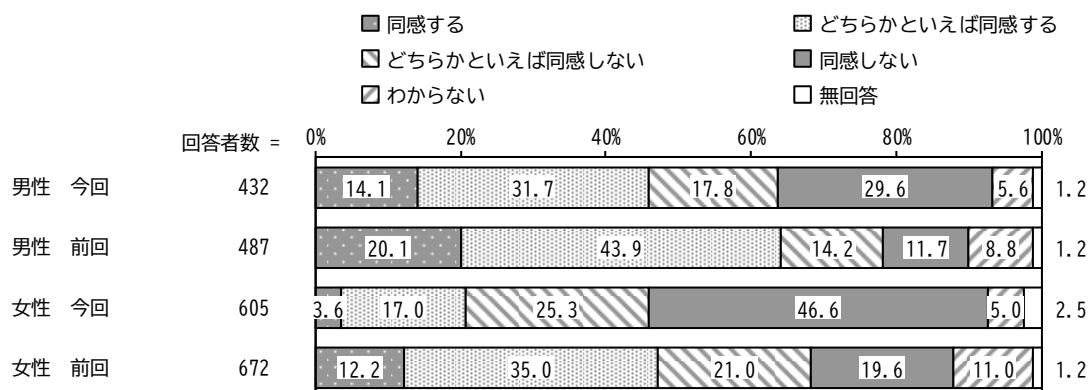
# イ. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

図表 29 ジェンダーに関する意識「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」



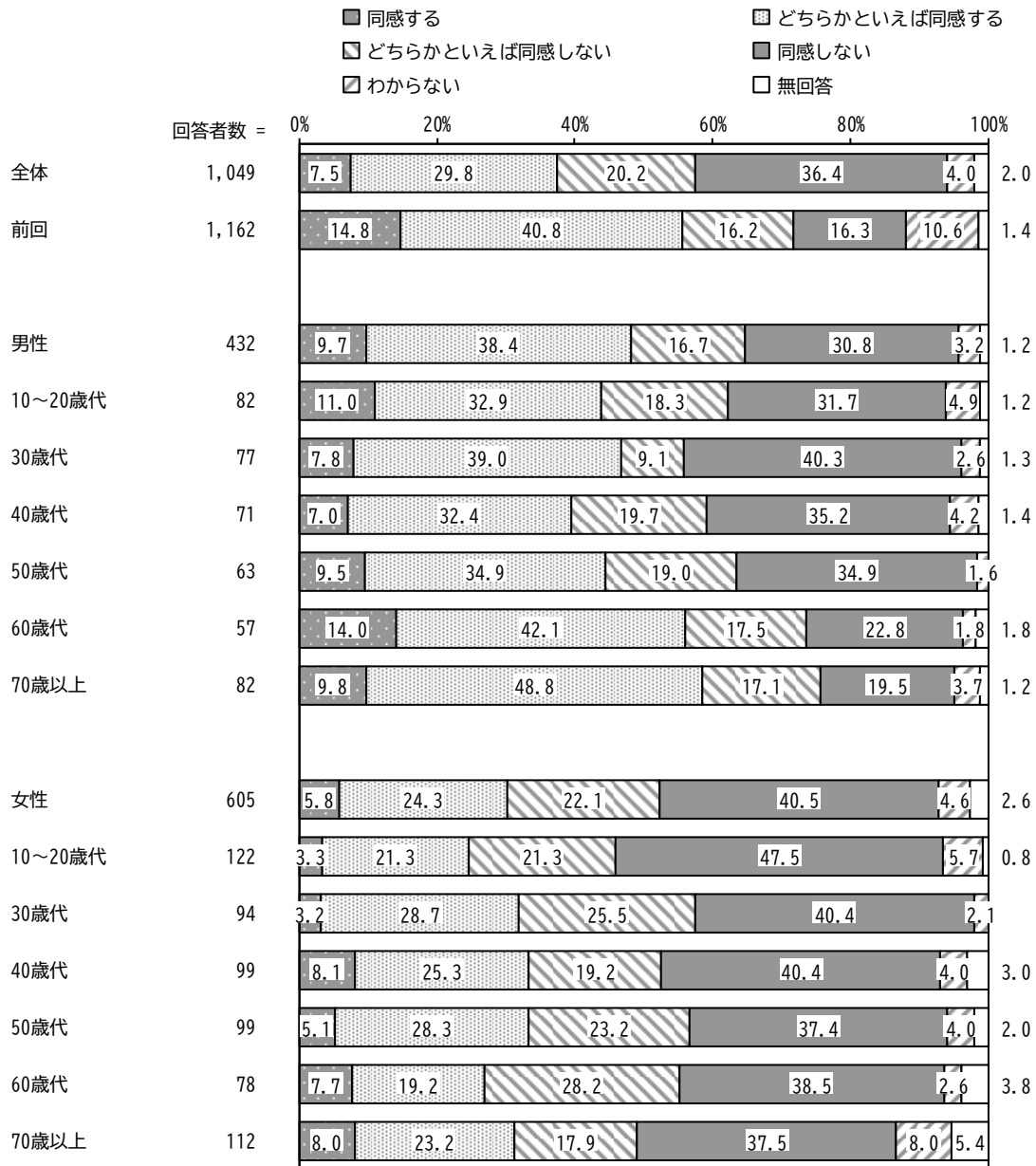
※前回調査の選択肢では、「同感する」が「賛成」、「どちらかといえば同感する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同感しない」が「どちらかといえば反対」、「同感しない」が「反対」となっていました。

図表 30 ジェンダーに関する意識「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」(性別)



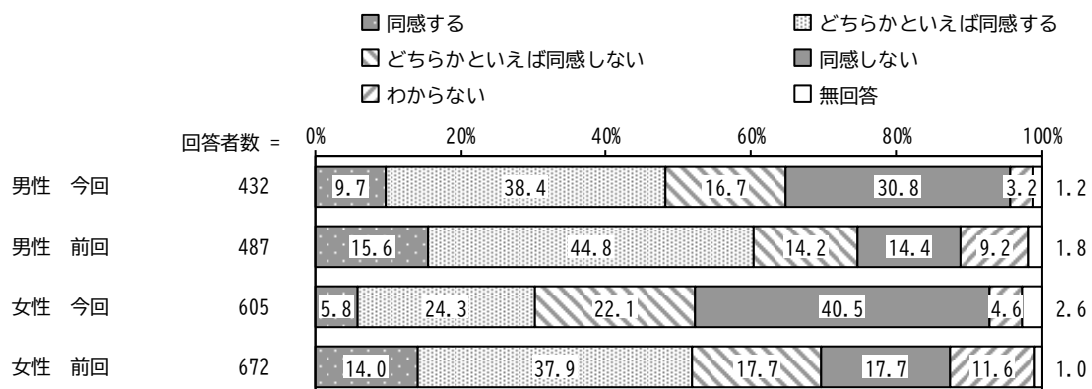
## ウ. 家族を養うのは男性の役割だ

図表 31 ジェンダーに関する意識「家族を養うのは男性の役割だ」



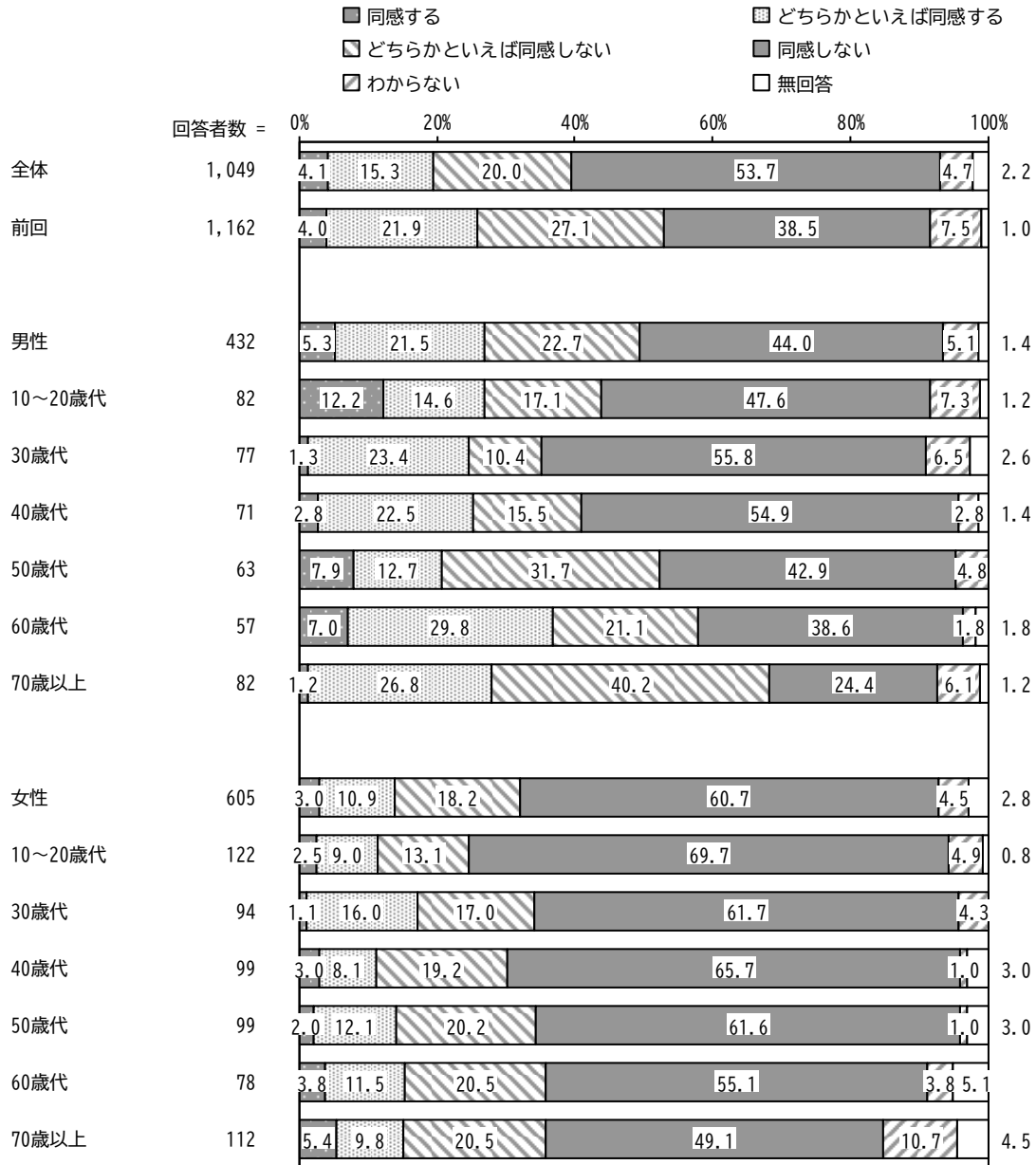
※前回調査の選択肢では、「同意する」が「賛成」、「どちらかといえば同意する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同意しない」が「どちらかといえば反対」、「同意しない」が「反対」となっていました。

図表 32 ジェンダーに関する意識「家族を養うのは男性の役割だ」(性別)



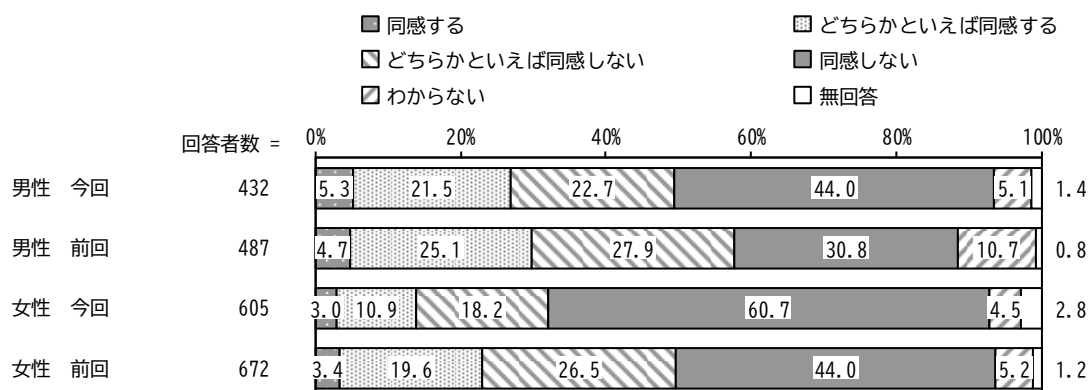
工. 男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない

図表 33 ジェンダーに関する意識「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない」



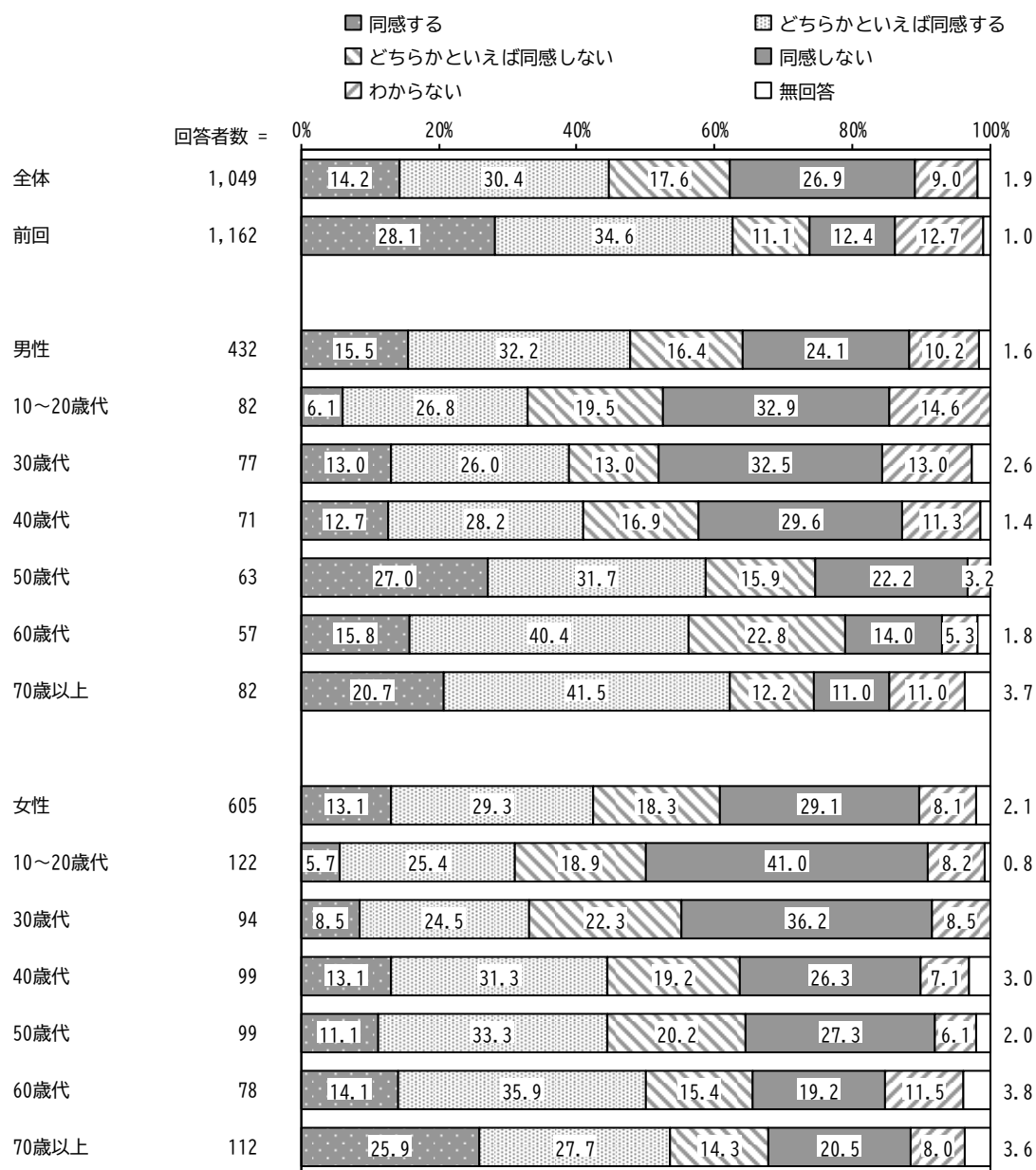
※前回調査の選択肢では、「同感する」が「賛成」、「どちらかといえば同感する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同感しない」が「どちらかといえば反対」、「同感しない」が「反対」となっていました。

図表 34 ジェンダーに関する意識「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない」(性別)



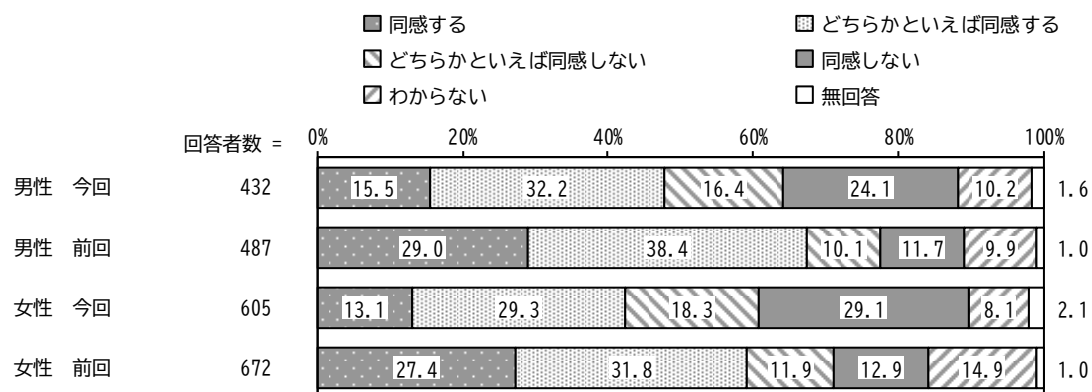
## オ. こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい

図表 35 ジェンダーに関する意識「こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」



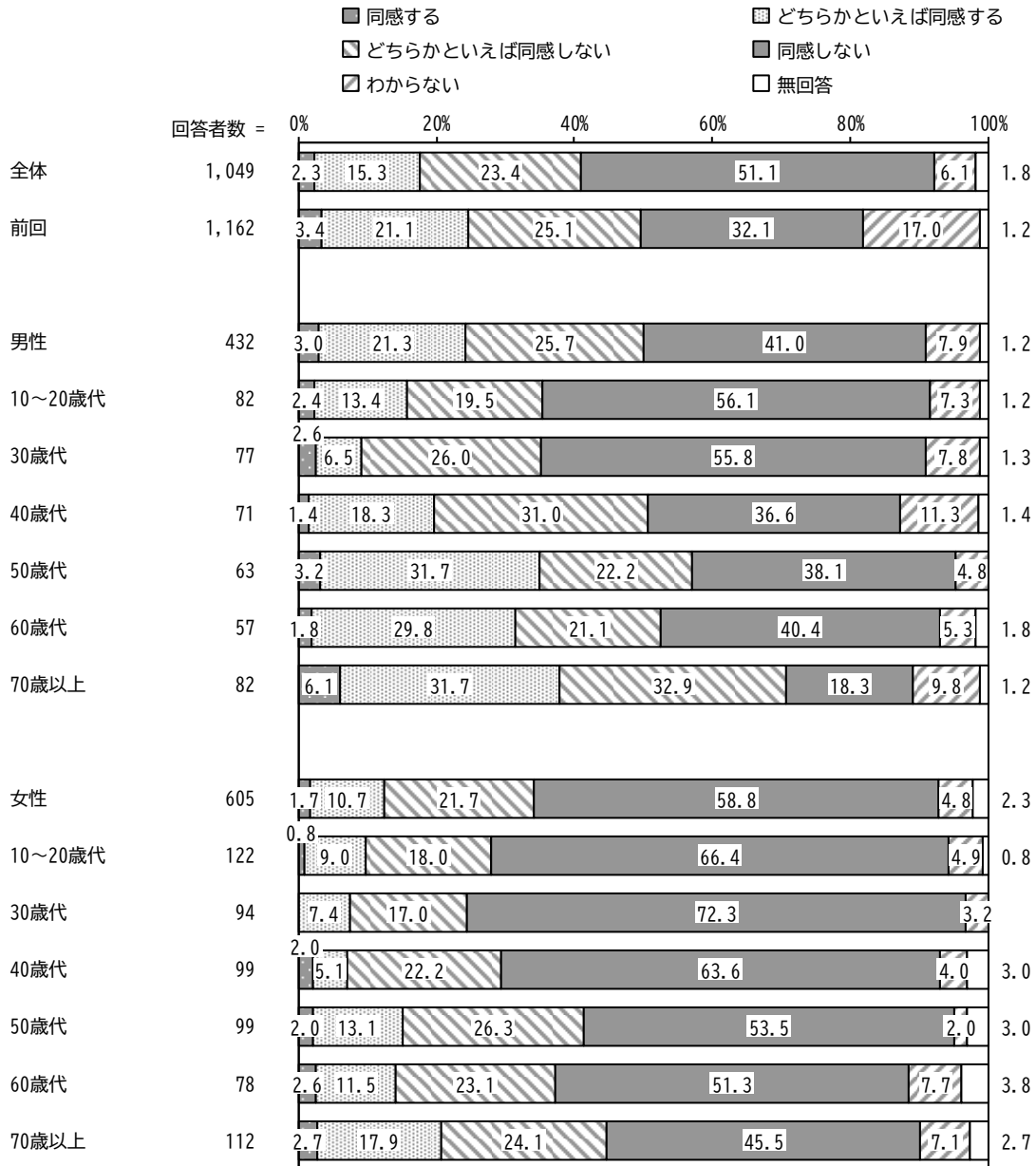
※前回調査の選択肢では、「同意する」が「賛成」、「どちらかといえば同意する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同意しない」が「どちらかといえば反対」、「同意しない」が「反対」となっていました。

図表 36 ジェンダーに関する意識「こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」(性別)



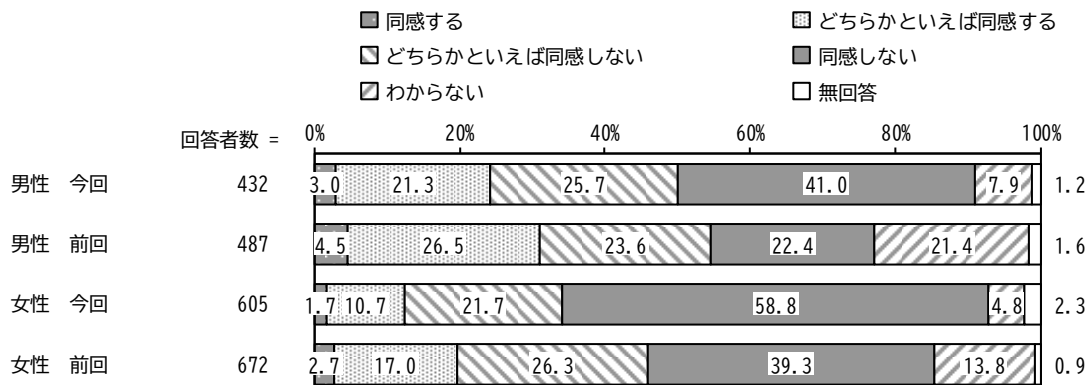
カ. 家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい

図表 37 ジェンダーに関する意識「家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい」



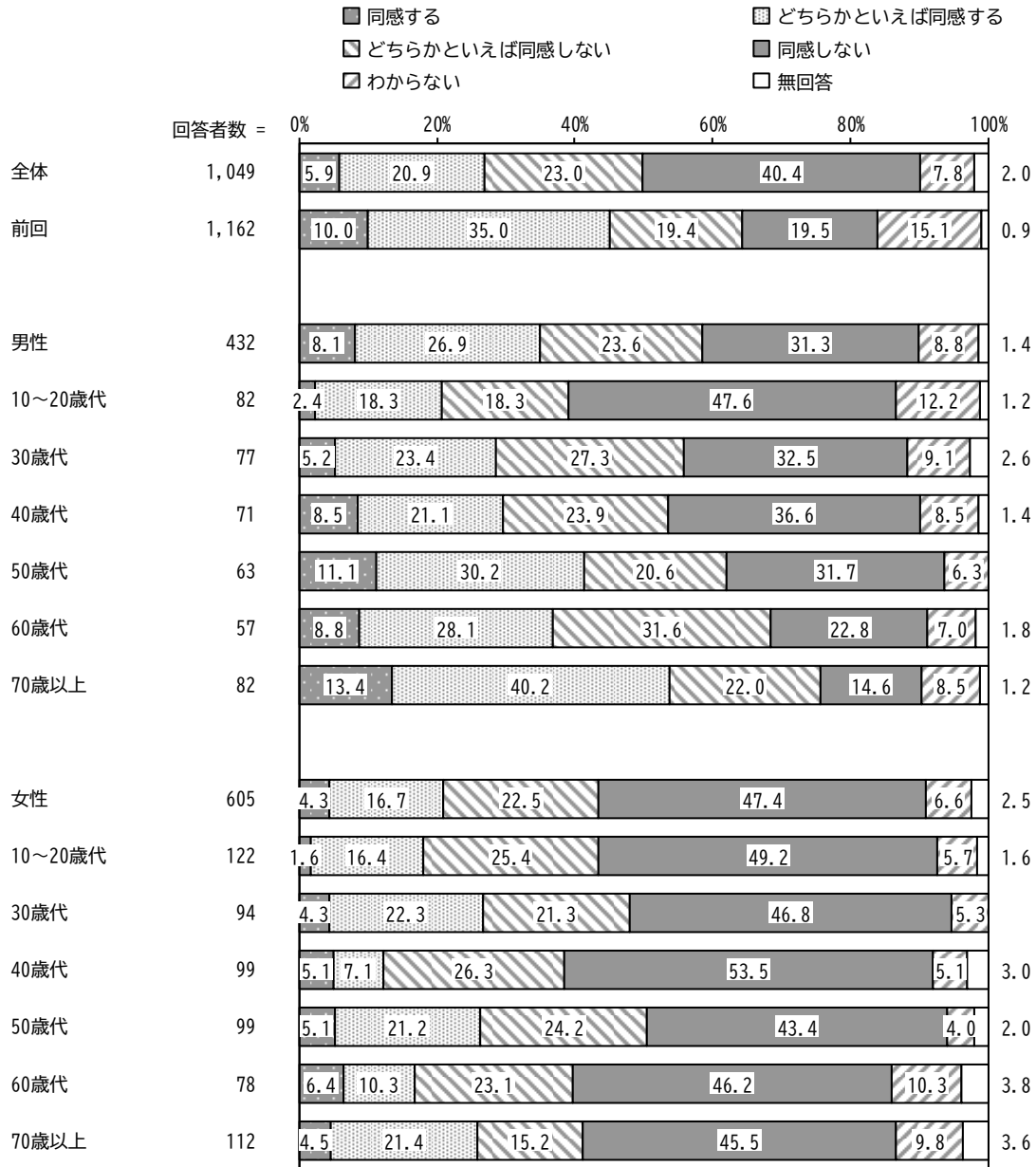
※前回調査の選択肢では、「同意する」が「賛成」、「どちらかといえば同意する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同意しない」が「どちらかといえば反対」、「同意しない」が「反対」となっていました。

図表 38 ジェンダーに関する意識「家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい」(性別)



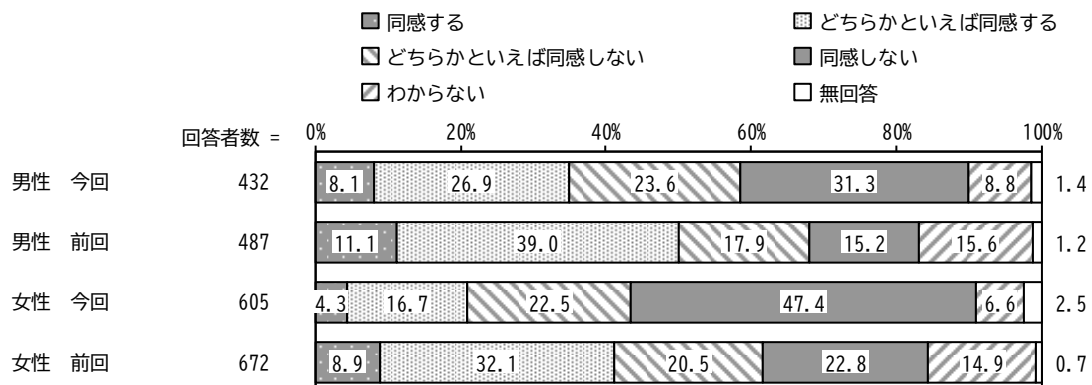
キ. 育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい

図表 39 ジェンダーに関する意識「育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい」



※前回調査の選択肢では、「同感する」が「賛成」、「どちらかといえば同感する」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば同感しない」が「どちらかといえば反対」、「同感しない」が「反対」となっていました。

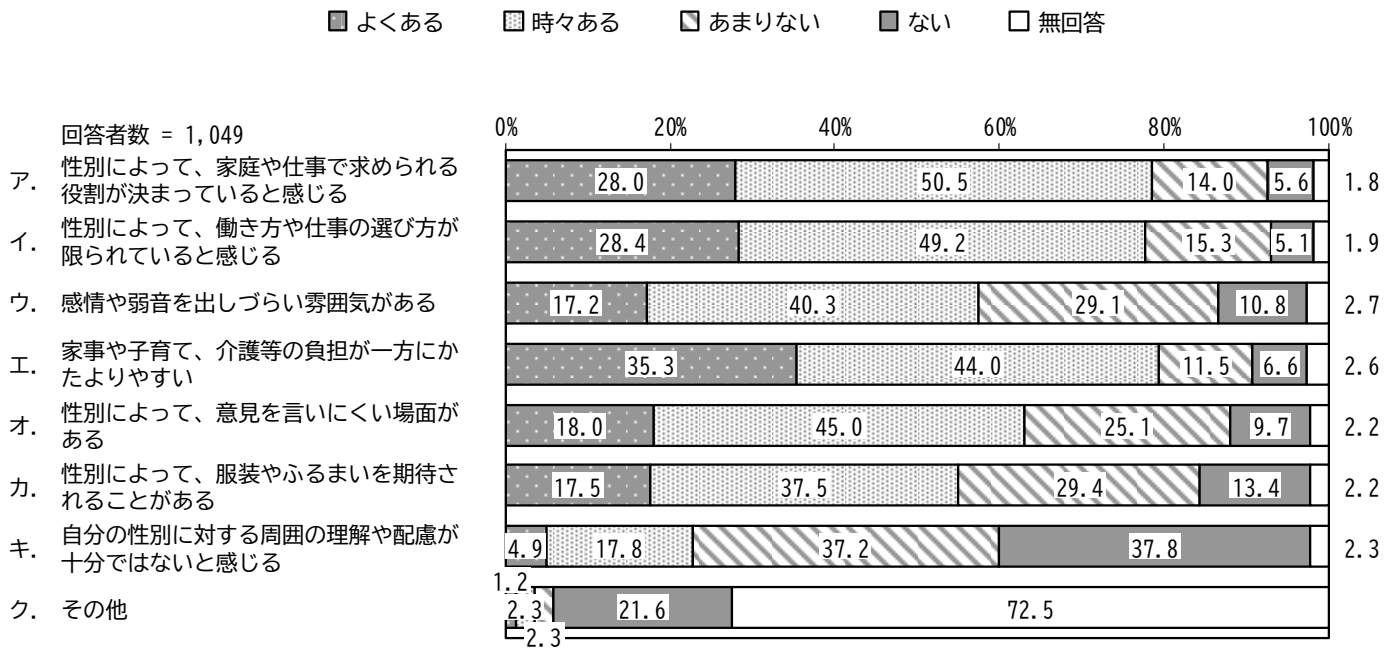
図表 40 ジェンダーに関する意識「育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい」(性別)



問9 あなたは、次のような「性別によって感じる生きづらさ」や「社会の期待」をどのくらい感じるでしょうか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『エ. 家事や子育て、介護等の負担が一方にかたよりやすい』で「よくある」が、『ア. 性別によって、家庭や仕事で求められる役割が決まっていると感じる』で「時々ある」が、『キ. 自分の性別に対する周囲の理解や配慮が十分ではないと感じる』で「あまりない」「ない」が高くなっています。

図表 41 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか

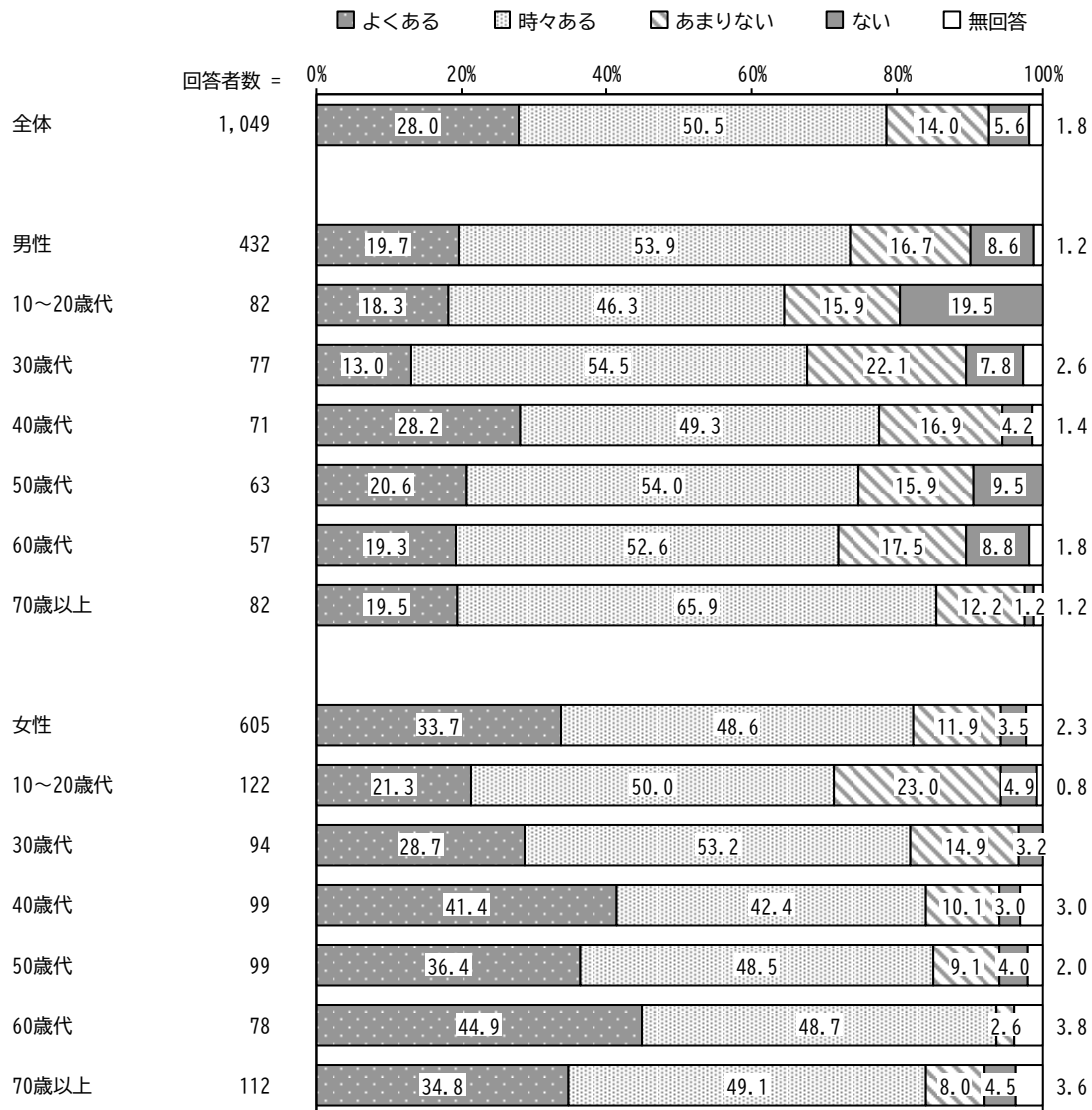


ア. 性別によって、家庭や仕事で求められる役割が決まっていると感じる

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が78.5%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が19.6%となっています。

性・年齢別にみると、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“ある”の割合が高くなっています。また、男性10～20歳代で“ない”の割合が高くなっています。

図表 42 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「性別によって、家庭や仕事で求められる役割が決まっていると感じる」

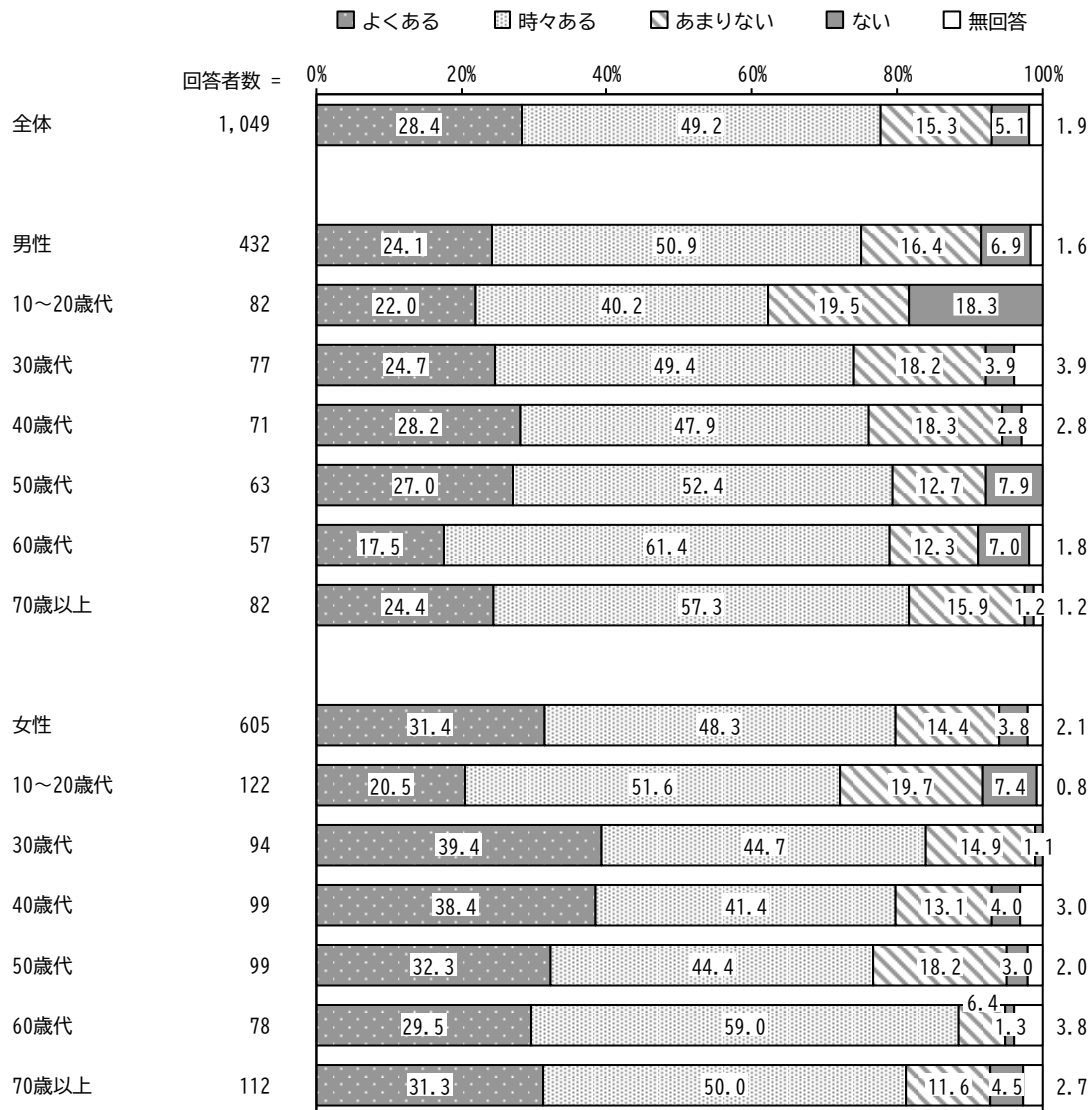


### イ. 性別によって、働き方や仕事の選び方が限られていると感じる

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が77.6%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が20.4%となっています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど“ある”の割合が高い傾向にあります。また、女性30歳代、女性40歳代で「よくある」の割合が高くなっています。

図表 43 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「性別によって、働き方や仕事の選び方が限られていると感じる」

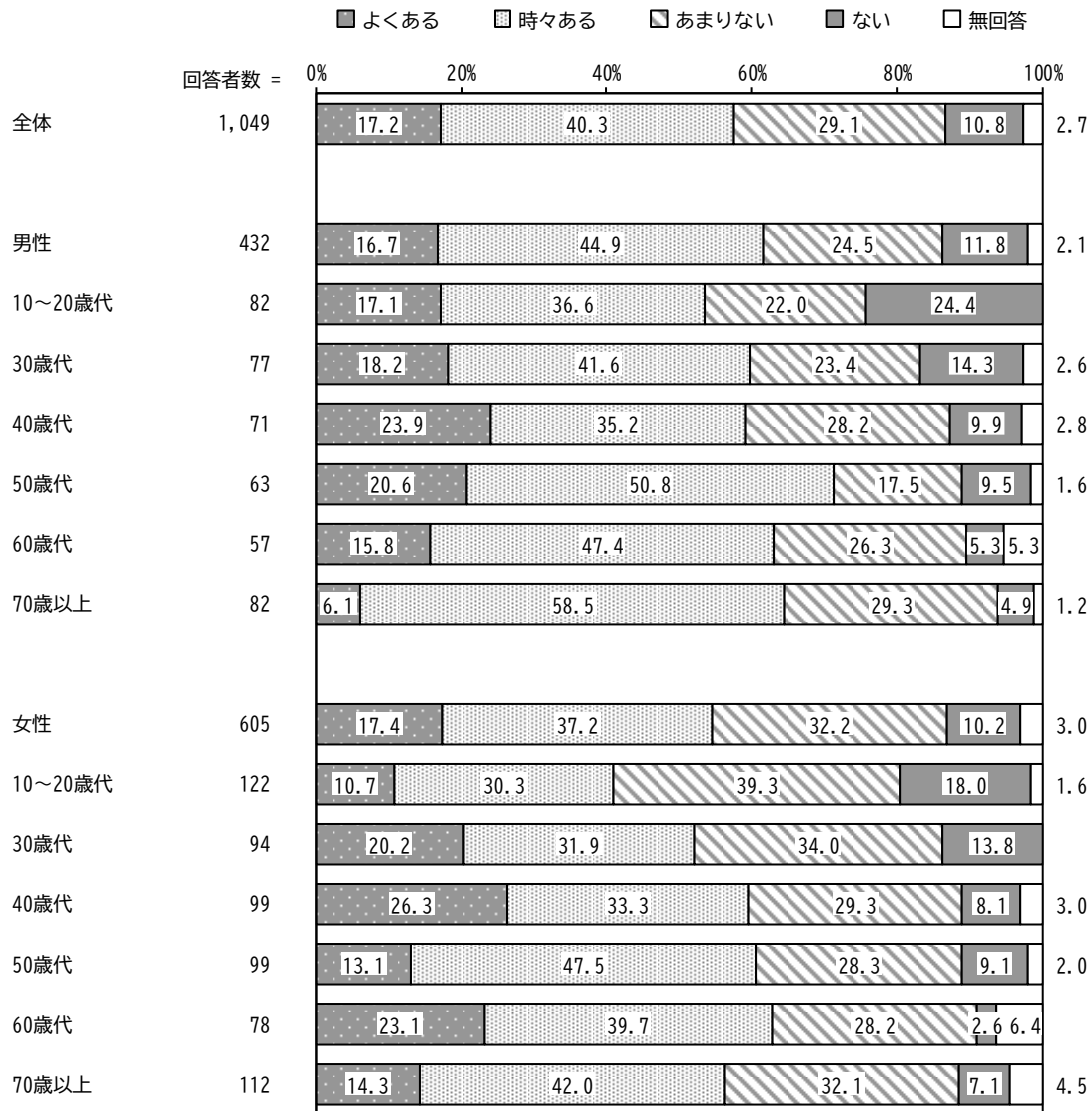


ウ. 感情や弱音を出しづらい雰囲気がある

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が57.5%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が39.9%となっています。

性・年齢別にみると、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“ある”の割合が高くなっています。また、男性70歳以上で「時々ある」、男性10～20歳代で「ない」の割合が高くなっています。

図表 44 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「感情や弱音を出しづらい雰囲気がある」

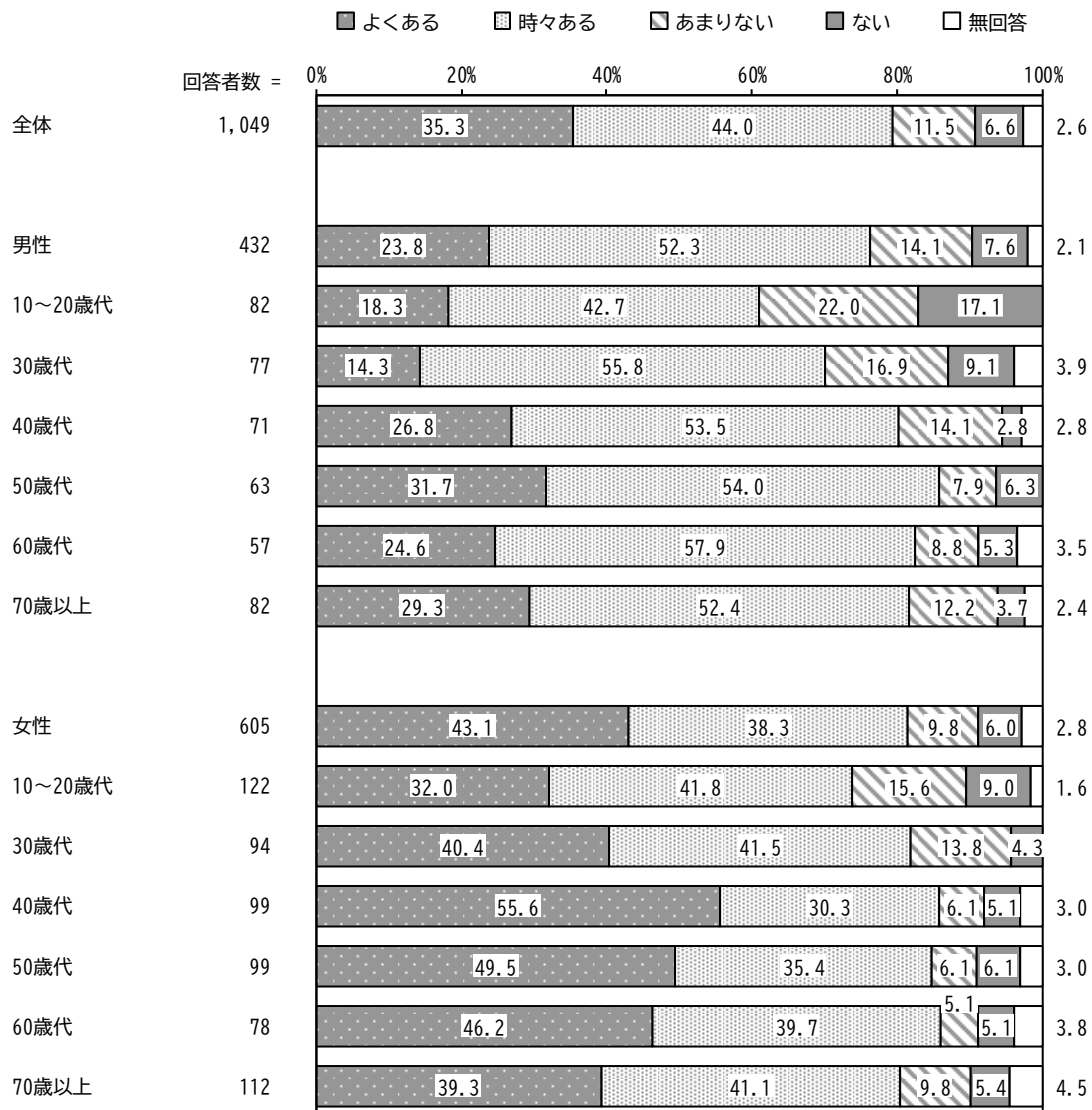


## エ. 家事や子育て、介護等の負担が一方にかたよりやすい

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が79.3%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が18.1%となっています。

性・年齢別にみると、男女ともに60歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど“ない”の割合が高くなっています。また、女性40歳代で「よくある」、男性30歳代、男性60歳代で「時々ある」、男性10～20歳代で「あまりない」の割合が高くなっています。

図表 45 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「家事や子育て、介護等の負担が一方にかたよりやすい」

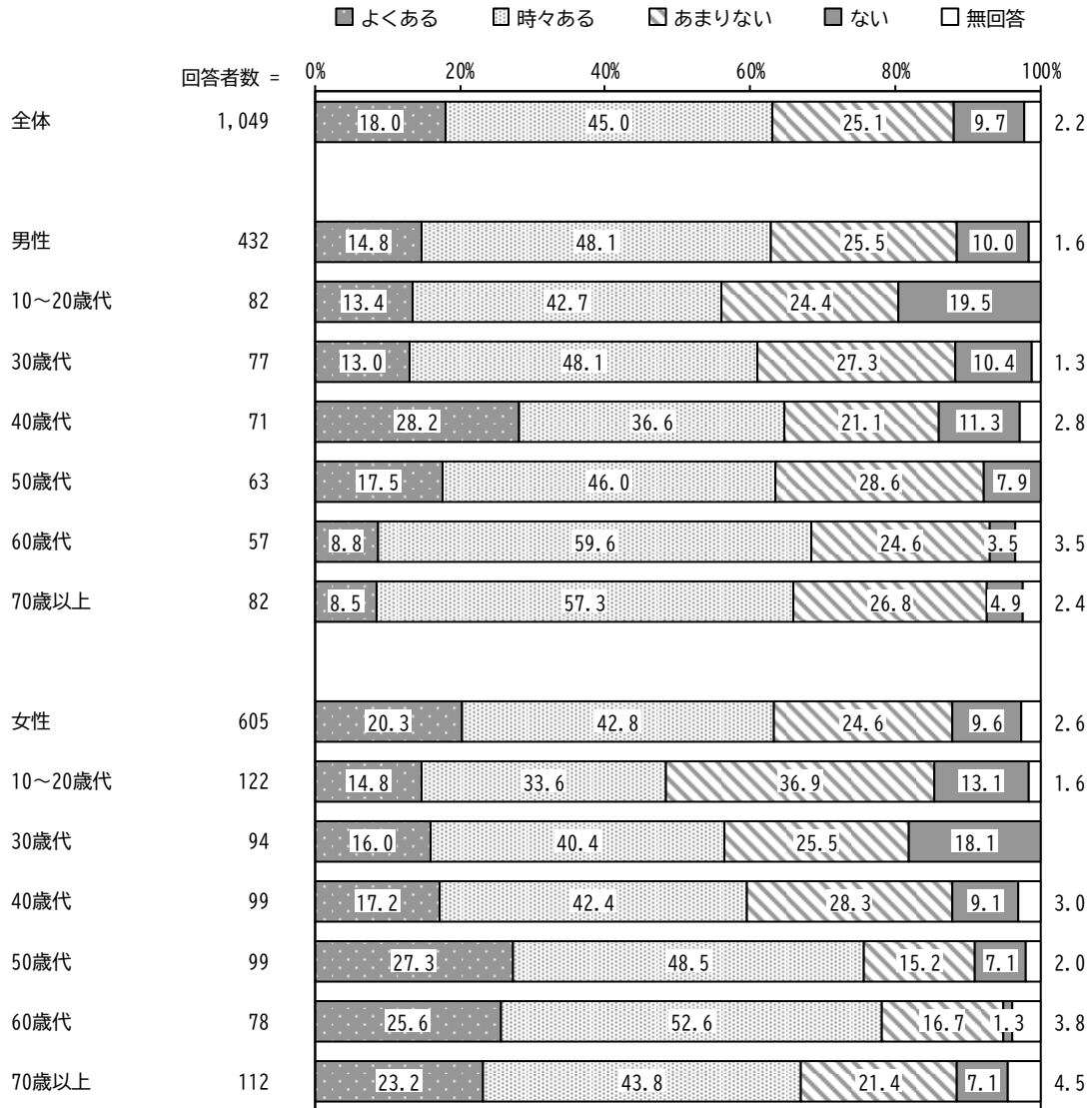


オ. 性別によって、意見を言いにくい場面がある

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が63.0%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が34.8%となっています。

性・年齢別にみると、男女ともに10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど“ある”の割合が高くなっています。また、男性40歳代で「よくある」、男性60歳代、男性70歳以上で「時々ある」、女性10～20歳代で「あまりない」の割合が高くなっています。

図表 46 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「性別によって、意見を言いにくい場面がある」

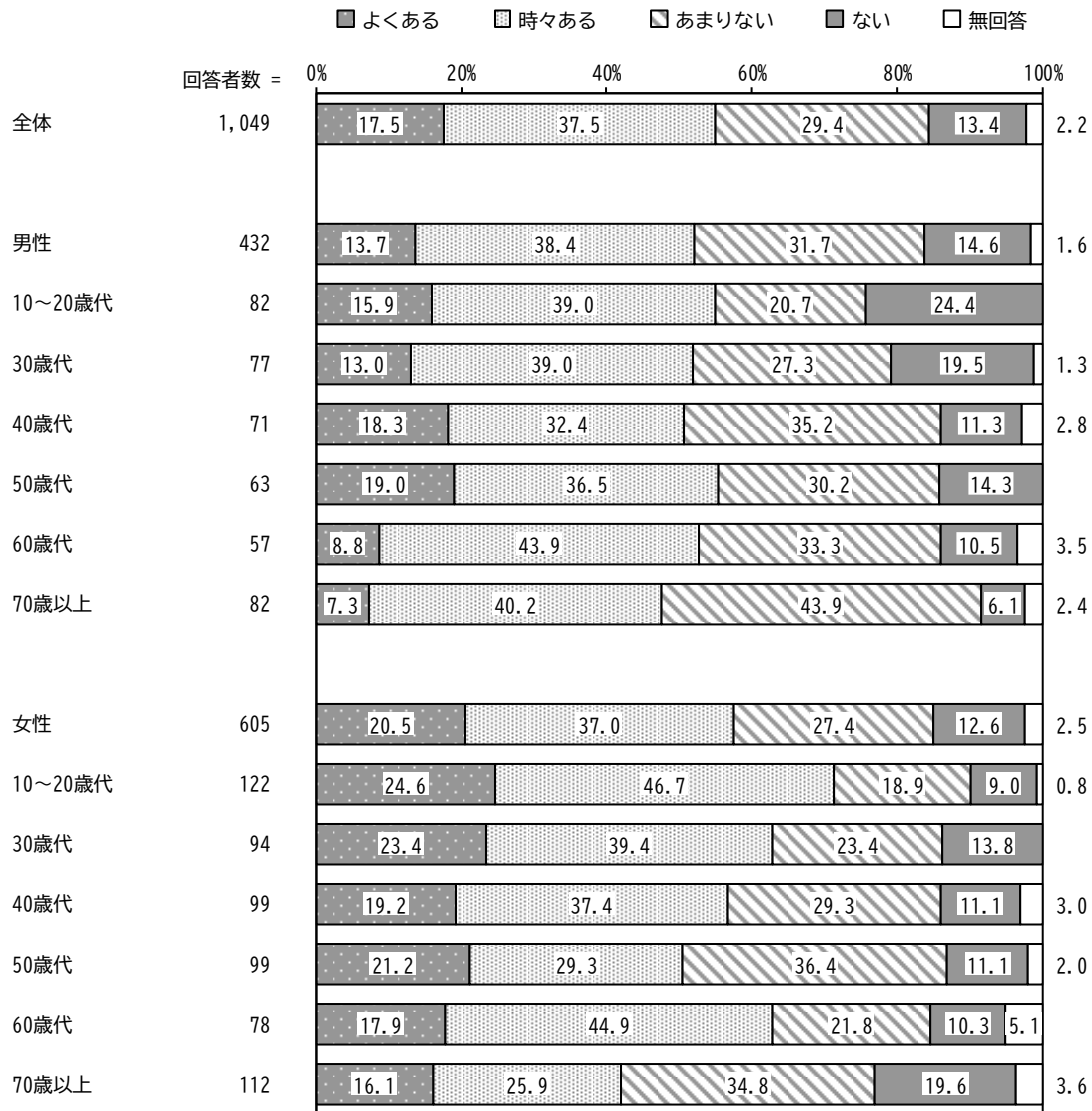


カ. 性別によって、服装やふるまいを期待されることがある

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が55.0%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が42.8%となっています。

性・年齢別にみると、女性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど“ない”の割合が高くなっています。また、男性70歳以上で「あまりない」、男性10～20歳代で「ない」の割合が高くなっています。

図表 47 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「性別によって、服装やふるまいを期待されることがある」

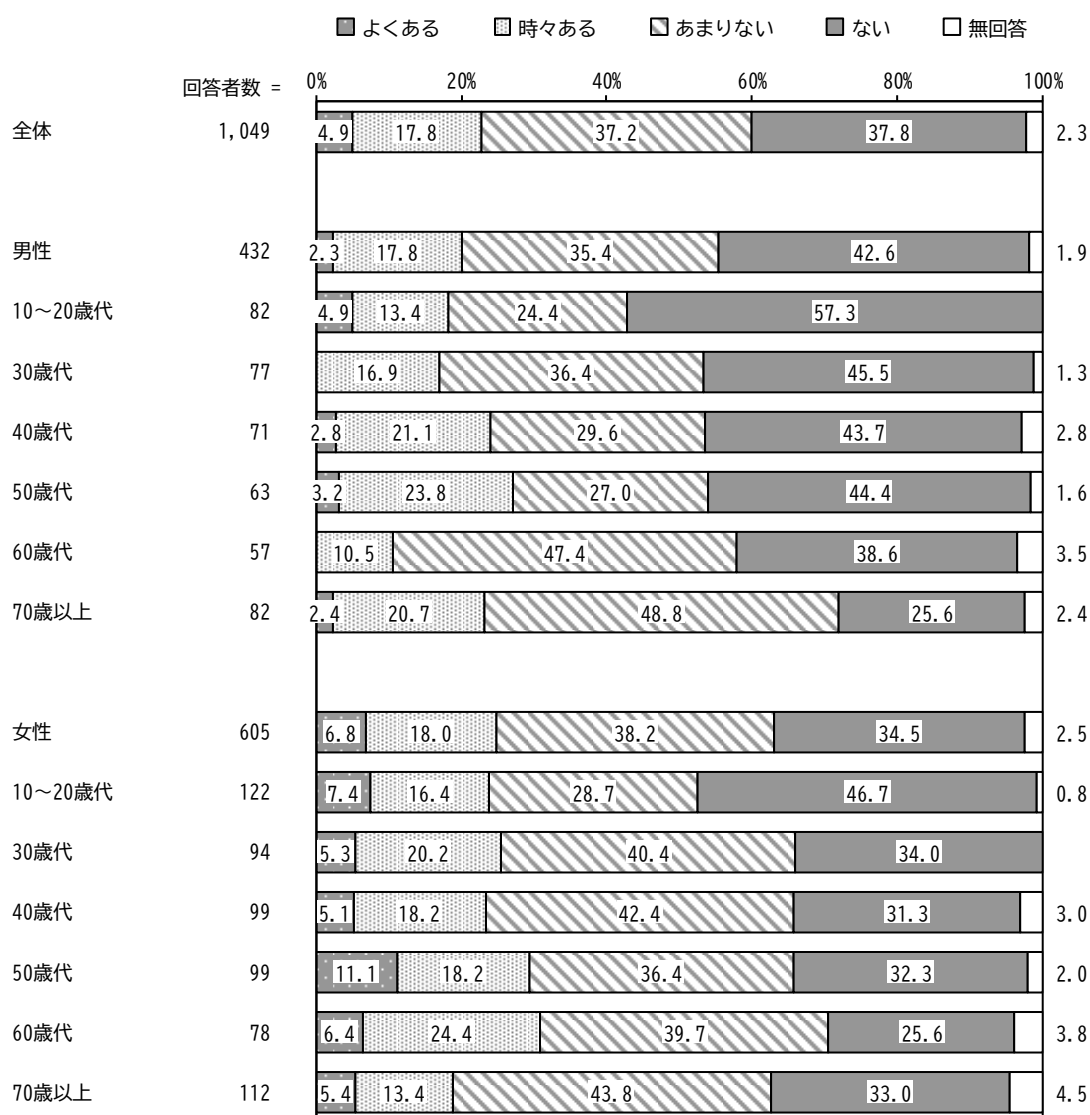


### キ. 自分の性別に対する周囲の理解や配慮が十分ではないと感じる

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が22.7%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が75.0%となっています。

性・年齢別にみると、女性では60歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど“ない”の割合が高くなっています。また、男性60歳代で“ある”の割合が低くなっています。

図表 48 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか  
「自分の性別に対する周囲の理解や配慮が十分ではないと感じる」

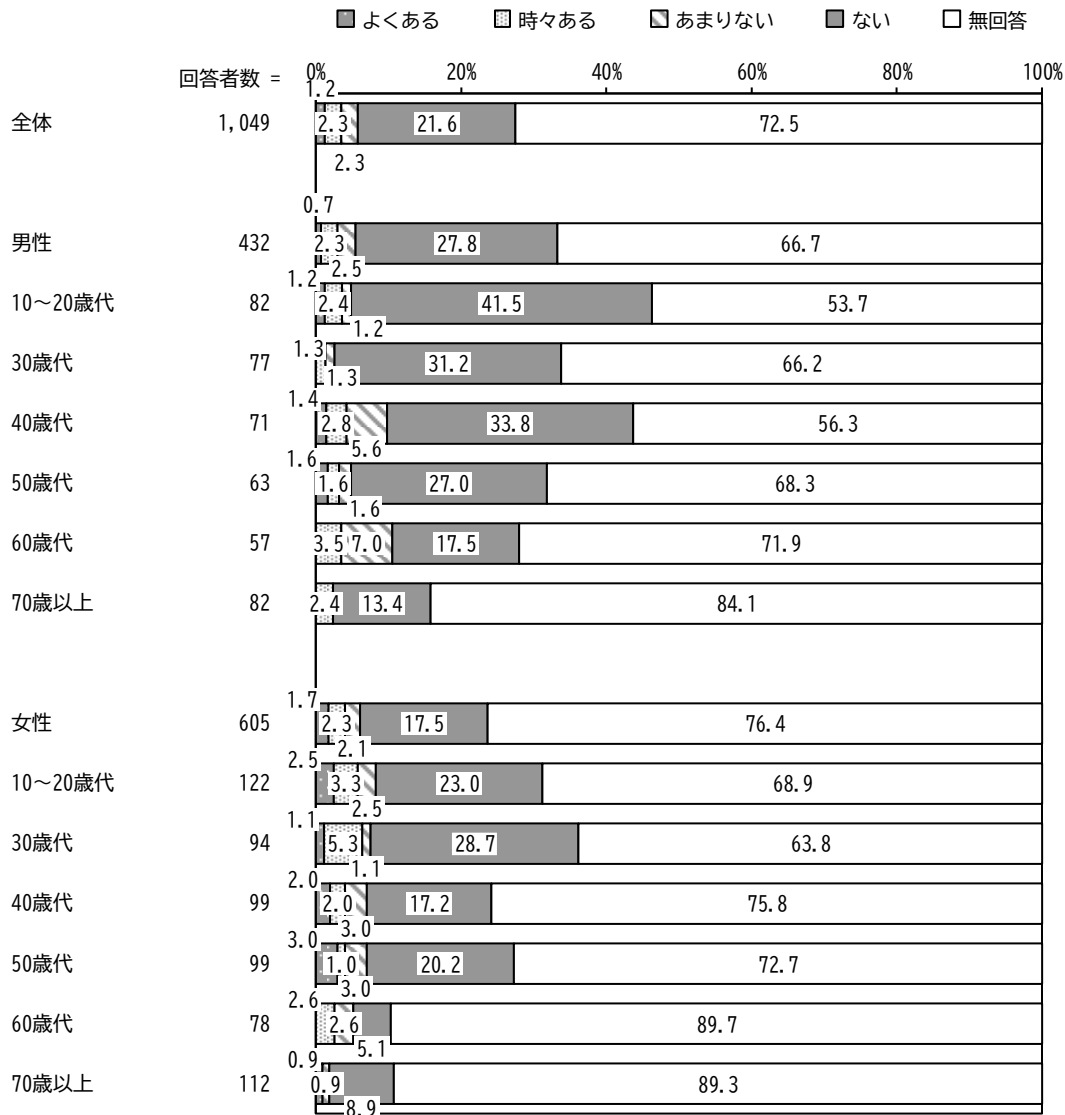


## ク. その他

「よくある」「時々ある」を合わせた“ある”の割合が3.5%、「あまりない」「ない」を合わせた“ない”の割合が23.9%となっています。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど“ない”の割合が高くなっています。

図表 49 性別による生きづらさや社会の期待を感じるか「その他」



### 【「その他」の主な記述意見】

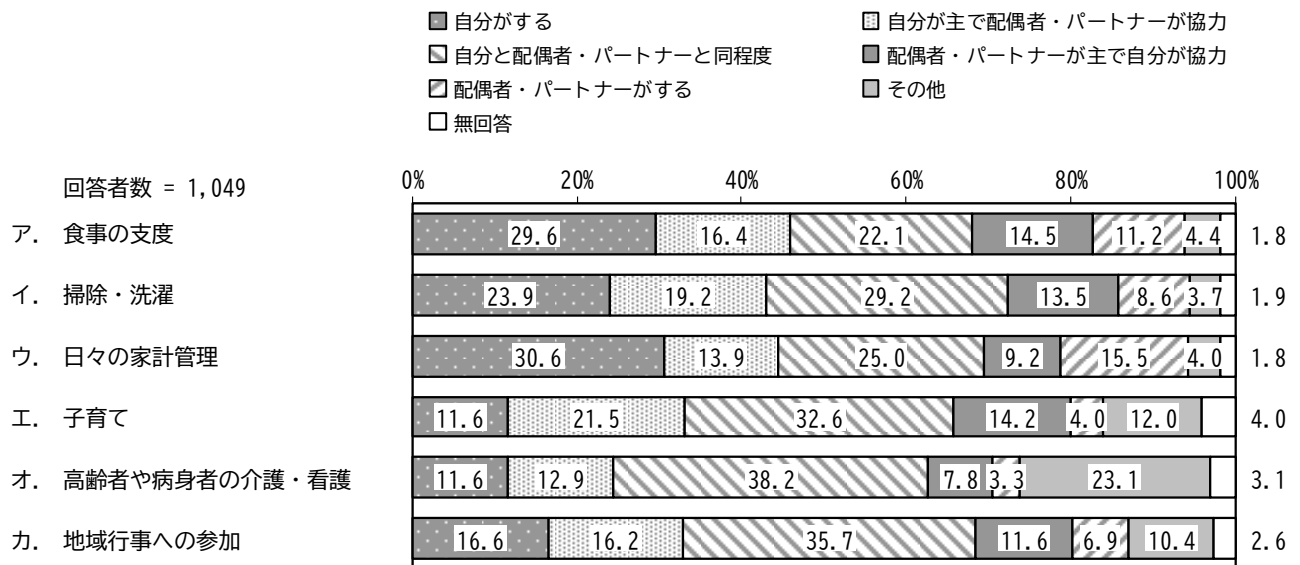
- ・ 学校の役員仕事、こども会など、まだまだ女性が圧倒的に多い。
- ・ 子育てで何かあった時に、母親の責任と指摘されたり、あたりまえのように母親の役目だと言われることがある。
- ・ 女性の少ない職種に就いた時、雑用に回されて仕事を覚える機会を奪われていると感じた。
- ・ 「男らしくない」「男性だから」と言われる時がある。男性は育休が取得しにくい。
- ・ 接客等の場において、夫婦で行くと夫の方ばかり見て話す、名刺を夫にしか渡さない、電話口が女だと舐めた態度を取るが男を出すと一気に話が通じるなどが日常茶飯事。
- ・ 性別によって、評価や承認の違いがある。

### 3 家庭生活について

問10 あなたのご家庭では、配偶者・パートナーとの役割分担はどのようになっていますか。単身者または未婚者の方は一般にどのように役割分担するのがよいと思われますか。次のア～カの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『ウ. 日々の家計管理』で「自分がする」「配偶者・パートナーがする」が、『エ. 子育て』で「自分が主で配偶者・パートナーが協力」が、『オ. 高齢者や病身者の介護・看護』で「自分と配偶者・パートナーと同程度」「その他」が、『ア. 食事の支度』で「配偶者・パートナーが主で自分が協力」が高くなっています。

図表 50 配偶者・パートナーとの役割分担



夫婦の役割分担について、『ア. 食事の支度』では、「自分がする」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 22.1%、「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が 16.4%となっています。

男性の前回と比較すると、「自分がする」「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」「配偶者・パートナーがする」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「配偶者・パートナーがする」の割合が高く、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が低く、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「自分がする」の割合が高く、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が低い傾向にあります。また、女性 30 歳代で「自分が主で配偶者・パートナーが協力」、男性 40 歳代で「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割合が高くなっています。

『イ. 掃除・洗濯』では、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 29.2%と最も高く、次いで「自分がする」の割合が 23.9%、「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が 19.2%となっています。

男性の前回と比較すると、「自分がする」「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」「配偶者・パートナーがする」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「配偶者・パートナーがする」の割合が高い傾向にあり、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「自分がする」の割合が高く、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が低い傾向にあります。また、女性 30 歳代、女性 60 歳代で「自分が主で配偶者・パートナーが協力」、男性 60 歳代で「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割合が高くなっています。

『ウ. 日々の家計管理』では、「自分がする」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 25.0%、「配偶者・パートナーがする」の割合が 15.5%となっています。

男性の前回と比較すると、「自分がする」「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」「配偶者・パートナーがする」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「自分がする」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「配偶者・パートナーがする」の割合が高く、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「自分がする」の割合が高くなっています。また、男性 10～20 歳代で「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が高くなっています。

『エ. 子育て』では、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が 21.5%、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割

合が 14.2%となっています。

男性の前回と比較すると、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が増加しています。一方、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」「配偶者・パートナーがする」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「配偶者・パートナーがする」の割合が高く、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が低く、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「自分がする」の割合が高い傾向にあります。また、女性 30 歳代、女性 40 歳代で「自分が主で配偶者・パートナーが協力」、男性 70 歳以上で「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割合が高くなっています。

『オ. 高齢者や病身者の介護・看護』では、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が 12.9%、「自分がする」の割合が 11.6%となっています。

男性の前回と比較すると、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「配偶者・パートナーがする」の割合が高く、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「自分がする」の割合が高くなっています。また、女性 60 歳代、女性 70 歳以上で「自分が主で配偶者・パートナーが協力」、男性 10～20 歳代で「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が高くなっています。

『カ. 地域行事への参加』では、「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「自分がする」の割合が 16.6%、「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が 16.2%となっています。

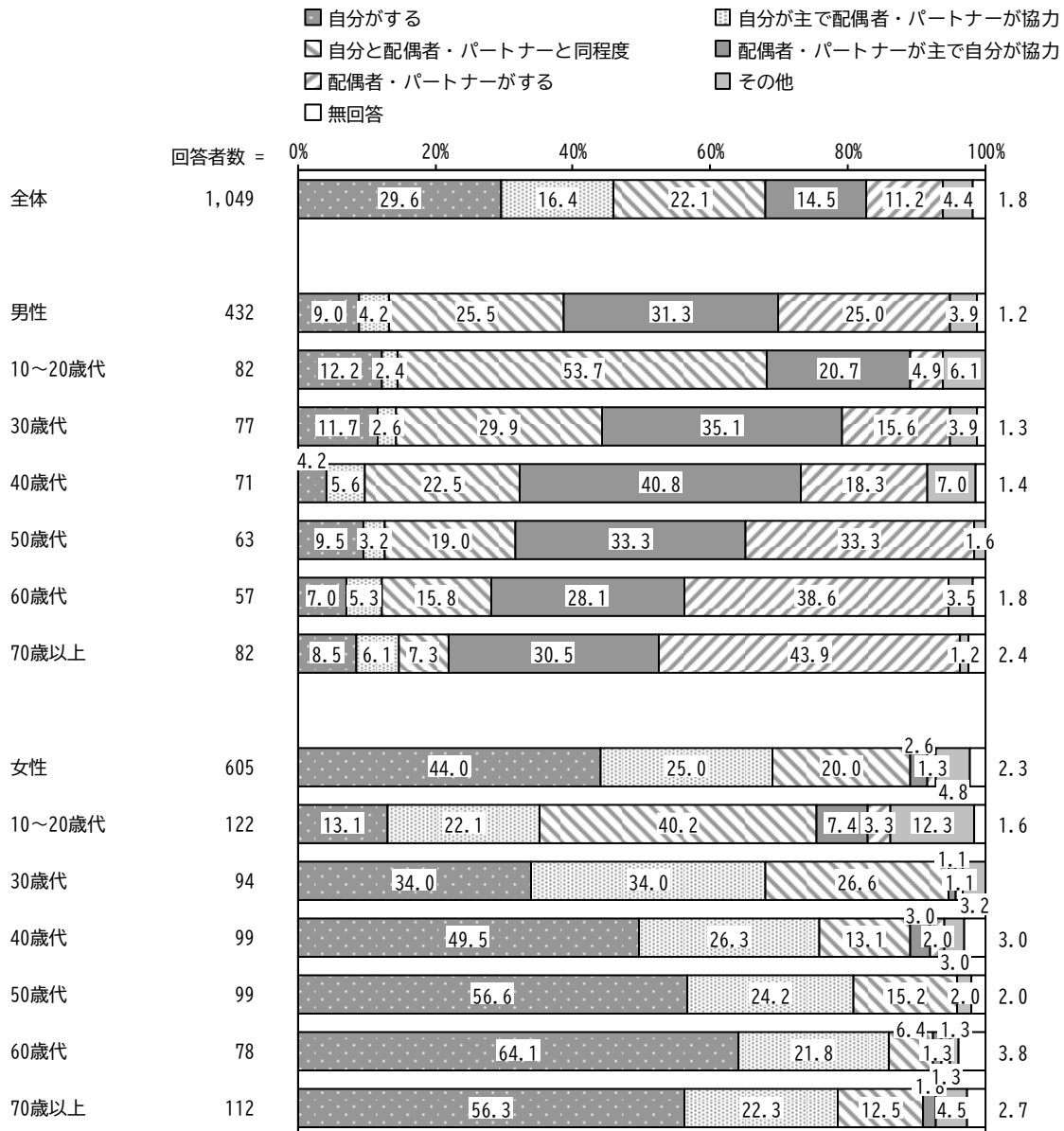
男性の前回と比較すると、「配偶者・パートナーが主で自分が協力」の割合が減少しています。

女性の前回と比較すると、大きな変化はみられません。

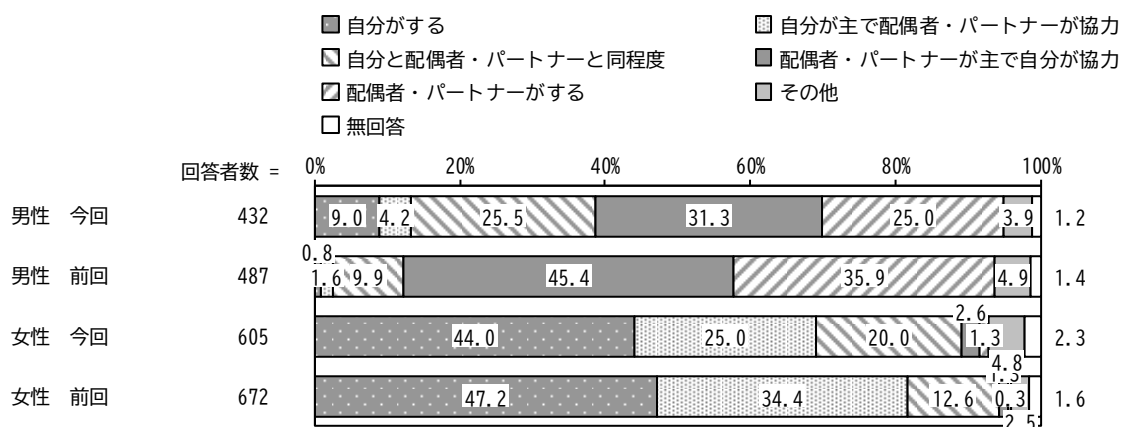
性・年齢別にみると、10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど、男性では「配偶者・パートナーがする」の割合が高い傾向にあり、女性では「自分が主で配偶者・パートナーが協力」の割合が高い傾向にあります。また、女性 50 歳代で「自分がする」、男性 10～20 歳代、女性 10～20 歳代で「自分と配偶者・パートナーと同程度」の割合が高くなっています。

ア. 食事の支度

図表 51 配偶者・パートナーとの役割分担「食事の支度」

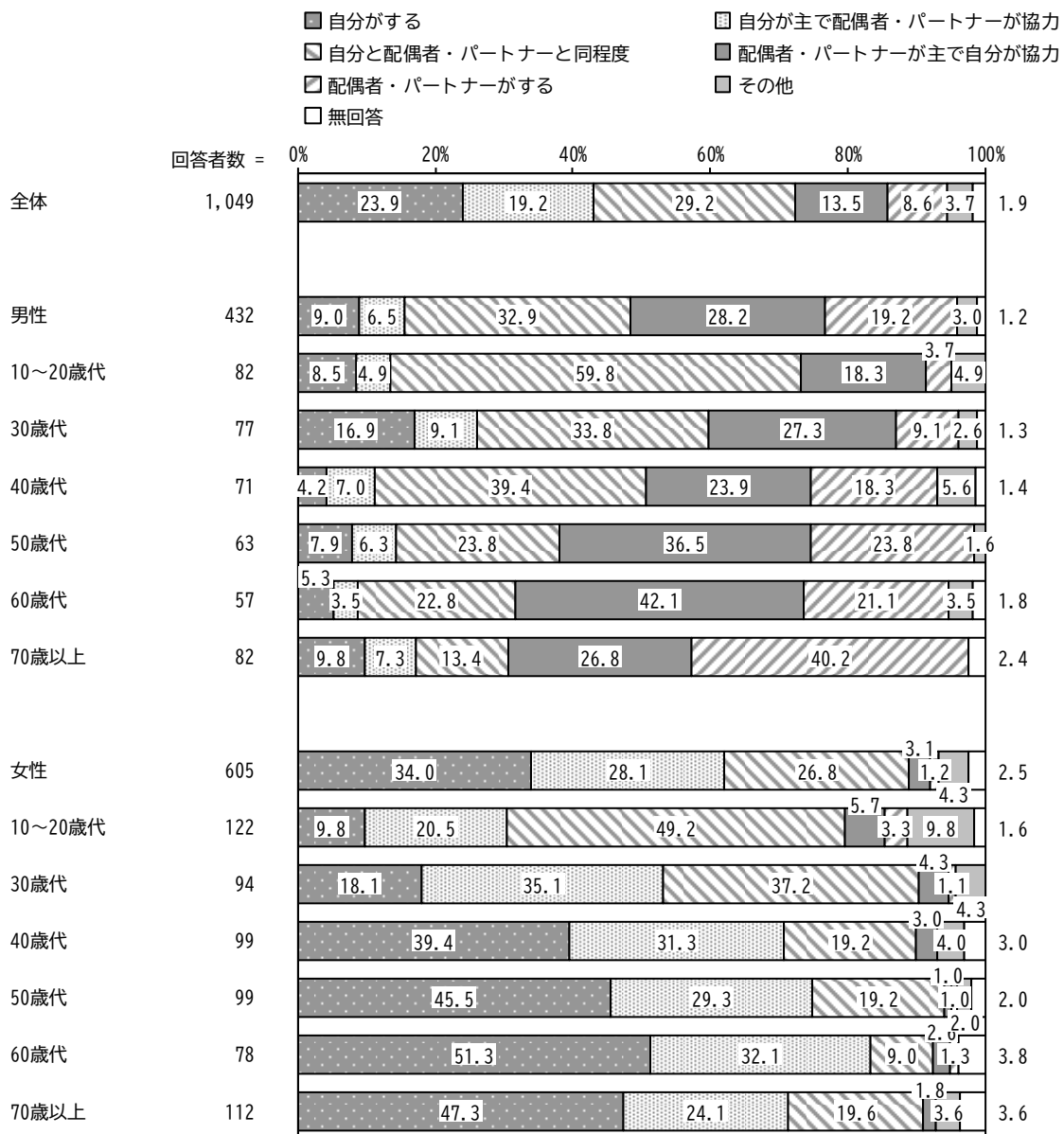


図表 52 配偶者・パートナーとの役割分担「食事の支度」(性別)

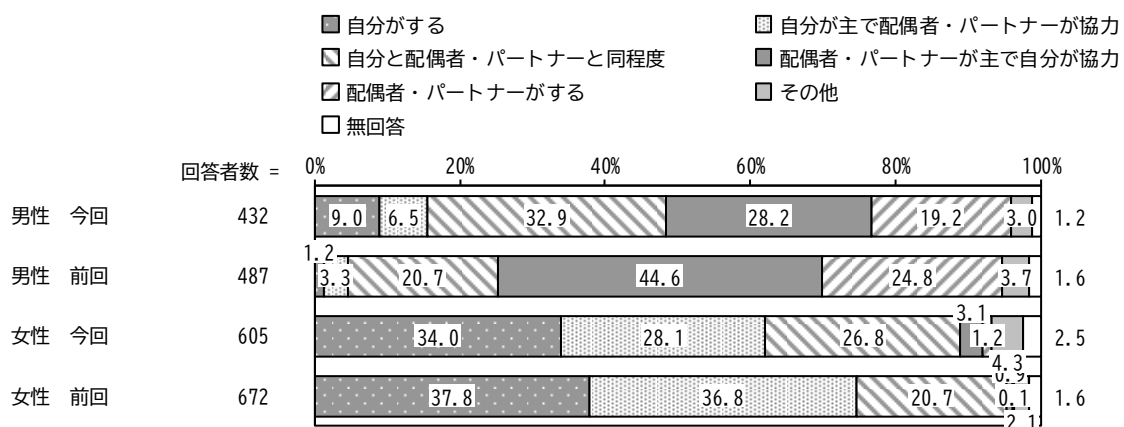


イ. 掃除・洗濯

図表 53 配偶者・パートナーとの役割分担「掃除・洗濯」

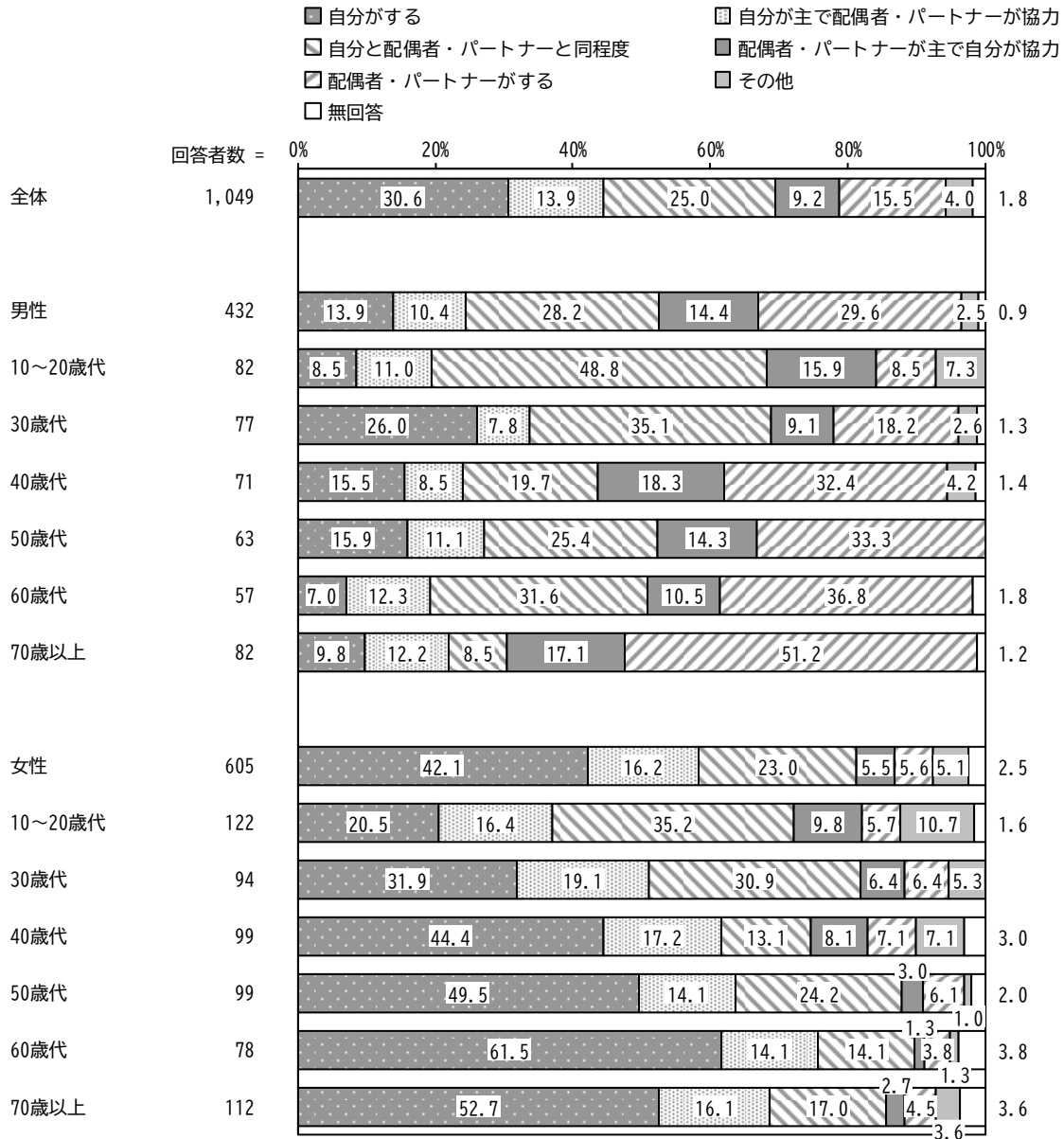


図表 54 配偶者・パートナーとの役割分担「掃除・洗濯」(性別)

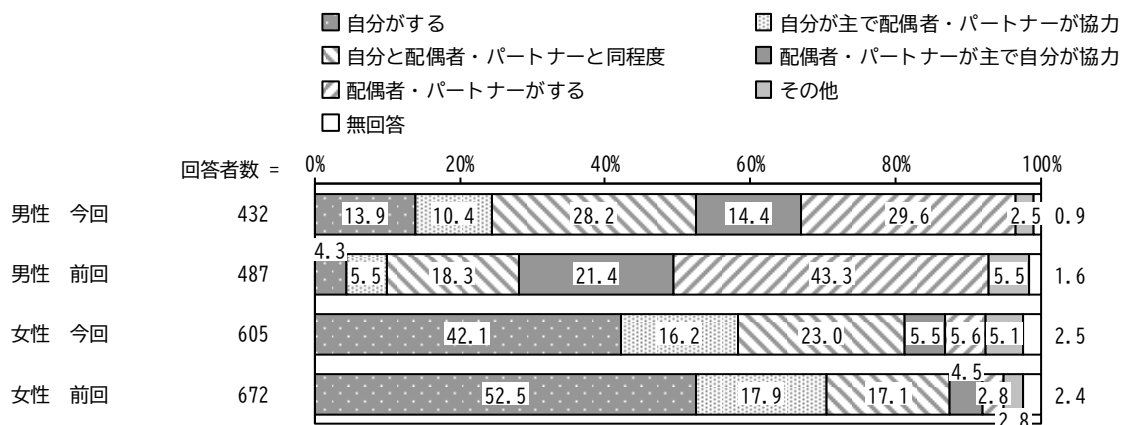


ウ. 日々の家計管理

図表 55 配偶者・パートナーとの役割分担「日々の家計管理」

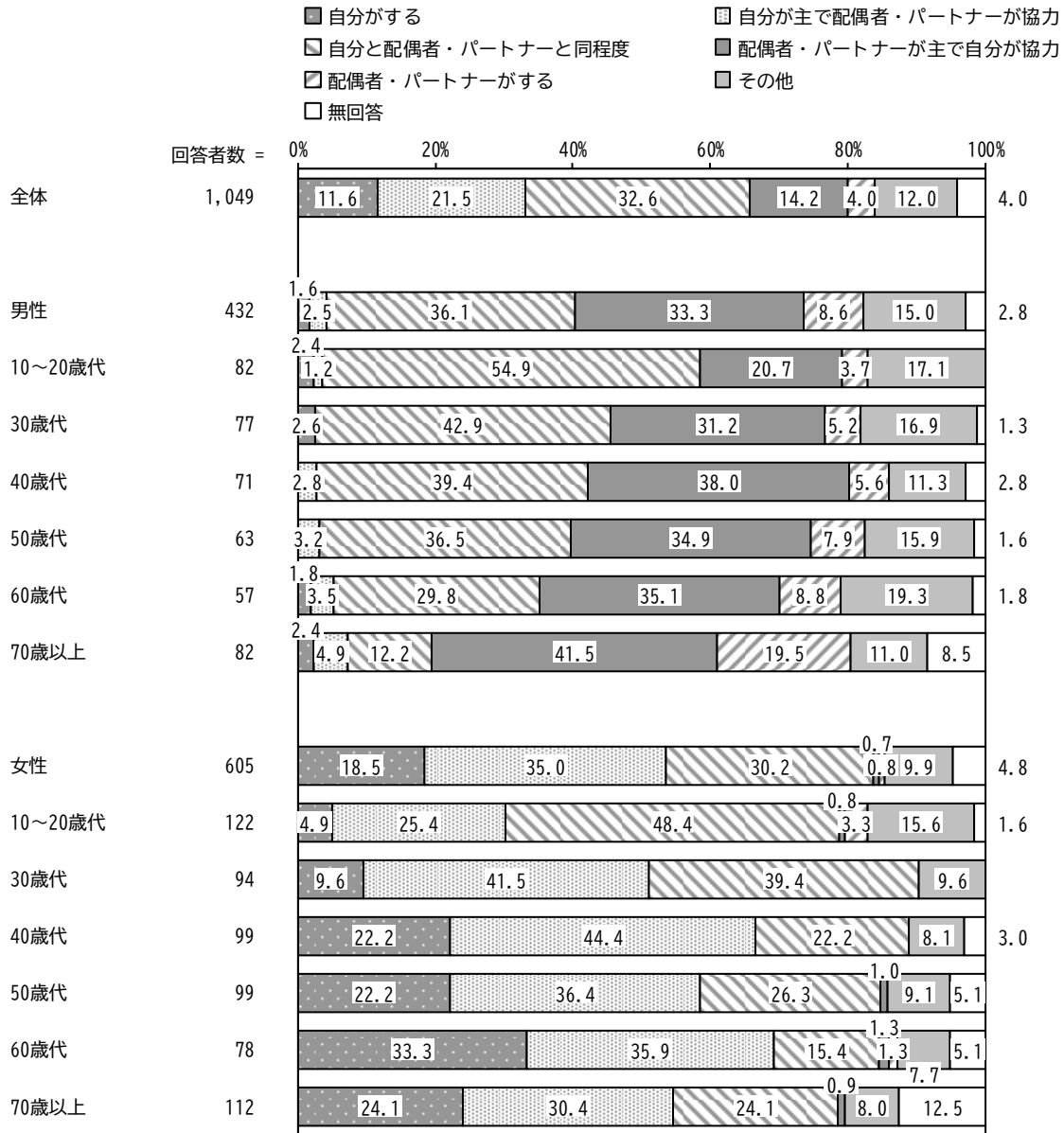


図表 56 配偶者・パートナーとの役割分担「日々の家計管理」(性別)

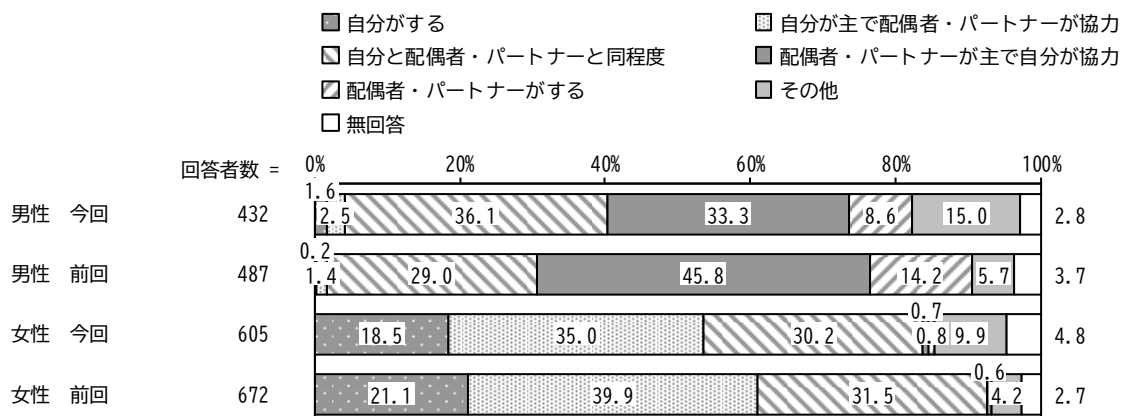


## エ. 子育て

図表 57 配偶者・パートナーとの役割分担「子育て」

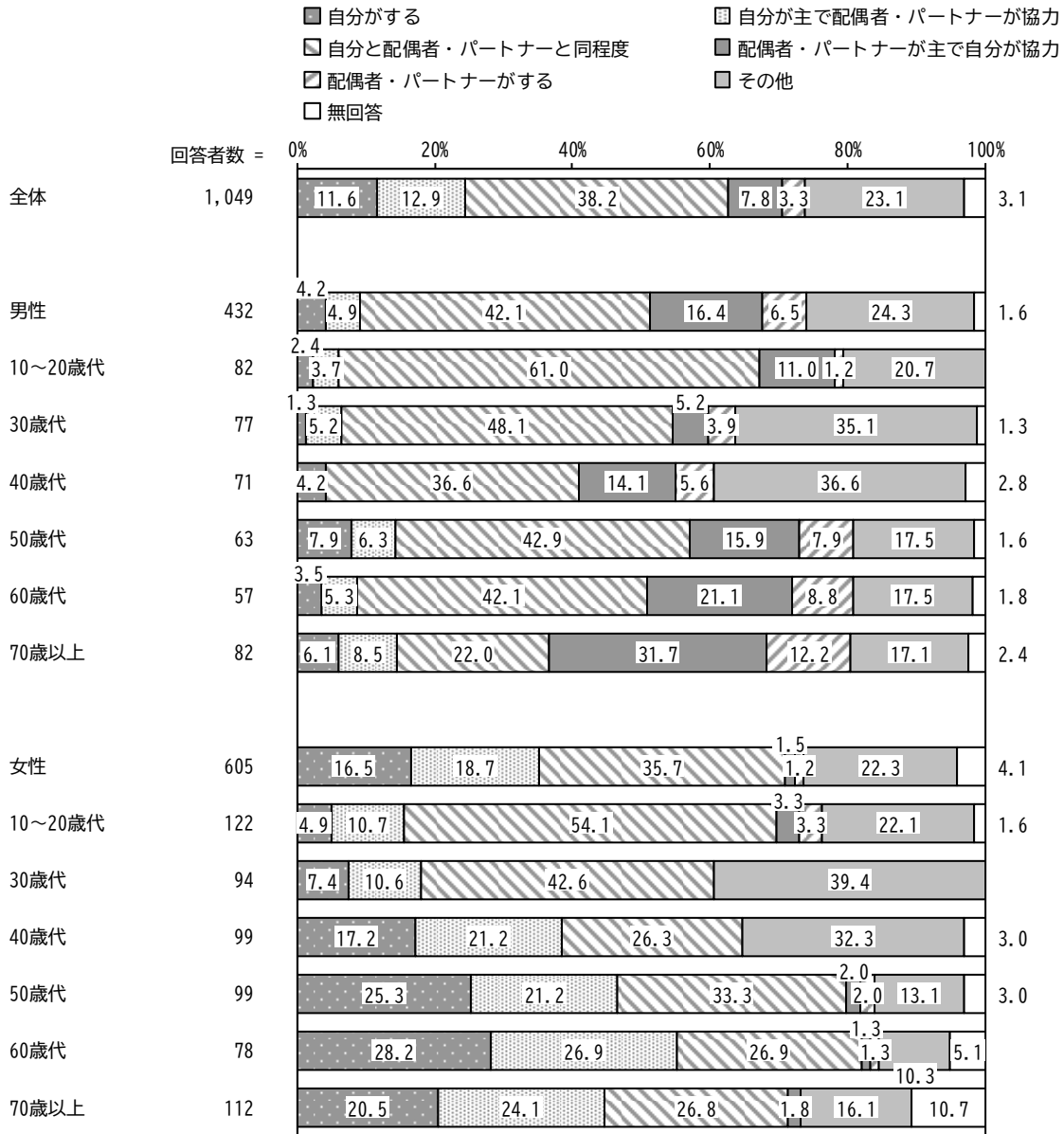


図表 58 配偶者・パートナーとの役割分担「子育て」(性別)

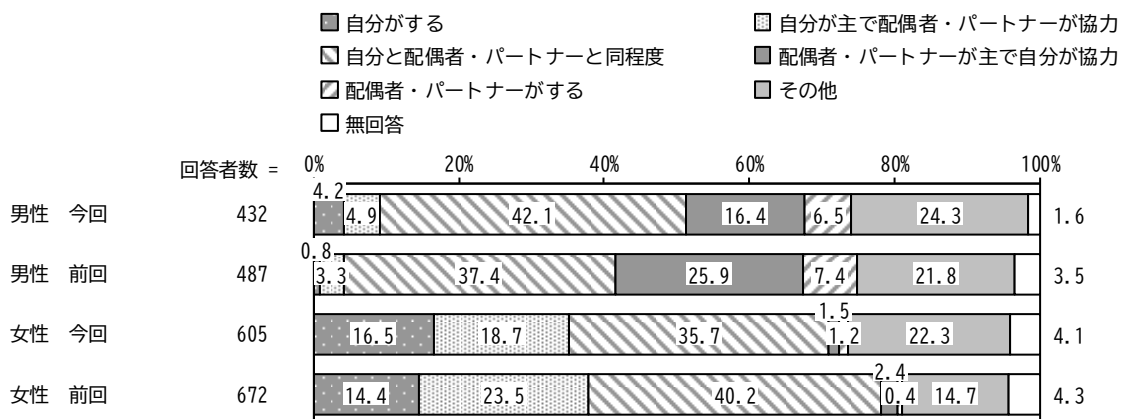


オ. 高齢者や病身者の介護・看護

図表 59 配偶者・パートナーとの役割分担「高齢者や病身者の介護・看護」

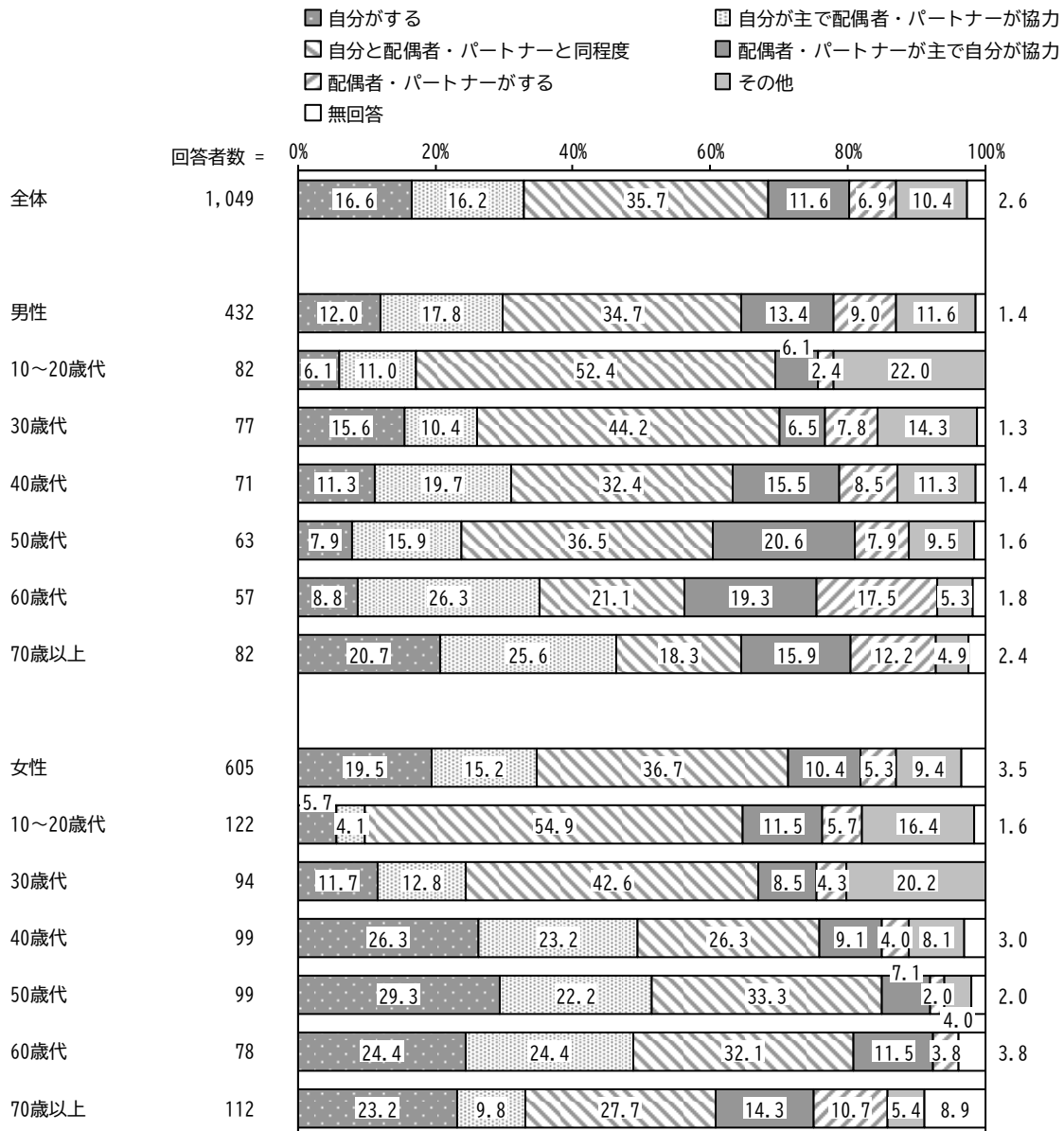


図表 60 配偶者・パートナーとの役割分担「高齢者や病身者の介護・看護」(性別)

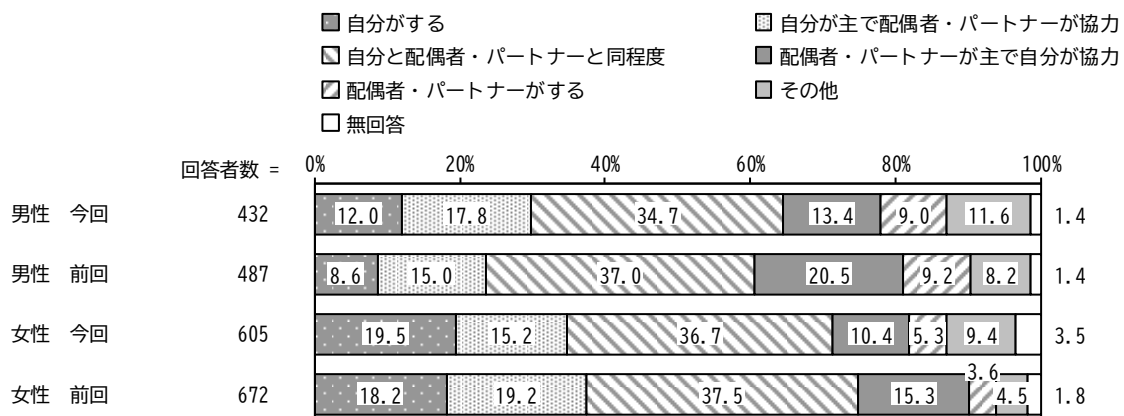


カ. 地域行事への参加

図表 61 配偶者・パートナーとの役割分担「地域行事への参加」



図表 62 配偶者・パートナーとの役割分担「地域行事への参加」(性別)



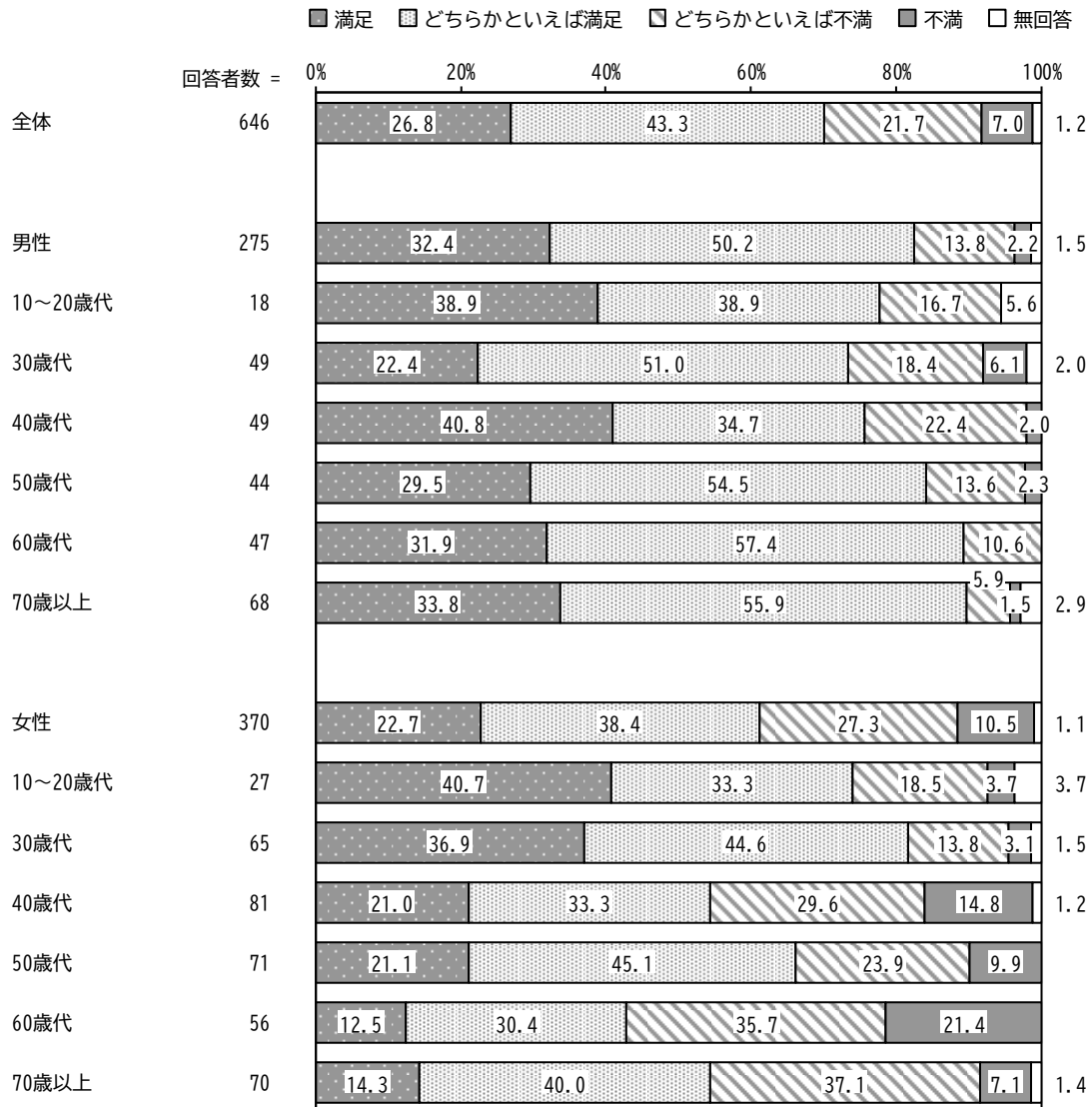
問10-1 【単身者または未婚者の方は問11へお進みください。】

現在の家庭での配偶者・パートナーとの役割分担に対して満足していますか。(〇は1つ)

「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた“満足”の割合が70.1%、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた“不満”の割合が28.7%となっています。

性・年齢別にみると、男性では30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど“満足”の割合が高くなっています。また、女性60歳代で“不満”の割合が高くなっています。

図表63 配偶者・パートナーとの役割分担に満足しているか



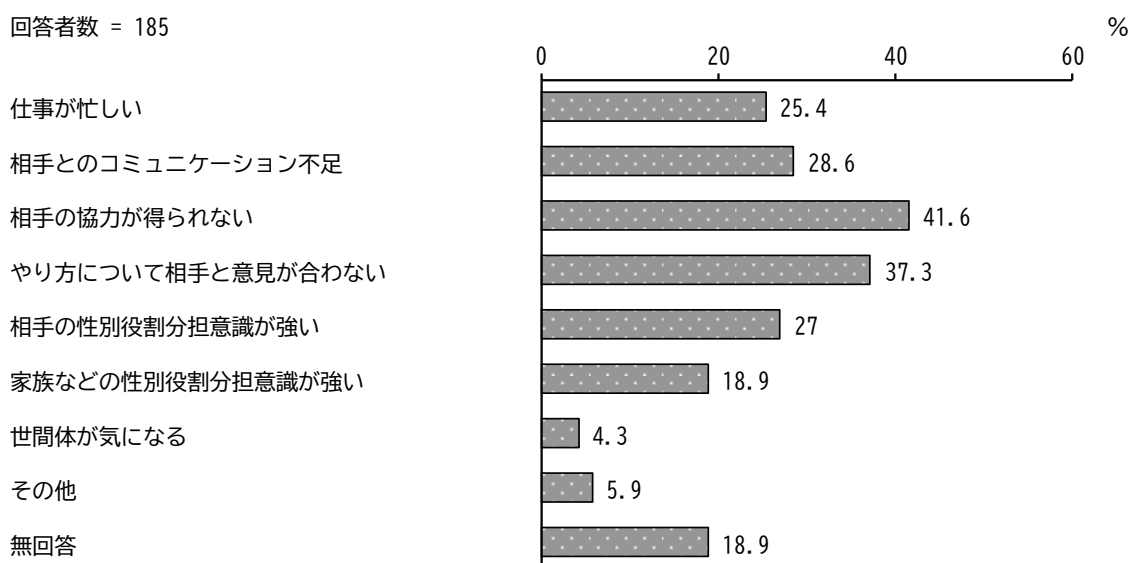
問10-1で「どちらかといえば不満」「不満」を選ばれた方におたずねします。

問10-2 希望の役割分担になっていない主な理由は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

「相手の協力が得られない」の割合が41.6%と最も高く、次いで「やり方について相手と意見が合わない」の割合が37.3%、「相手とのコミュニケーション不足」の割合が28.6%となっています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「やり方について相手と意見が合わない」の割合が高い傾向にあり、女性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「仕事が忙しい」の割合が高くなっています。また、女性50歳代、女性60歳代で「相手の性別役割分担意識が強い」の割合が高くなっています。

図表64 希望の役割分担になっていない主な理由



図表65 希望の役割分担になっていない主な理由 (性別・年代別)

単位：%

区分	回答者数 (件)	仕事が忙しい	相手とのコミュニケーション不足	相手の協力が得られない	やり方について相手と意見が合わない	相手の性別役割分担意識が強い	家族などの性別役割分担意識が強い	世間体が気になる	その他	無回答
男性	44	27.3	25.0	27.3	36.4	6.8	4.5	4.5	2.3	29.5
10～20歳代	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
30歳代	12	33.3	25.0	25.0	25.0	8.3	0.0	8.3	0.0	33.3
40歳代	12	50.0	25.0	41.7	41.7	8.3	0.0	0.0	8.3	16.7
50歳代	7	14.3	28.6	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3
60歳代	5	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
70歳以上	5	0.0	20.0	40.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0
女性	140	25.0	29.3	46.4	37.9	32.9	22.9	4.3	7.1	15.7
10～20歳代	6	50.0	50.0	66.7	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
30歳代	11	54.5	18.2	36.4	27.3	9.1	18.2	0.0	9.1	9.1
40歳代	36	41.7	30.6	47.2	36.1	36.1	19.4	2.8	5.6	13.9
50歳代	24	29.2	33.3	50.0	50.0	37.5	25.0	0.0	4.2	12.5
60歳代	32	12.5	31.3	46.9	31.3	37.5	25.0	3.1	6.3	9.4
70歳以上	31	0.0	22.6	41.9	38.7	29.0	25.8	12.9	12.9	32.3

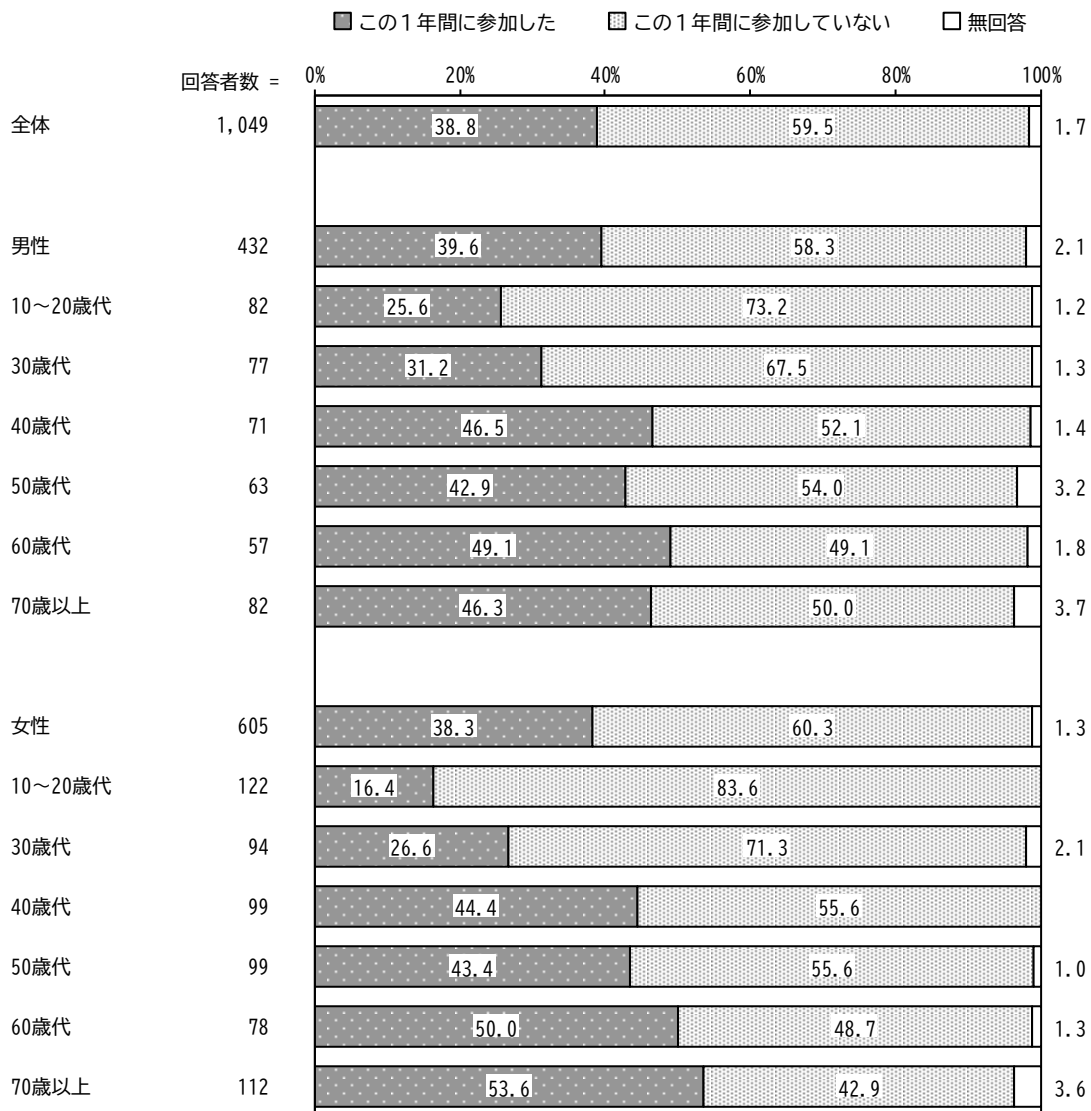
問 11 地域活動や社会貢献活動への参加について、(A)と(B)2つの質問にお答えください。

(A) あなたは、この1年間に地域活動等に参加したことがありますか。(○は1つ)

「この1年間に参加した」の割合が38.8%、「この1年間に参加していない」の割合が59.5%となっています。

性・年齢別にみると、男性では60歳代から10~20歳代まで年齢が下がるほど「この1年間に参加していない」の割合が高い傾向にあり、女性では年齢が上がるほど「この1年間に参加した」の割合が高い傾向にあります。

図表 66 地域活動等への参加状況

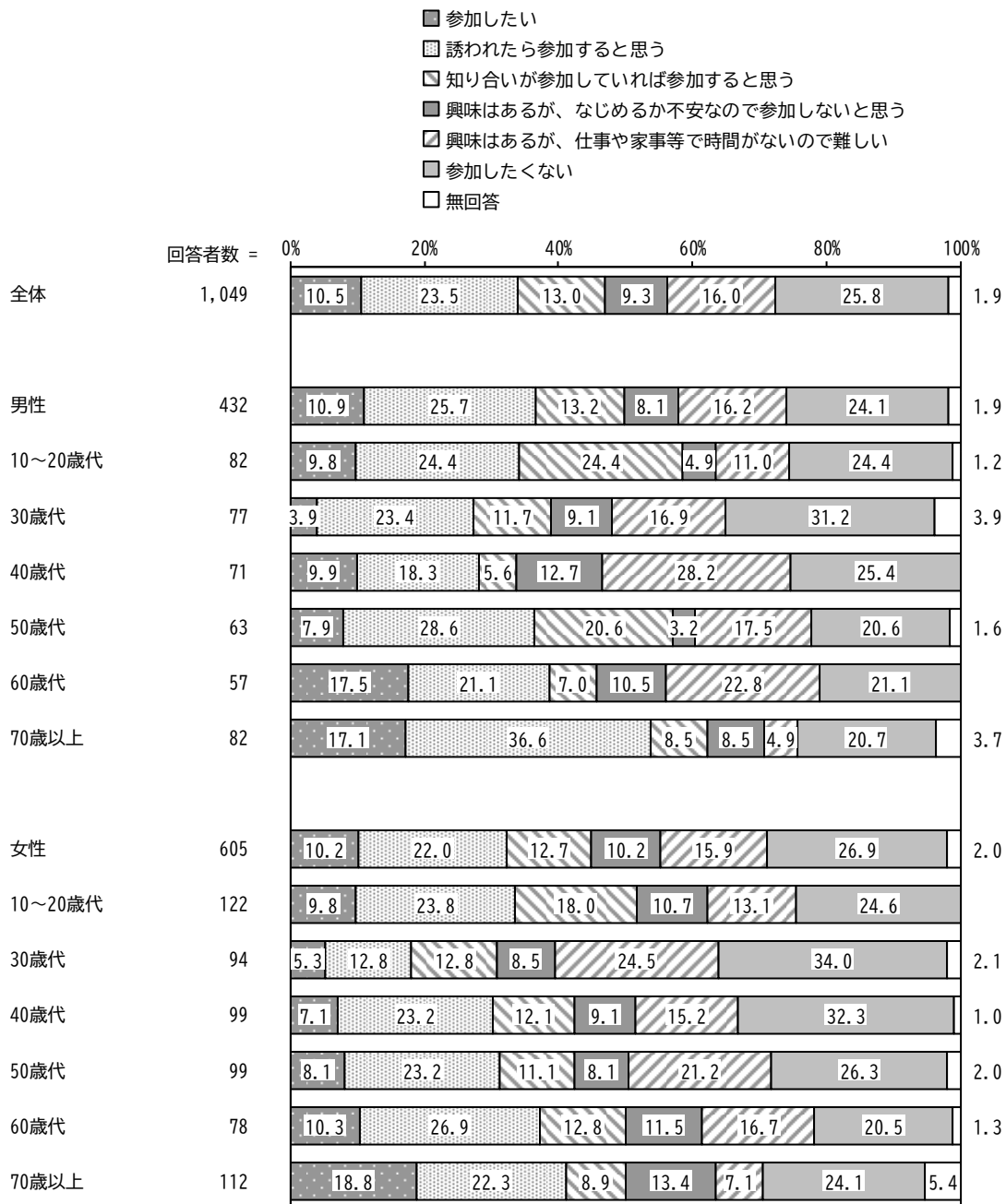


(B) あなたは、今後、地域活動等に参加したいと思いますか。(〇は1つ)

「参加したくない」の割合が 25.8%と最も高く、次いで「誘われたら参加すると思う」の割合が 23.5%、「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」の割合が 16.0%となっています。

性・年齢別にみると、女性では30歳代から70歳以上まで年齢が上がるほど「参加したい」の割合が高くなっています。また、男性70歳以上で「誘われたら参加すると思う」、男性10～20歳代で「知り合いが参加していれば参加すると思う」、男性40歳代で「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」の割合が高くなっています。

図表 67 地域活動等への参加意向

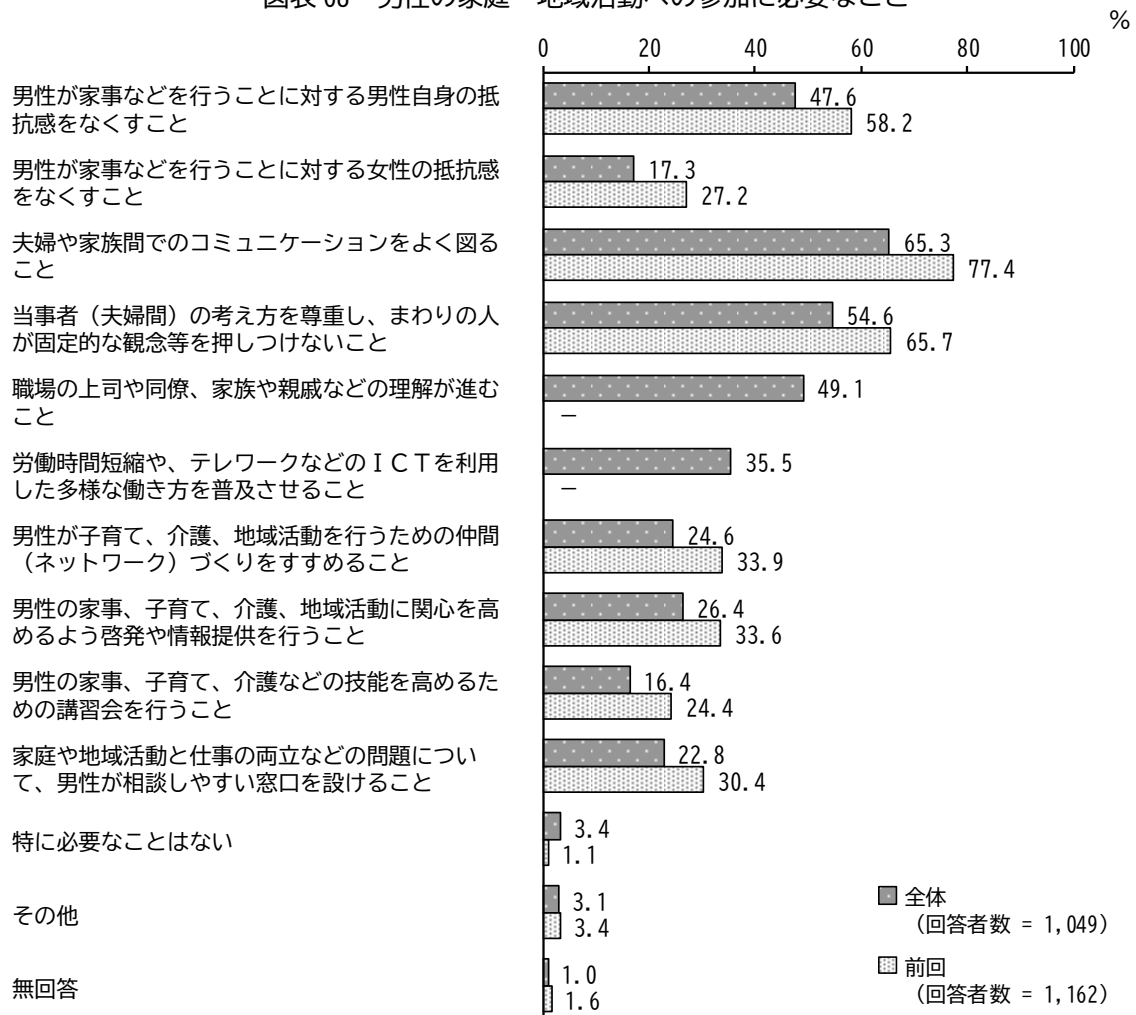


問12 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が65.3%と最も高く、次いで「当事者(夫婦間)の考え方を尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけないこと」の割合が54.6%、「職場の上司や同僚、家族や親戚などの理解が進むこと」の割合が49.1%となっています。

前回と比較すると、「男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性が家事などを行うことに対する女性の抵抗感をなくすこと」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」「当事者(夫婦間)の考え方を尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけないこと」「男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること」「男性の家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」「男性の家事、子育て、介護などの技能を高めるための講習会を行うこと」「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」の割合が減少しています。

図表 68 男性の家庭・地域活動への参加に必要なこと



※前回調査の選択肢では、「職場の上司や同僚、家族や親戚などの理解が進むこと」が「社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高めること」、「労働時間短縮や、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及させること」が「労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、「男性の家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」が「市が、男性の家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」、「男性の家事、子育て、介護などの技能を高めるための講習会を行うこと」が「市が、男性の家事、子育て、介護などの技能を高めるための講習会を行うこと」となっていました。

問 13 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの「希望」に最も近いものと、「現実」に最も近いものを、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

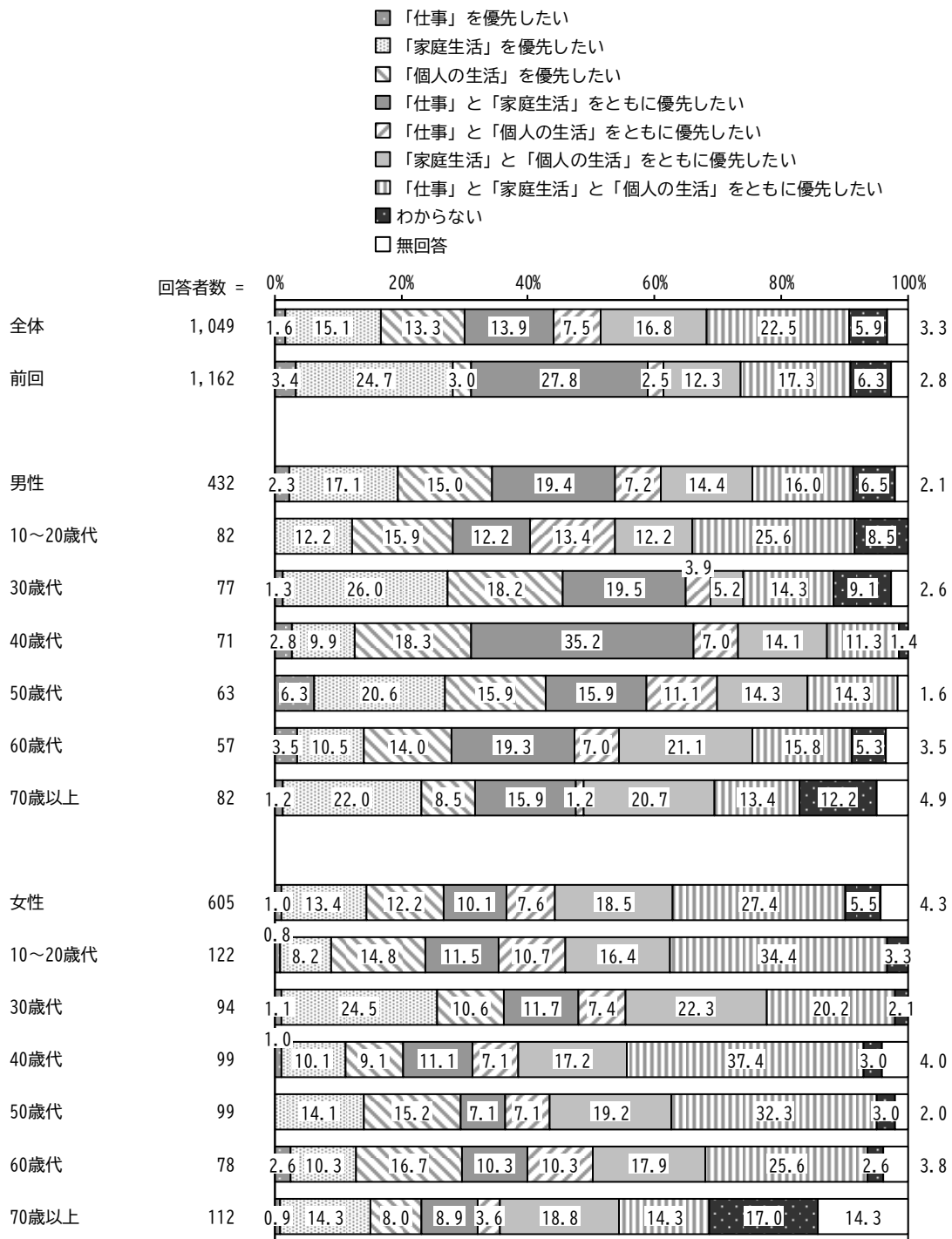
#### 希望

「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が 22.5%と最も高く、次いで「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が 16.8%、「家庭生活」を優先したいの割合が 15.1%となっています。

前回と比較すると、「個人の生活」を優先したい」「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が増加しています。一方、「家庭生活」を優先したい」「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が減少しています。

性・年齢別にみると、70 歳以上から 40 歳代まで年齢が下がるほど、男性では「個人の生活」を優先したいの割合が高く、女性では「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が高くなっています。また、男性 30 歳代で「家庭生活」を優先したい、男性 40 歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が高く、男性 30 歳代で「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいの割合が低くなっています。

図表 69 生活の中での優先度「希望」



※前回調査の選択肢では、「個人の生活」を優先したいが「地域・個人の生活」を優先したい、「仕事」と「個人の生活」をともに優先したいが「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいが「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したいが「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」となっていました。

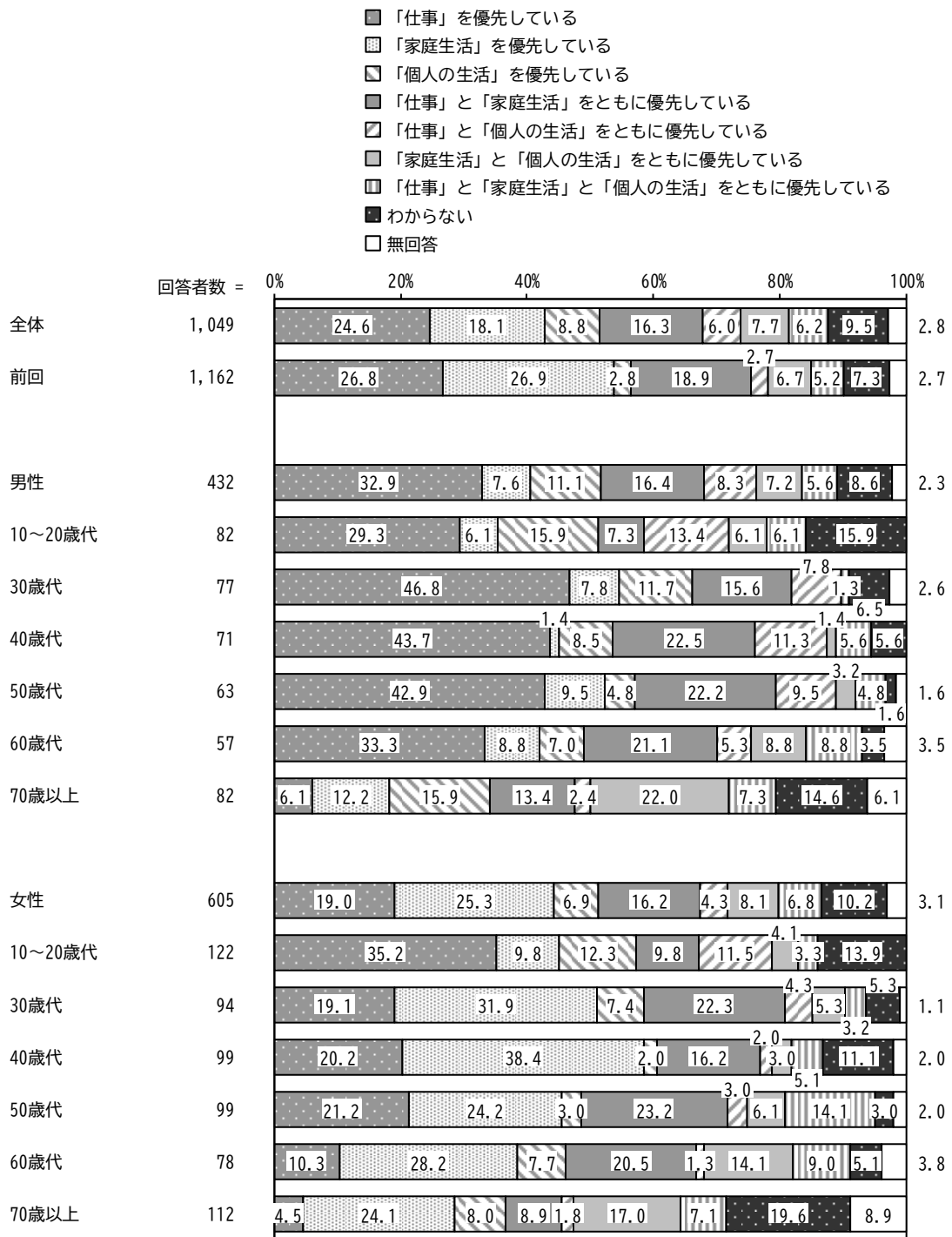
## 現実

「仕事」を優先している」の割合が 24.6%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」の割合が 18.1%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 16.3%となっています。

前回と比較すると、「個人の生活」を優先している」の割合が増加しています。一方、「家庭生活」を優先している」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、男性では 30 歳代から 70 歳以上まで年齢が上がるほど「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が高く、「仕事」を優先している」の割合が低く、女性では 40 歳代から 70 歳以上まで年齢が上がるほど「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、女性 40 歳代で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。

図表 70 生活の中での優先度「現実」



※前回調査の選択肢では、「個人の生活」を優先しているが「地域・個人の生活」を優先している、「仕事」と「個人の生活」をともに優先しているが「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している、「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先しているが「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している、「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先しているが「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」となっていました。

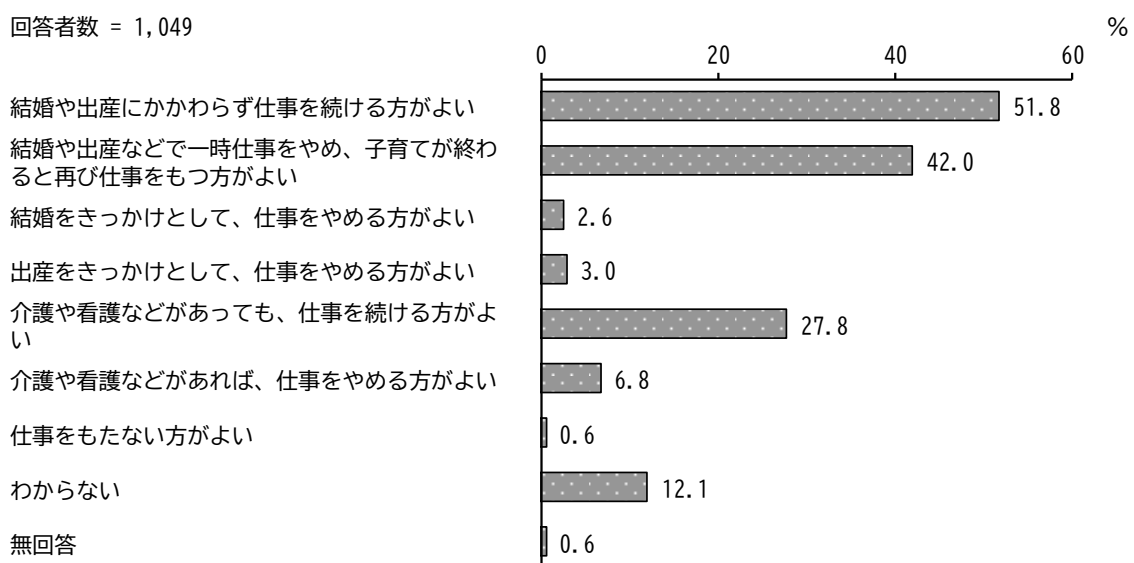
## 4 就労等について

問 14 女性が収入をとまなう仕事を持つことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「結婚や出産などで一時仕事をやめ、子育てが終わると再び仕事をもつ方がよい」の割合が 42.0%、「介護や看護などがあっても、仕事を続ける方がよい」の割合が 27.8%となっています。

性・年齢別にみると、男性では年齢が上がるほど「介護や看護などがあっても、仕事を続ける方がよい」の割合が高い傾向にあります。また、男性 30 歳代、女性 10～20 歳代、女性 30 歳代で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

図表 71 女性の就労についての考え



図表 72 女性の就労についての考え（性別・年代別）

単位：％

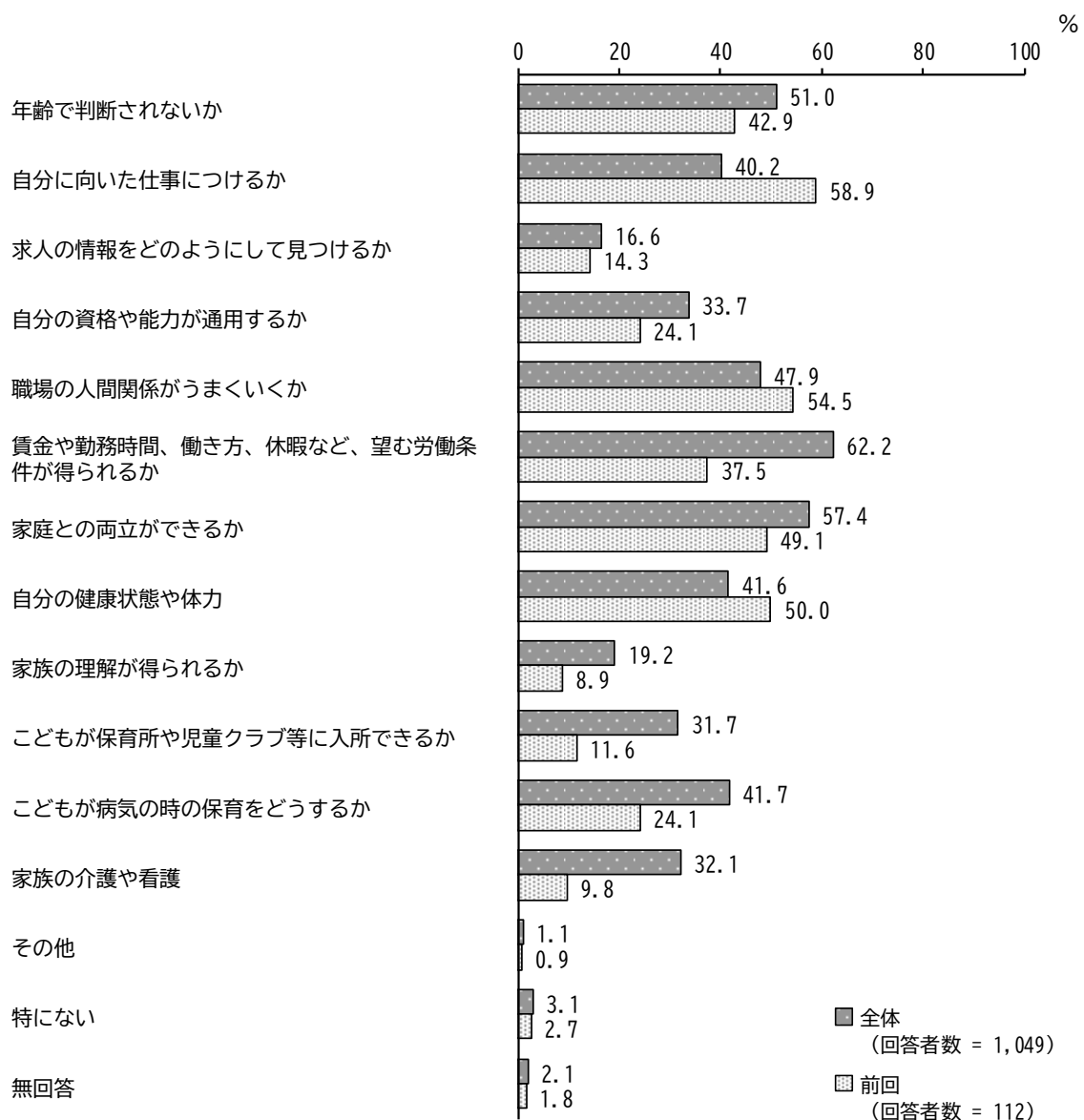
区分	回答者数（件）	結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい	結婚や出産などで一時仕事をやめ、子育てが終わると再び仕事をもつ方がよい	結婚をきっかけとして、仕事をやめる方がよい	結婚をきっかけとして、仕事をやめる方がよい	出産をきっかけとして、仕事をやめる方がよい	介護や看護などがあっても、仕事を続ける方がよい	介護や看護などがあれば、仕事をやめる方がよい	仕事をもたない方がよい	わからない	無回答
男性	432	47.5	44.7	2.8	2.3	19.0	6.0	0.7	13.2	0.7	
10～20歳代	82	30.5	42.7	4.9	4.9	6.1	2.4	0.0	25.6	0.0	
30歳代	77	63.6	32.5	2.6	1.3	11.7	5.2	1.3	10.4	0.0	
40歳代	71	43.7	47.9	1.4	4.2	22.5	5.6	1.4	9.9	0.0	
50歳代	63	57.1	50.8	1.6	1.6	22.2	1.6	0.0	11.1	0.0	
60歳代	57	56.1	42.1	5.3	0.0	36.8	5.3	1.8	8.8	0.0	
70歳以上	82	39.0	52.4	1.2	1.2	20.7	14.6	0.0	11.0	3.7	
女性	605	55.4	39.7	2.5	3.3	34.2	6.8	0.5	11.4	0.5	
10～20歳代	122	58.2	42.6	2.5	5.7	23.8	8.2	0.8	10.7	0.0	
30歳代	94	60.6	42.6	4.3	5.3	19.1	7.4	1.1	9.6	0.0	
40歳代	99	56.6	37.4	2.0	1.0	37.4	5.1	0.0	13.1	1.0	
50歳代	99	58.6	38.4	3.0	2.0	45.5	6.1	0.0	8.1	1.0	
60歳代	78	55.1	37.2	2.6	1.3	47.4	2.6	0.0	9.0	0.0	
70歳以上	112	43.8	39.3	0.9	3.6	36.6	9.8	0.9	17.0	0.9	

問 15 子育てや介護等により離職した人が再就職する場合、どんなことが気になりますか。(あてはまるものすべてに○)

「賃金や勤務時間、働き方、休暇など、望む労働条件が得られるか」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「家庭との両立ができるか」の割合が 57.4%、「年齢で判断されないか」の割合が 51.0%となっています。

前回と比較すると、「年齢で判断されないか」「自分の資格や能力が通用するか」「賃金や勤務時間、働き方、休暇など、望む労働条件が得られるか」「家庭との両立ができるか」「家族の理解が得られるか」「子どもが保育所や児童クラブ等に入所できるか」「子どもが病気の時の保育をどうするか」「家族の介護や看護」の割合が増加しています。一方、「自分に向いた仕事につけるか」「職場の人間関係がうまくいくか」「自分の健康状態や体力」の割合が減少しています。

図表 73 再就職について気になりなこと



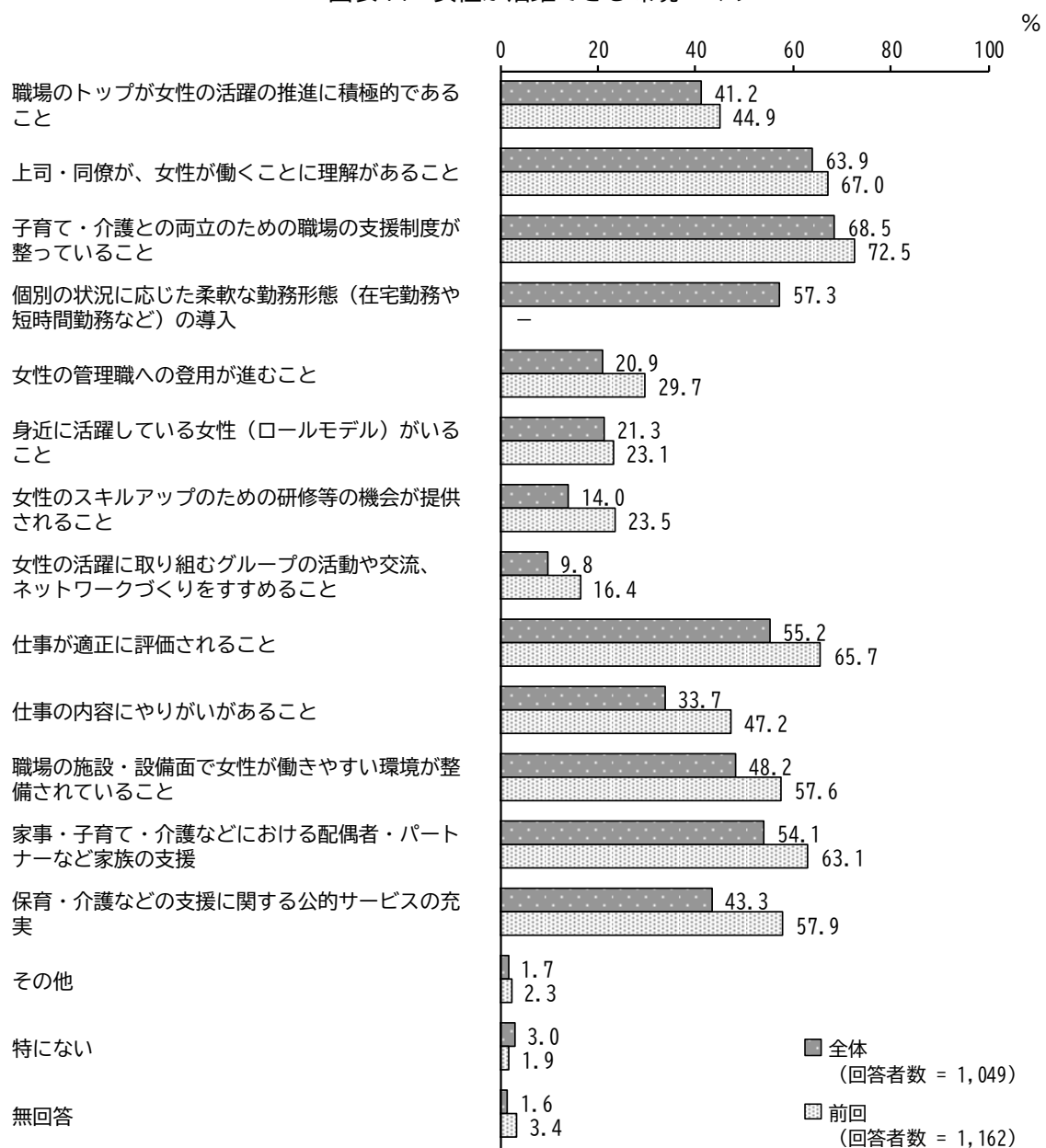
※前回調査の選択肢では、「子どもが保育所や児童クラブ等に入所できるか」が「子どもが保育所等の施設に入所できるか」、「子どもが病気の時の保育をどうするか」が「早朝・夜間・休日や、子どもが病気の時の保育をどうするか」となっていました。

問16 女性が職業生活において活躍できる環境にするために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「子育て・介護との両立のための職場の支援制度が整っていること」の割合が68.5%と最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」の割合が63.9%、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」の割合が57.3%となっています。

前回と比較すると、「女性の管理職への登用が進むこと」「女性のスキルアップのための研修等の機会が提供されること」「女性の活躍に取り組むグループの活動や交流、ネットワークづくりをすすめること」「仕事が適正に評価されること」「仕事の内容にやりがいがあること」「職場の施設・設備面で女性が働きやすい環境が整備されていること」「家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援」「保育・介護などの支援に関する公的サービスの充実」の割合が減少しています。

図表 74 女性が活躍できる環境づくり



※前回調査の選択肢では、「家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援」が「家事・子育て・介護などにおける夫など家族の支援」となっており、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」がありませんでした。

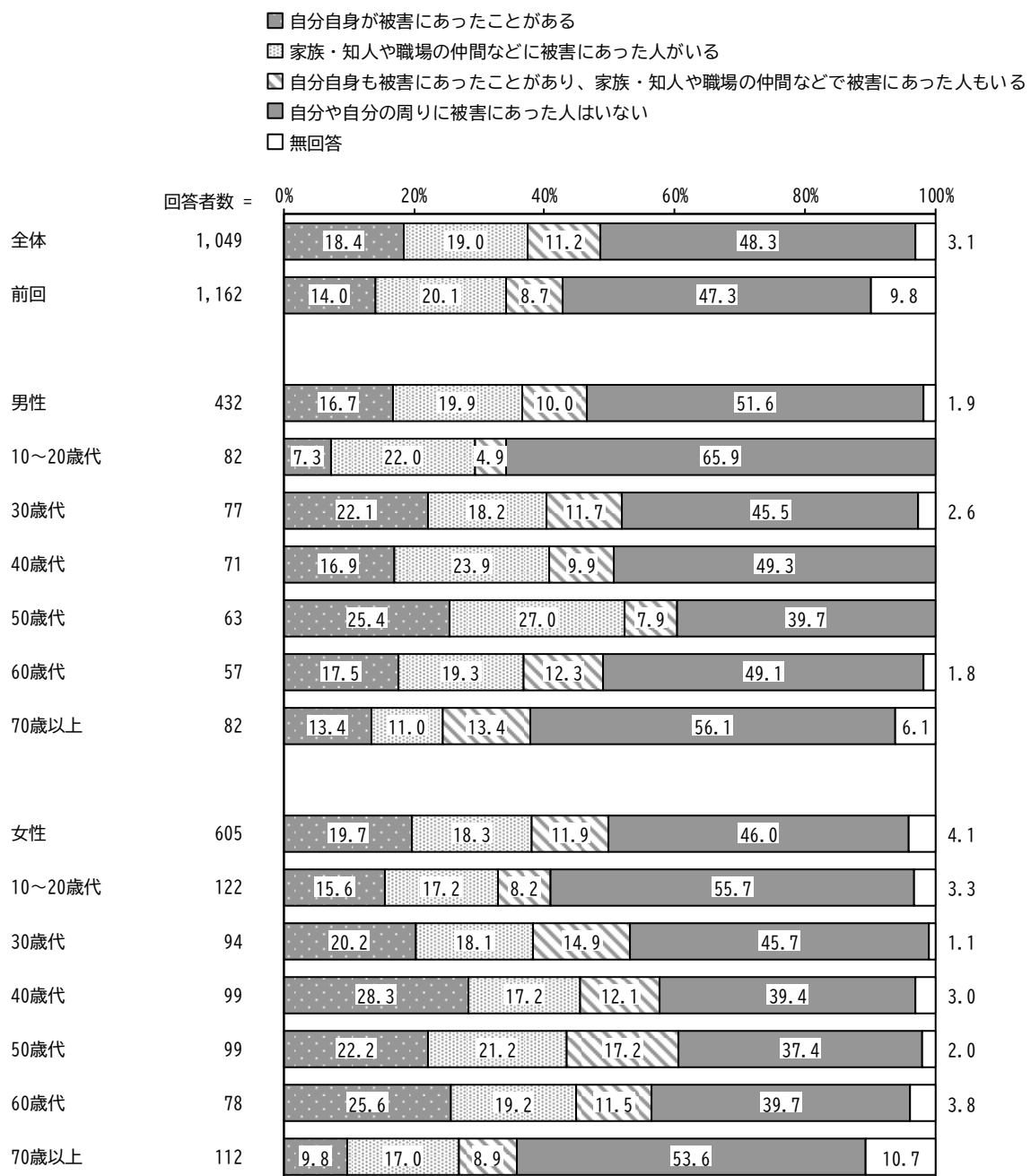
問 17 あなた自身や周りの方が、職場で何らかのハラスメント（嫌がらせ）を受けたことがありますか。（○は1つ）

「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「家族・知人や職場の仲間などに被害にあった人がいる」の割合が 19.0%、「自分自身が被害にあったことがある」の割合が 18.4%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、女性では 50 歳代から 10~20 歳代まで年齢が下がるほど「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」の割合が高くなっています。また、男性 10~20 歳代で「自分自身が被害にあったことがある」の割合が低くなっています。

図表 75 職場でのハラスメントの状況



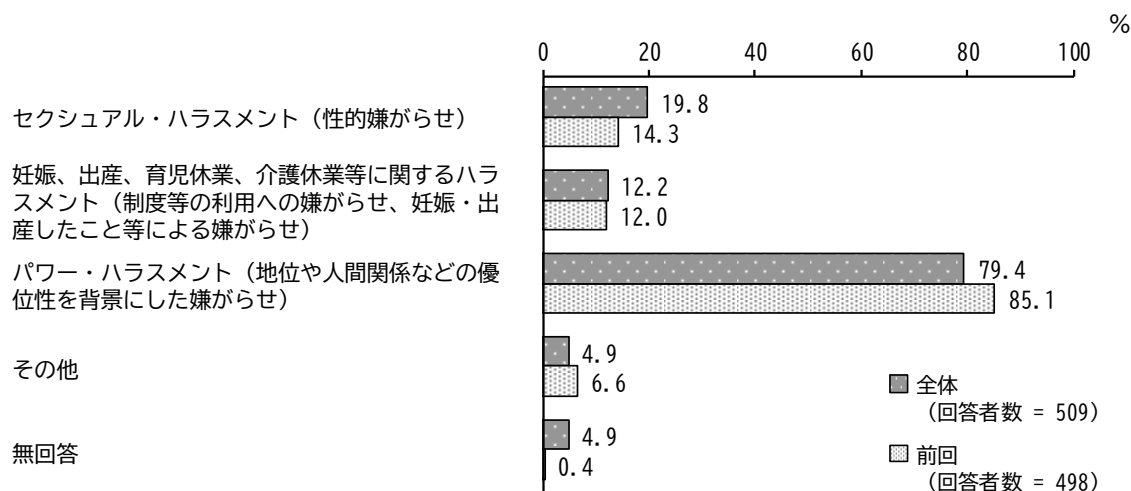
問17で「自分自身が被害にあったことがある」、「家族・知人や職場の仲間などに被害にあった人がいる」、「自分自身も被害にあったことがあり、家族・知人や職場の仲間などで被害にあった人もいる」を選ばれた方におたずねします。

問17-1 それは、次のうちいずれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が19.8%、「妊娠、出産、育児休業、介護休業等に関するハラスメント（制度等の利用への嫌がらせ、妊娠・出産したこと等による嫌がらせ）」の割合が12.2%、「パワー・ハラスメント（地位や人間関係などの優位性を背景にした嫌がらせ）」の割合が79.4%となっています。

前回と比較すると、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」の割合が増加しています。一方、「パワー・ハラスメント（地位や人間関係などの優位性を背景にした嫌がらせ）」の割合が減少しています。

図表 76 受けたハラスメントの内容



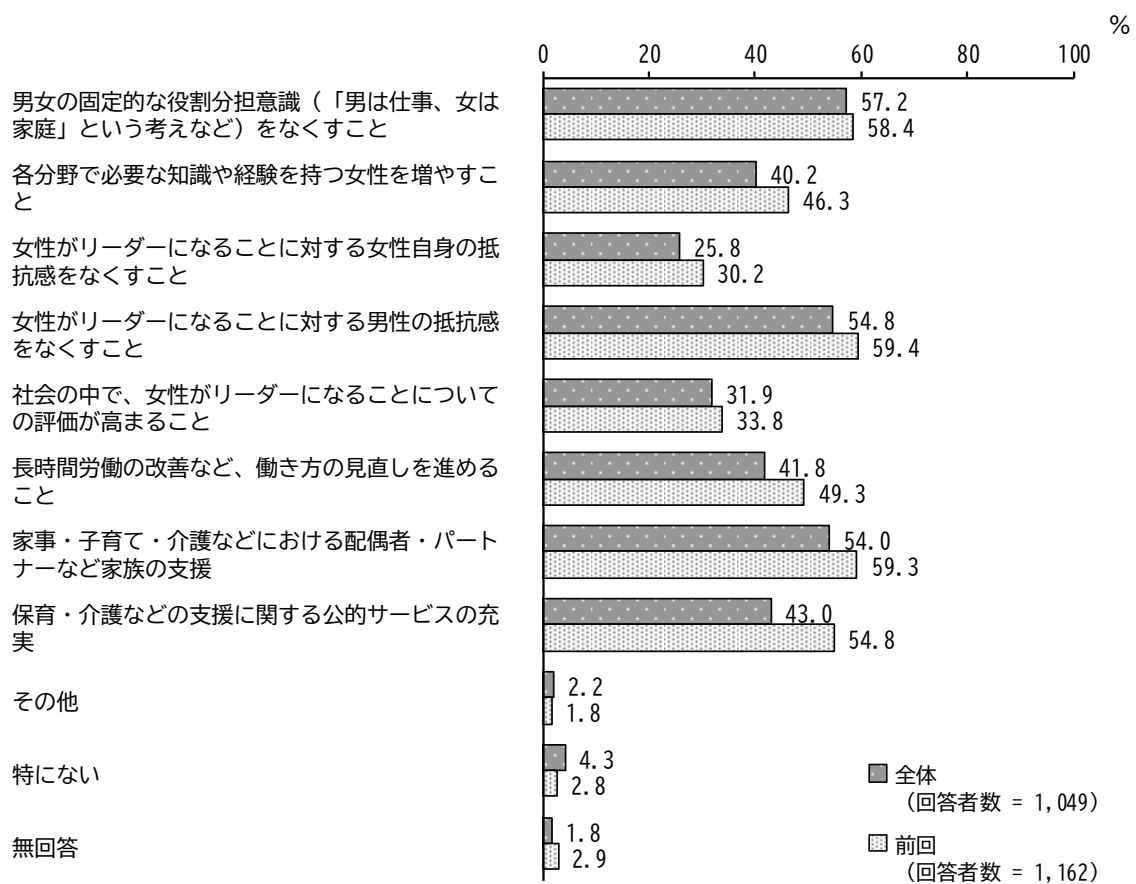
※前回調査の選択肢では、「パワー・ハラスメント（地位や人間関係などの優位性を背景にした嫌がらせ）」が「パワー・ハラスメント（地位や人間関係など職場内での優位性を背景にした嫌がらせ）」となっていました。

問18 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすために必要なこととは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）をなくすこと」の割合が57.2%と最も高く、次いで「女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」の割合が54.8%、「家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援」の割合が54.0%となっています。

前回と比較すると、「各分野で必要な知識や経験を持つ女性を増やすこと」「長時間労働の改善など、働き方の見直しを進めること」「家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援」「保育・介護などの支援に関する公的サービスの充実」の割合が減少しています。

図表 77 各分野における女性リーダーの育成



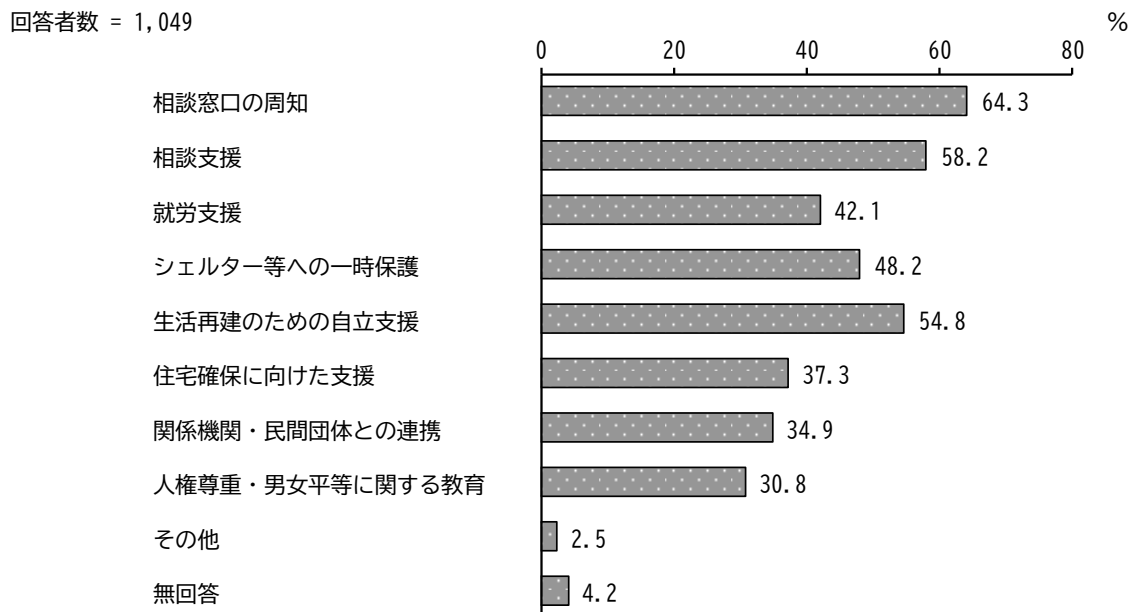
※前回調査の選択肢では、「社会の中で、女性がリーダーになることについての評価が高まること」が「社会の中で、女性がリーダーになることについての評価を高めること」、「家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援」が「家事・子育て・介護などにおける夫など家族の支援」となっていました。

## 5 困難な問題を抱える女性への支援、DV等の状況について

問19 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されています。あなたは、困難な問題を抱える女性（DV被害者、性犯罪・性暴力被害者、予期せぬ妊娠による妊婦など）を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「相談窓口の周知」の割合が64.3%と最も高く、次いで「相談支援」の割合が58.2%、「生活再建のための自立支援」の割合が54.8%となっています。

図表 78 困難な問題を抱える女性を支援するために必要なこと

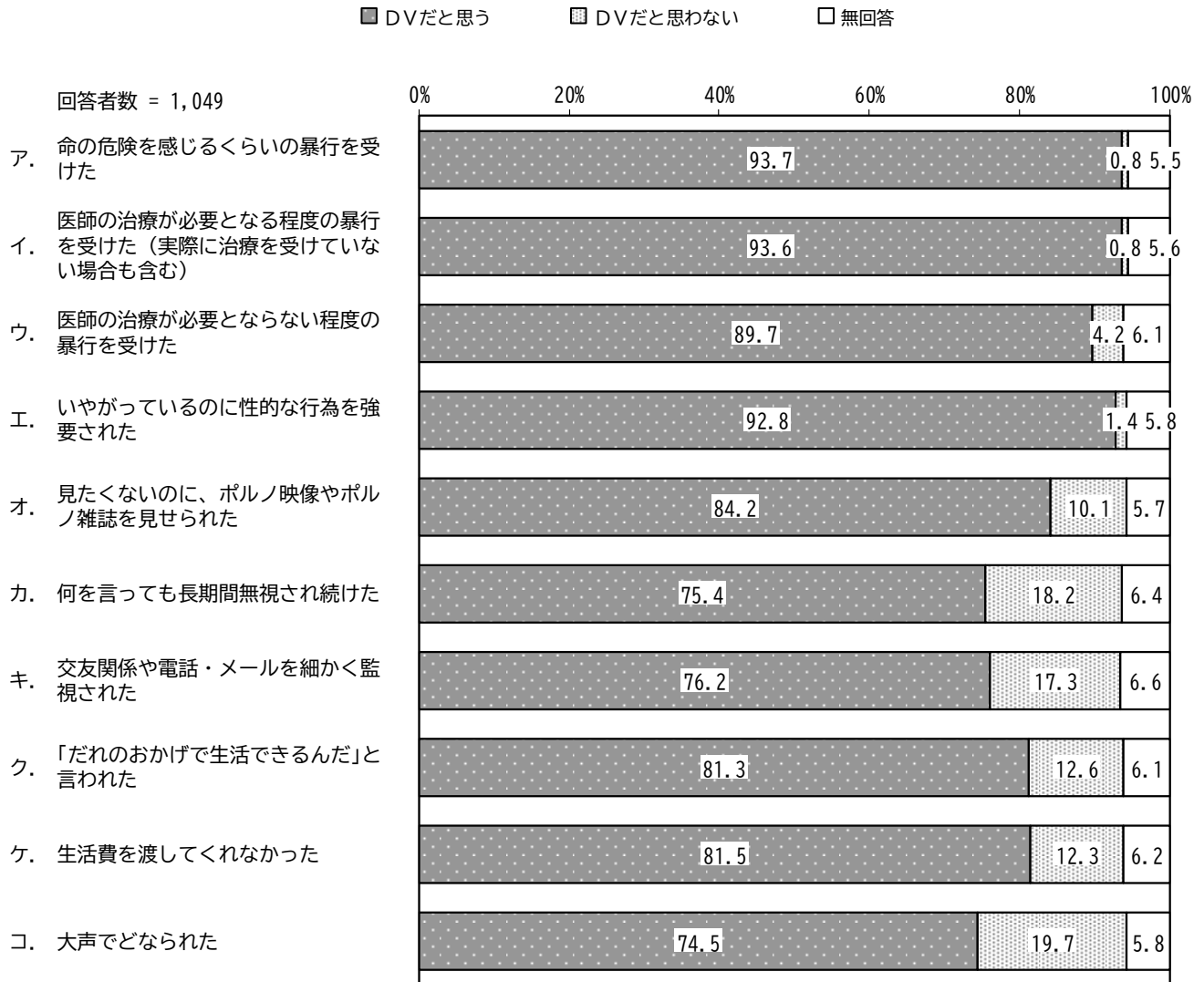


問 20 配偶者や恋人などパートナーからの暴力（DV）について、（A）と（B）2つの質問にお答えください。

（A）あなたは、ア～コのような行為がDVにあたると思いますか。いずれかに○をつけてください。

『ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた』で「DVだと思う」が、『コ. 大声でどなられた』で「DVだと思わない」が高くなっています。

図表 79 DVの認識度

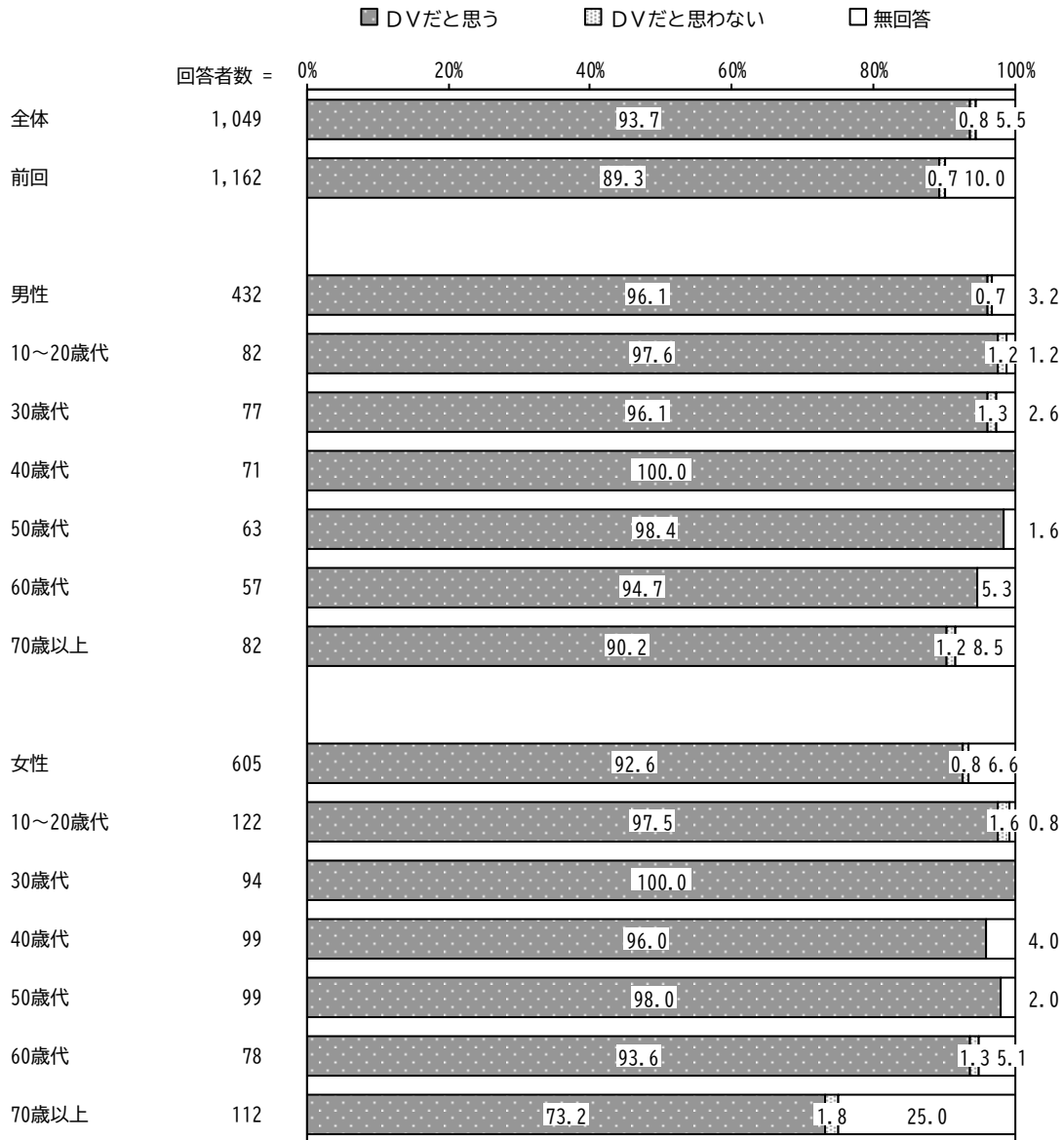


ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた

「DVだと思う」の割合が93.7%、「DVだと思わない」の割合が0.8%となっています。  
 前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思う」の割合が高くなっています。

図表 80 DVの認識度「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」

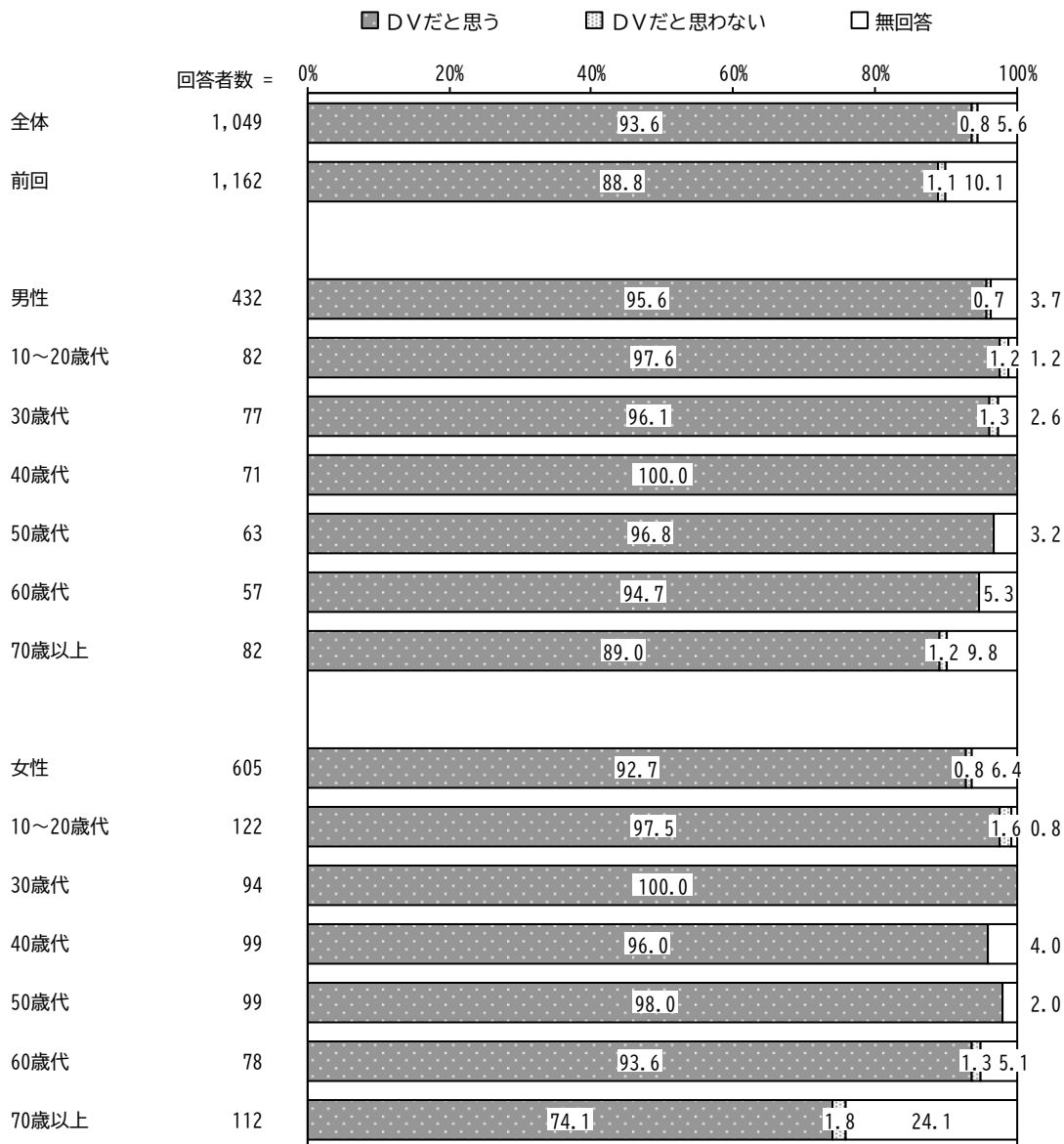


イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた（実際に治療を受けていない場合も含む）

「DVだと思う」の割合が93.6%、「DVだと思わない」の割合が0.8%となっています。前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思う」の割合が高くなっています。

図表 81 DVの認識度「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」

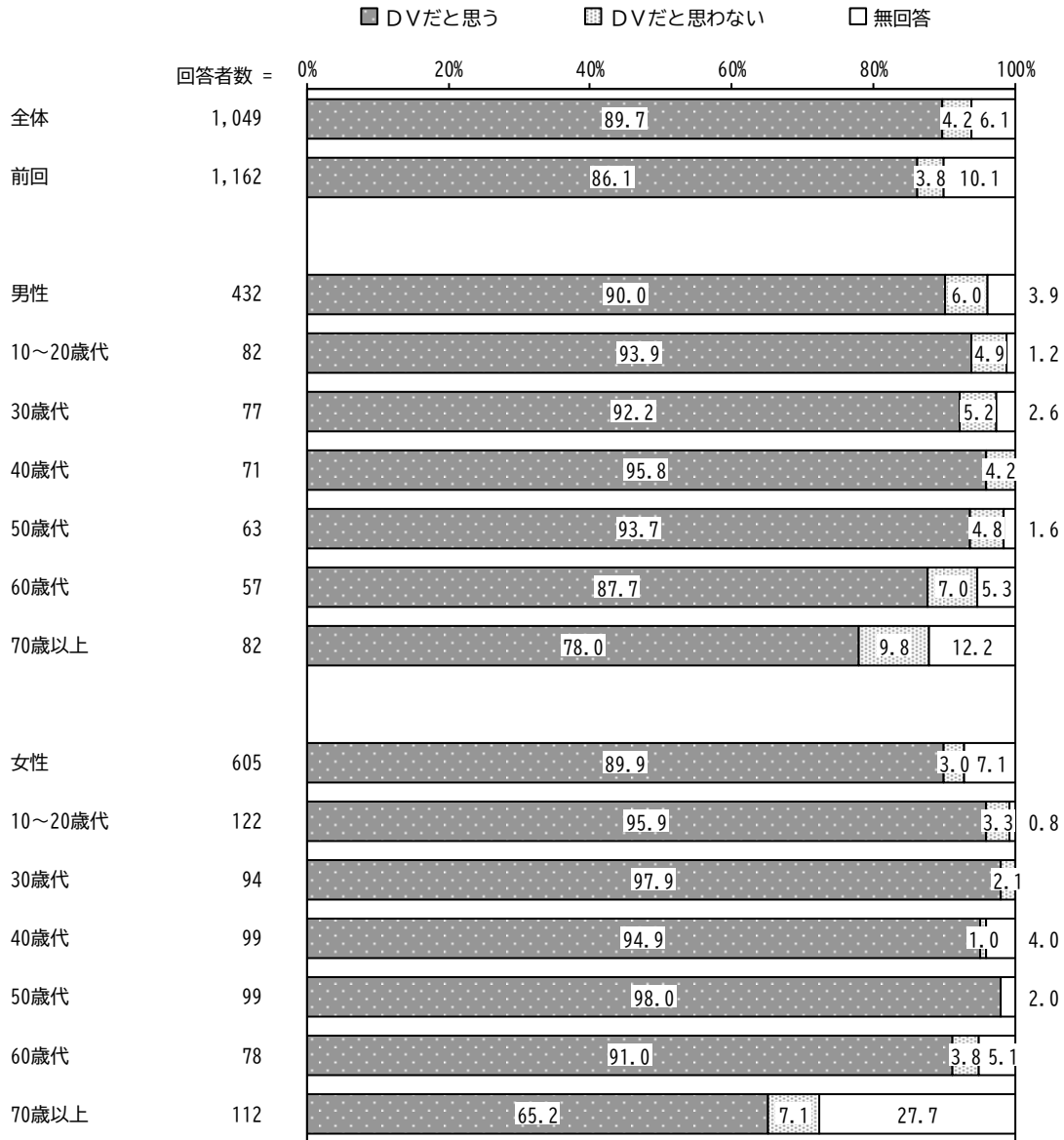


ウ. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた

「DVだと思う」の割合が 89.7%、「DVだと思わない」の割合が 4.2%となっています。  
 前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では 70 歳以上から 40 歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思う」の割合が高くなっています。

図表 82 DVの認識度「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」

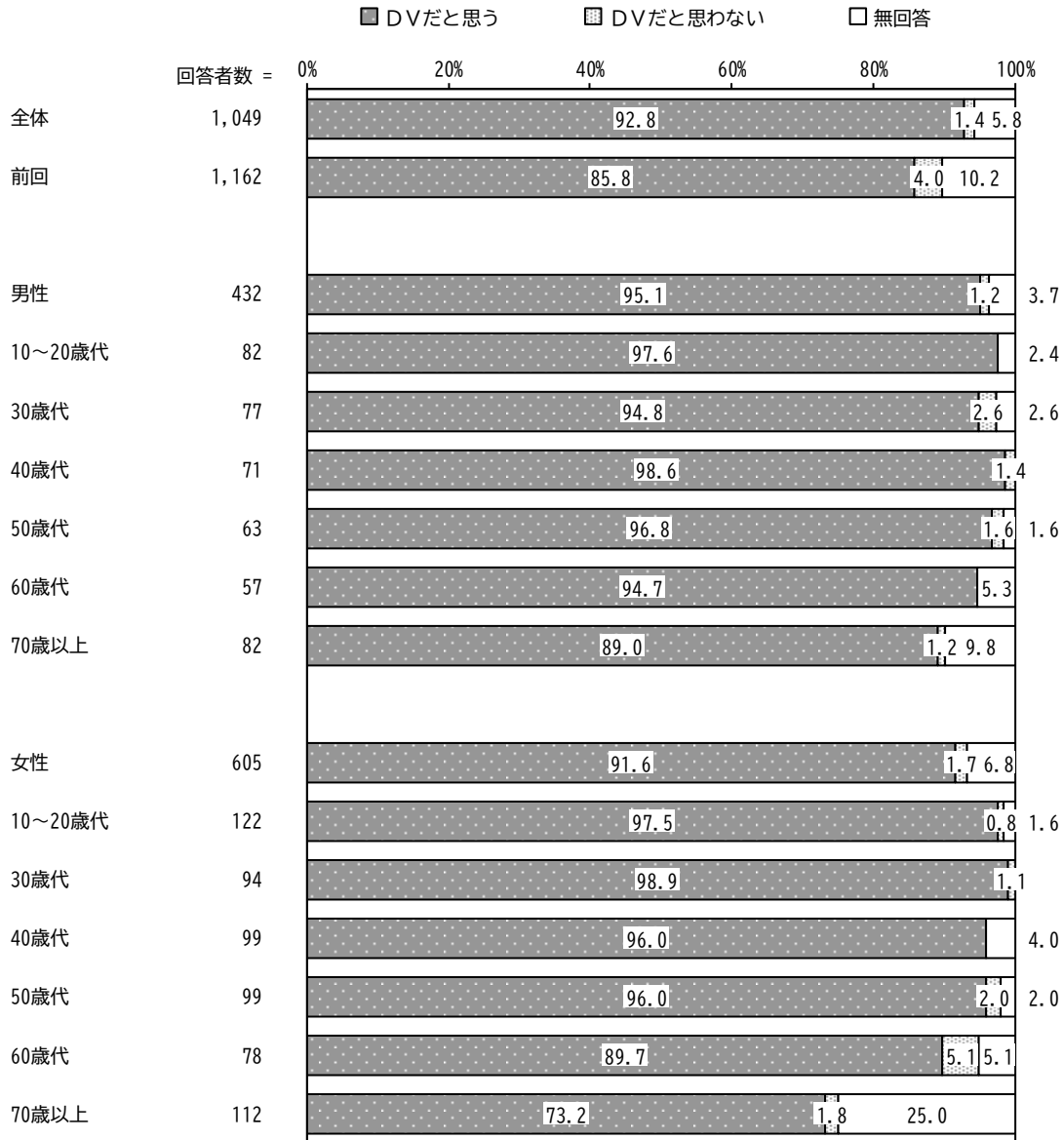


エ. いやがっているのに性的な行為を強要された

「DVだと思う」の割合が92.8%、「DVだと思わない」の割合が1.4%となっています。前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど、女性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思う」の割合が高い傾向にあります。

図表 83 DVの認識度「いやがっているのに性的な行為を強要された」

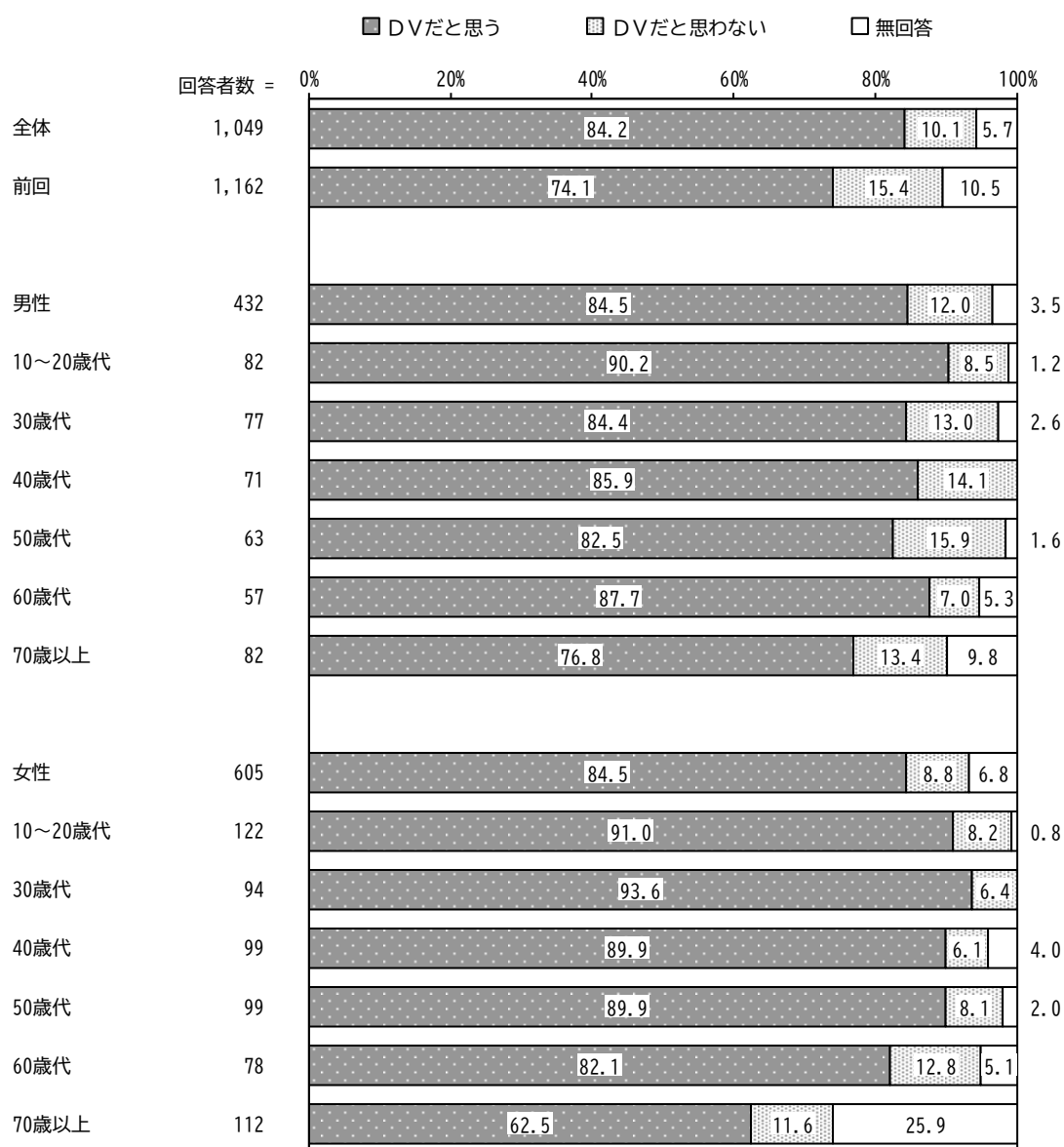


### オ. 見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せられた

「DVだと思う」の割合が84.2%、「DVだと思わない」の割合が10.1%となっています。  
 前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、男性では10～20歳代から50歳代まで年齢が上がるほど「DVだと思わない」の割合が高く、女性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思う」の割合が高い傾向にあります。

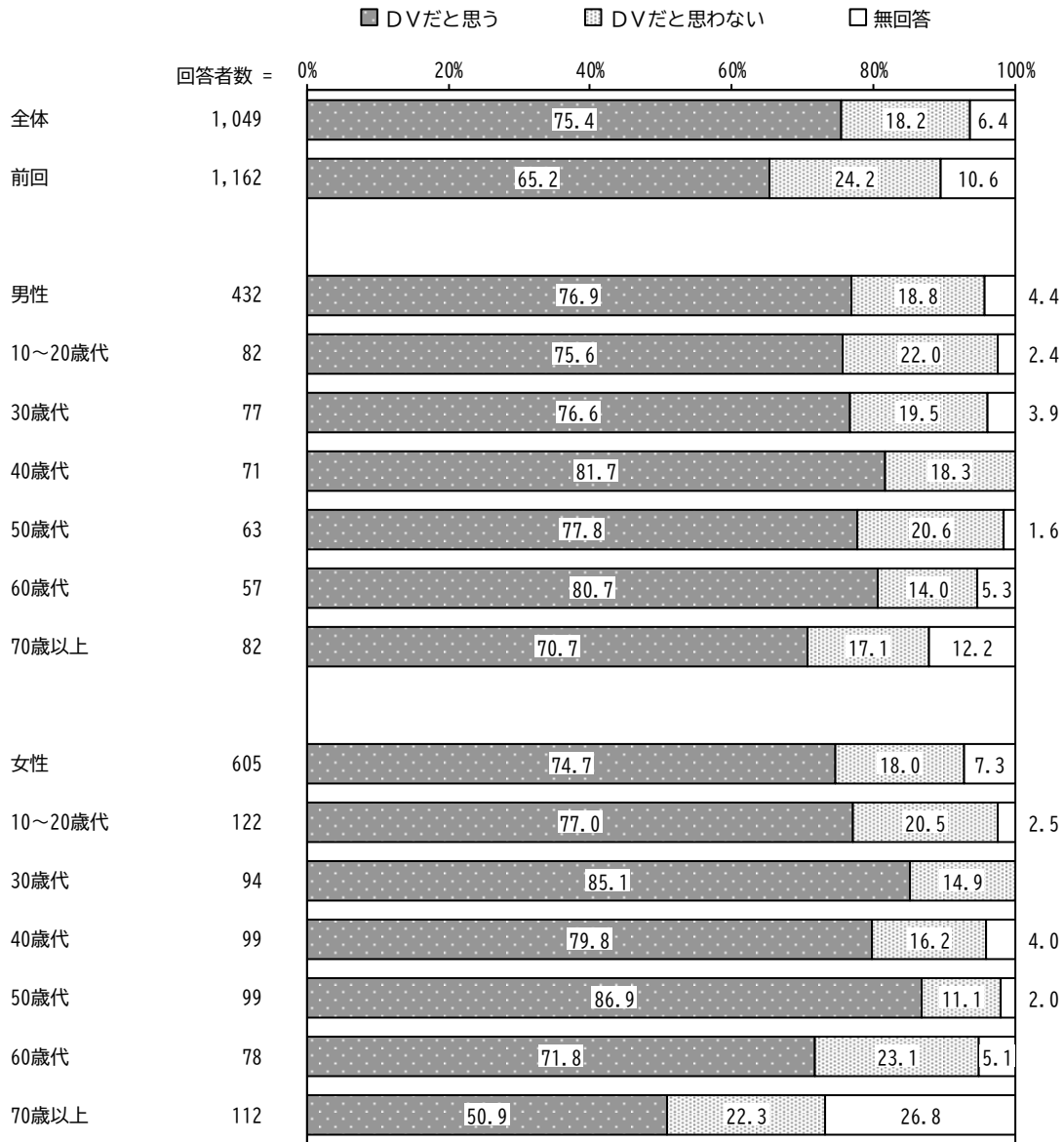
図表 84 DVの認識度「見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せられた」



カ. 何を言っても長期間無視され続けた

「DVだと思う」の割合が75.4%、「DVだと思わない」の割合が18.2%となっています。  
 前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。  
 性・年齢別にみると、女性50歳代で「DVだと思う」の割合が高くなっています。

図表 85 DVの認識度「何を言っても長期間無視され続けた」

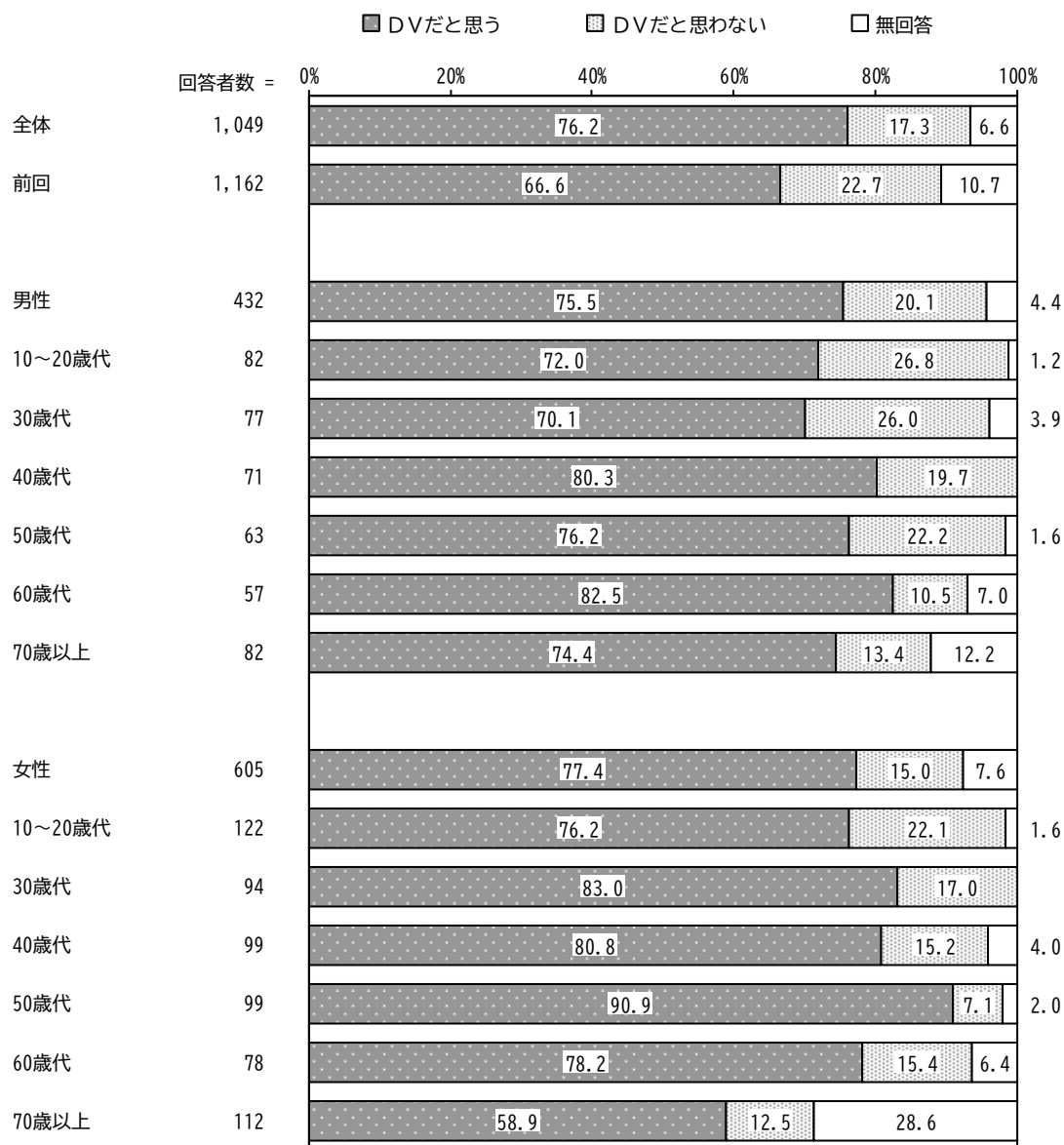


### キ. 交友関係や電話・メールを細かく監視された

「DVだと思う」の割合が76.2%、「DVだと思わない」の割合が17.3%となっています。  
前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、女性では50歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思わない」の割合が高くなっています。

図表 86 DVの認識度「交友関係や電話・メールを細かく監視された」

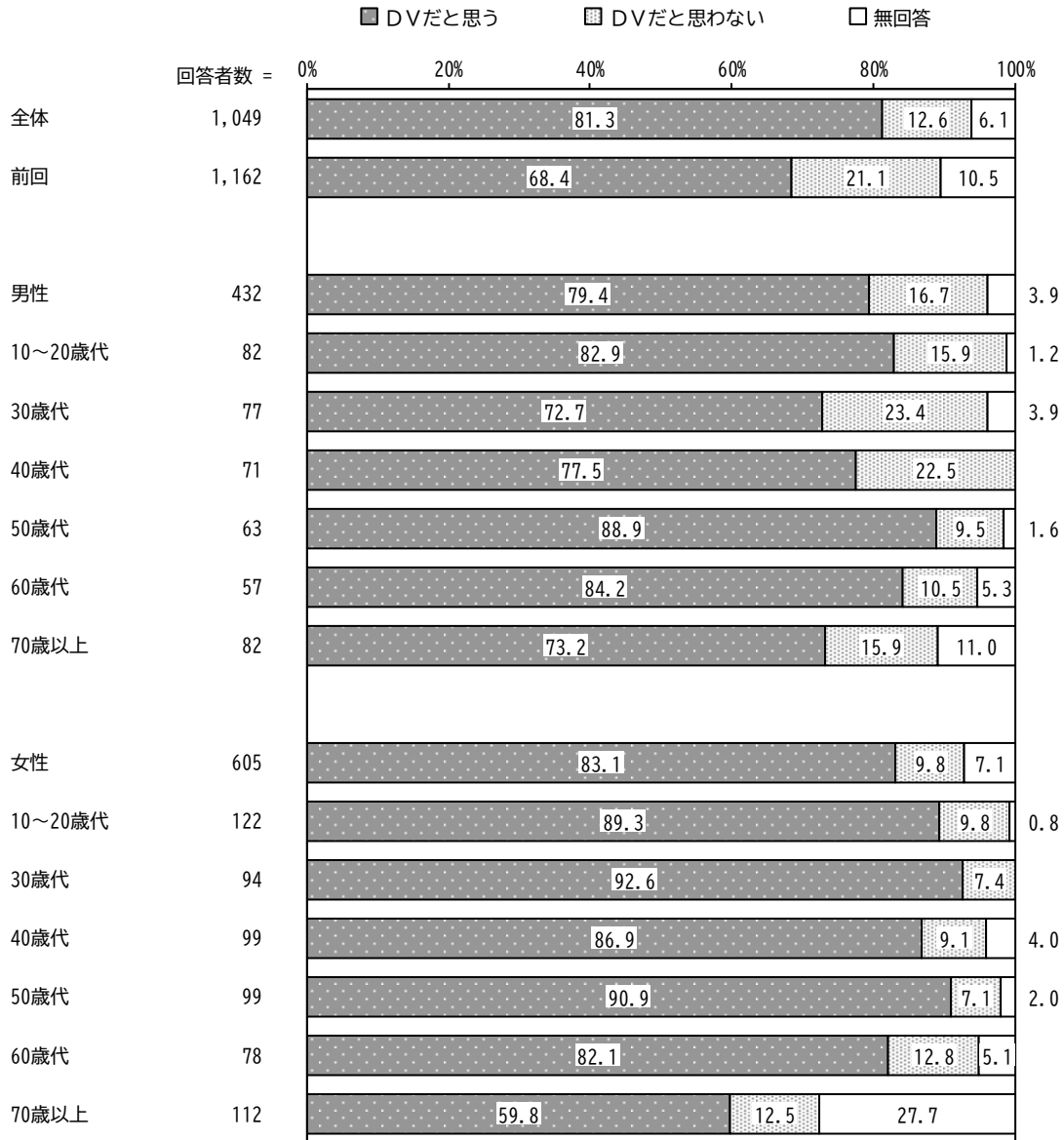


ク。「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた

「DVだと思う」の割合が81.3%、「DVだと思わない」の割合が12.6%となっています。  
 前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、女性30歳代で「DVだと思う」、男性30歳代で「DVだと思わない」の割合が高くなっています。

図表 87 DVの認識度「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた

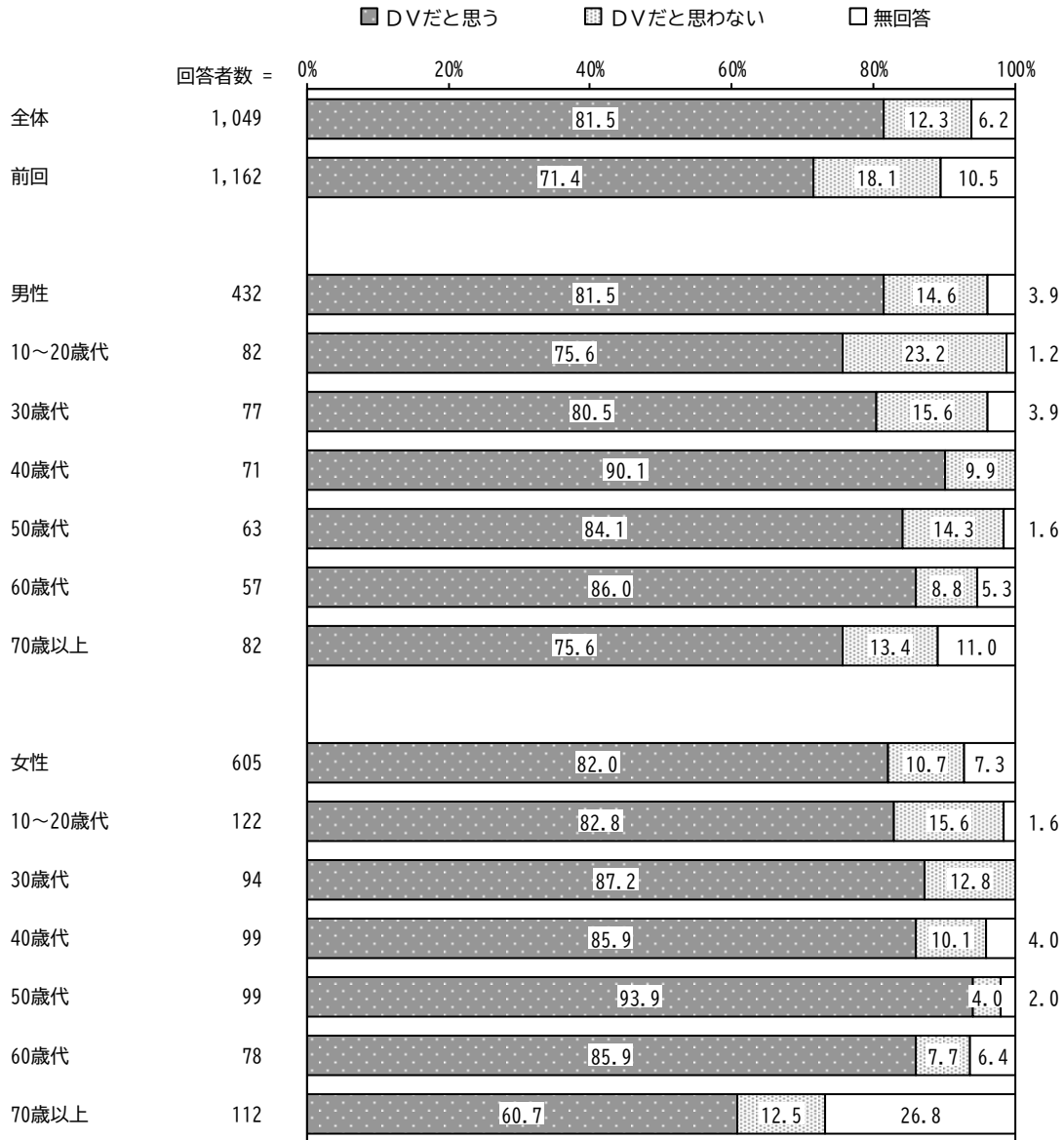


ケ. 生活費を渡してくれなかった

「DVだと思う」の割合が81.5%、「DVだと思わない」の割合が12.3%となっています。  
 前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、女性では50歳代から10～20歳代まで年齢が下がるほど「DVだと思わない」の割合が高くなっています。

図表 88 DVの認識度「生活費を渡してくれなかった」

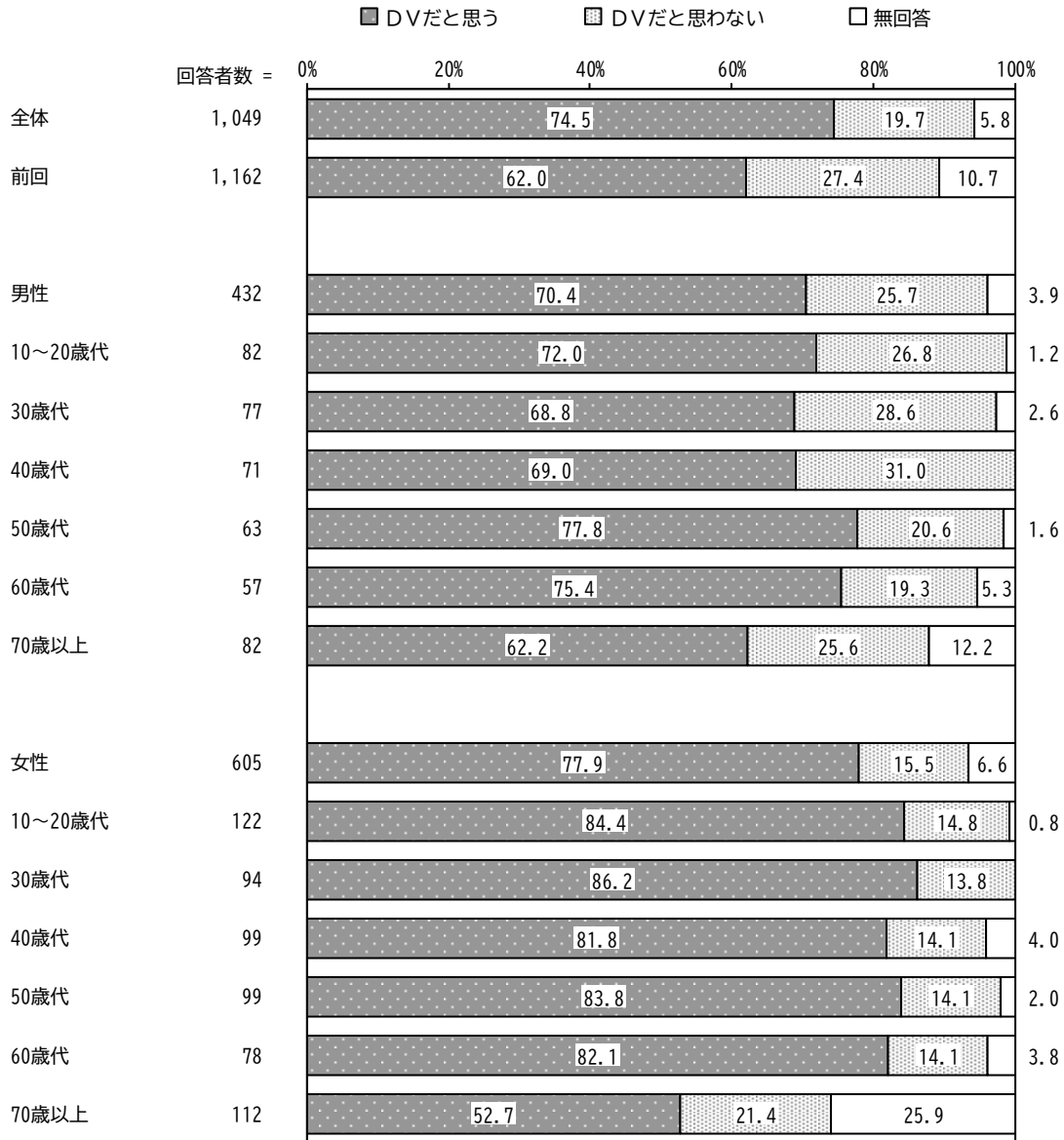


## コ. 大声でどなられた

「DVだと思う」の割合が74.5%、「DVだと思わない」の割合が19.7%となっています。  
 前回と比較すると、「DVだと思う」の割合が増加しています。

性・年齢別にみると、女性30歳代で「DVだと思う」、男性40歳代で「DVだと思わない」の割合が高くなっています。

図表 89 DVの認識度「大声でどなられた」

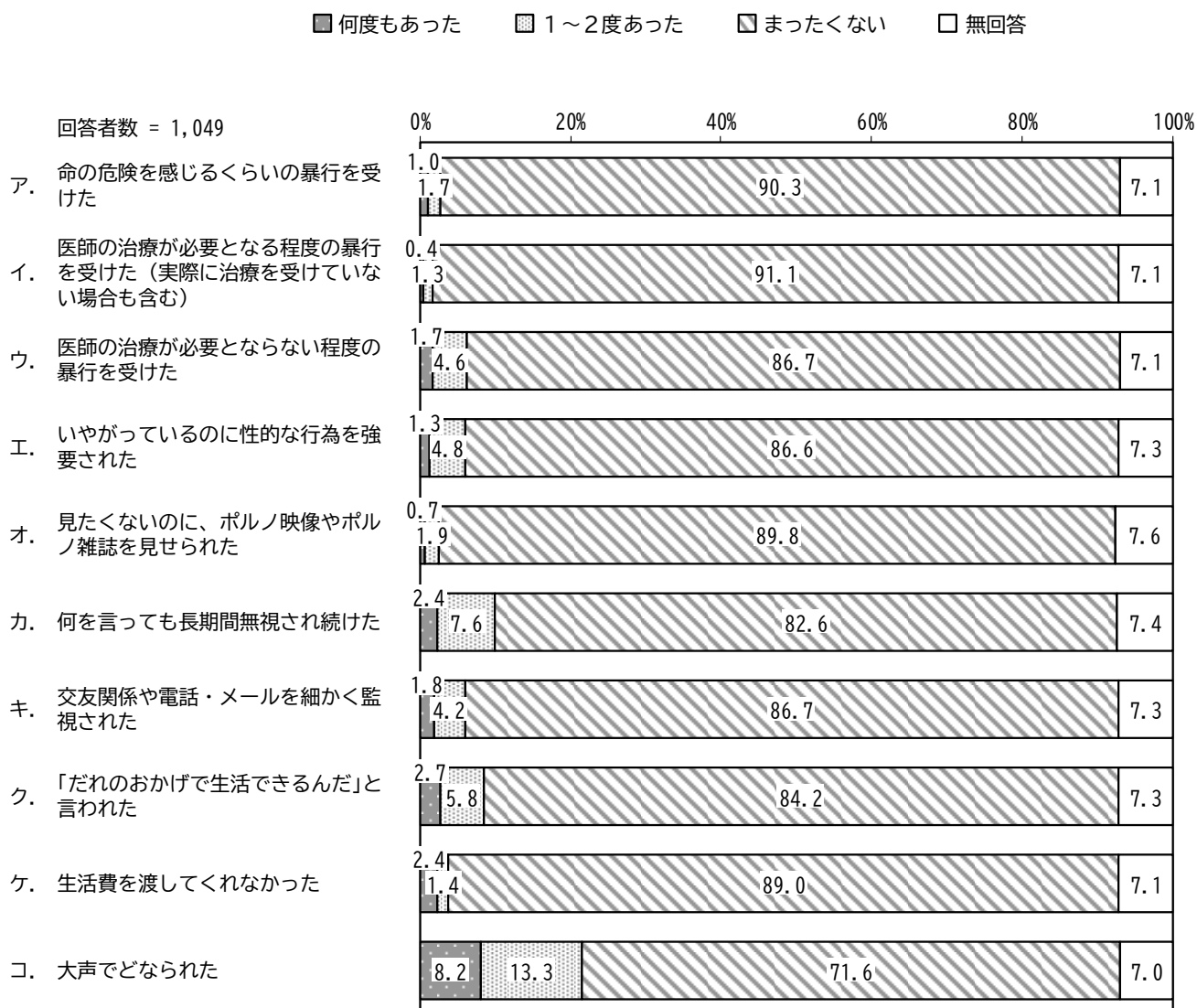


(B) あなたは配偶者や恋人などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。

いずれかに○をつけてください。

『コ. 大声でどなられた』で「何度もあった」「1～2度あった」が、『イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた（実際に治療を受けていない場合も含む）』で「まったくない」が高くなっています。

図表 90 DVを受けた経験



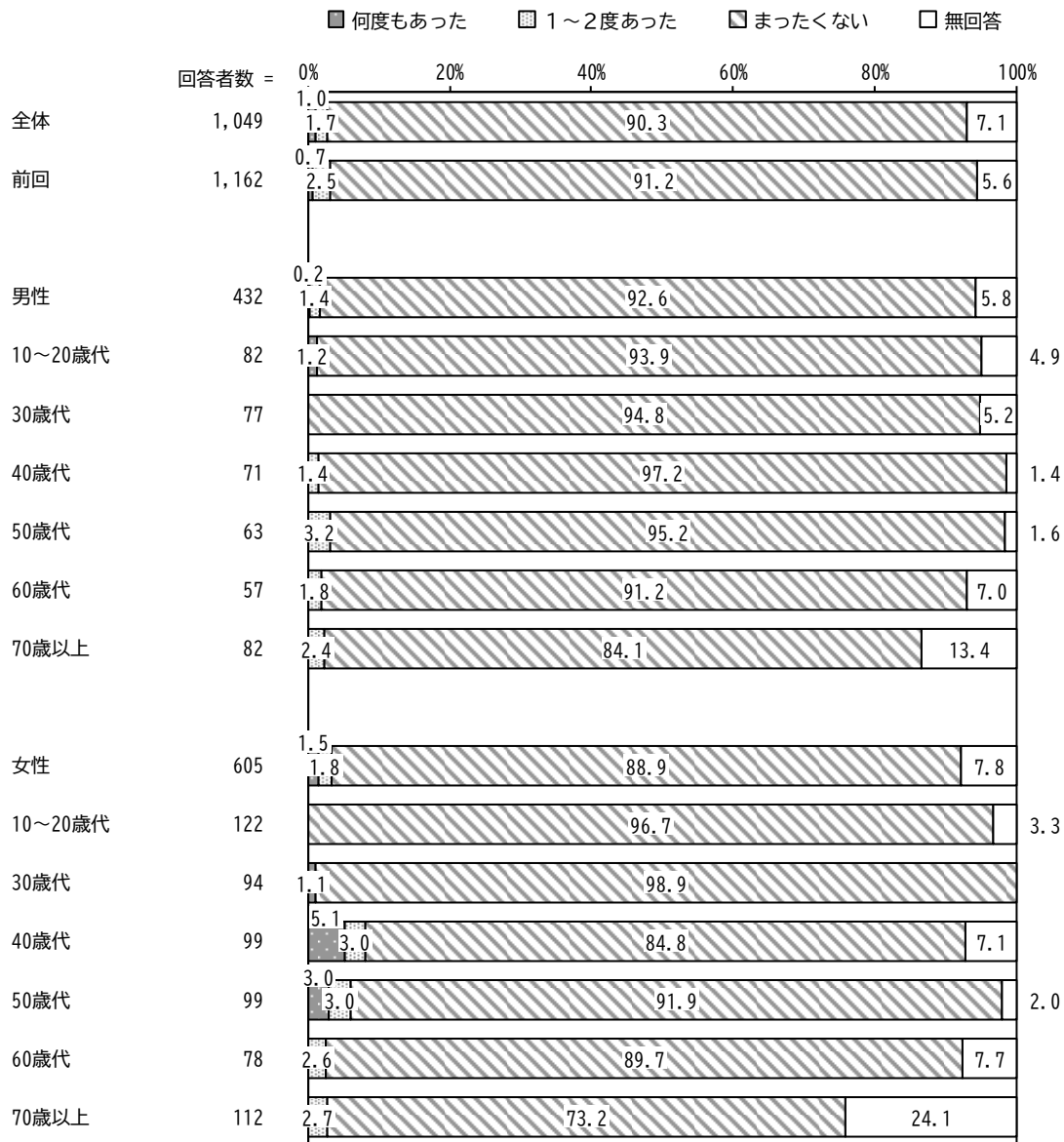
## ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた

「何度もあった」の割合が1.0%、「1～2度あった」の割合が1.7%、「まったくない」の割合が90.3%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 91 DVを受けた経験「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」



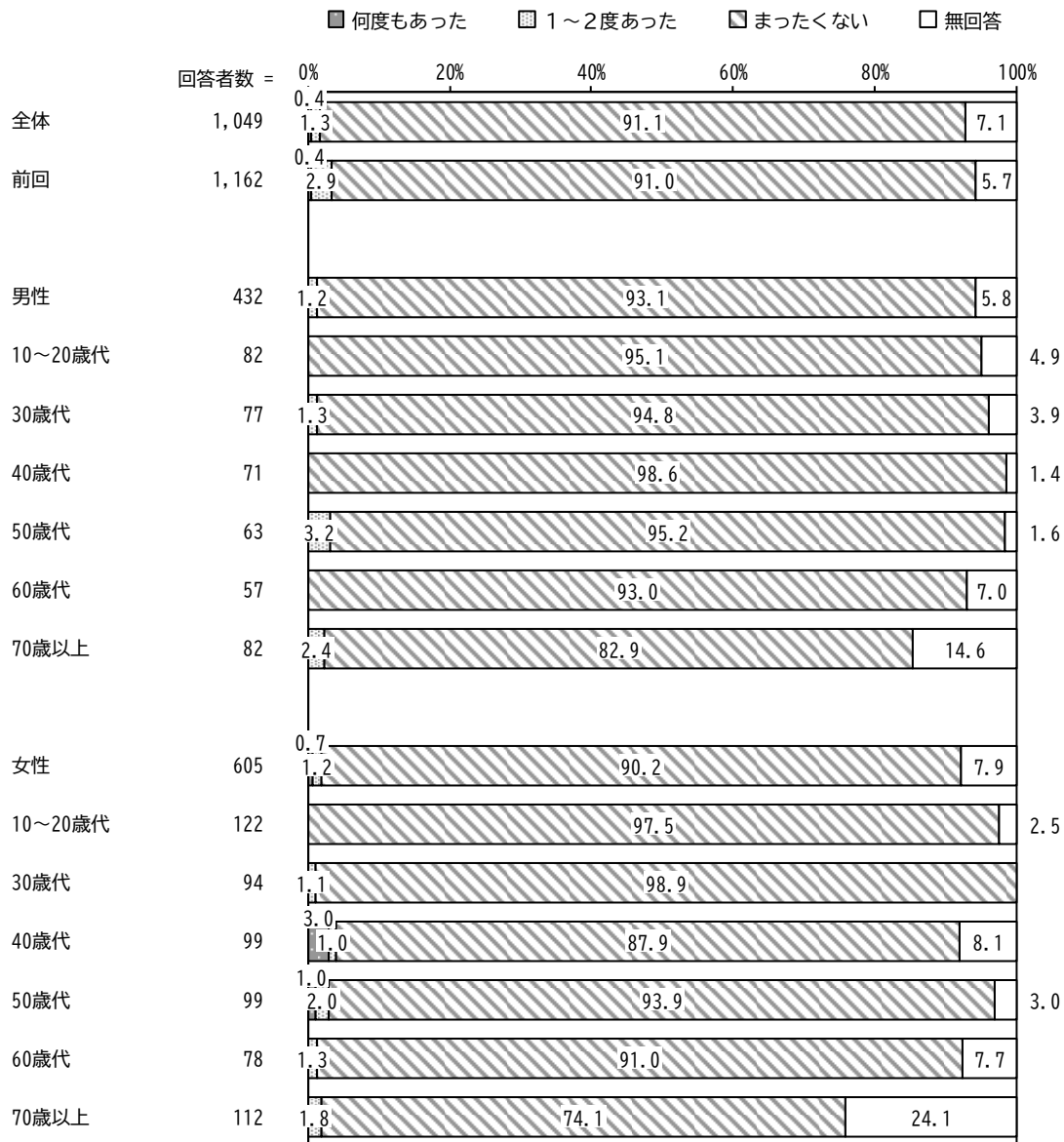
イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた（実際に治療を受けていない場合も含む）

「何度もあった」の割合が0.4%、「1～2度あった」の割合が1.3%、「まったくない」の割合が91.1%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 92 DVを受けた経験「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」



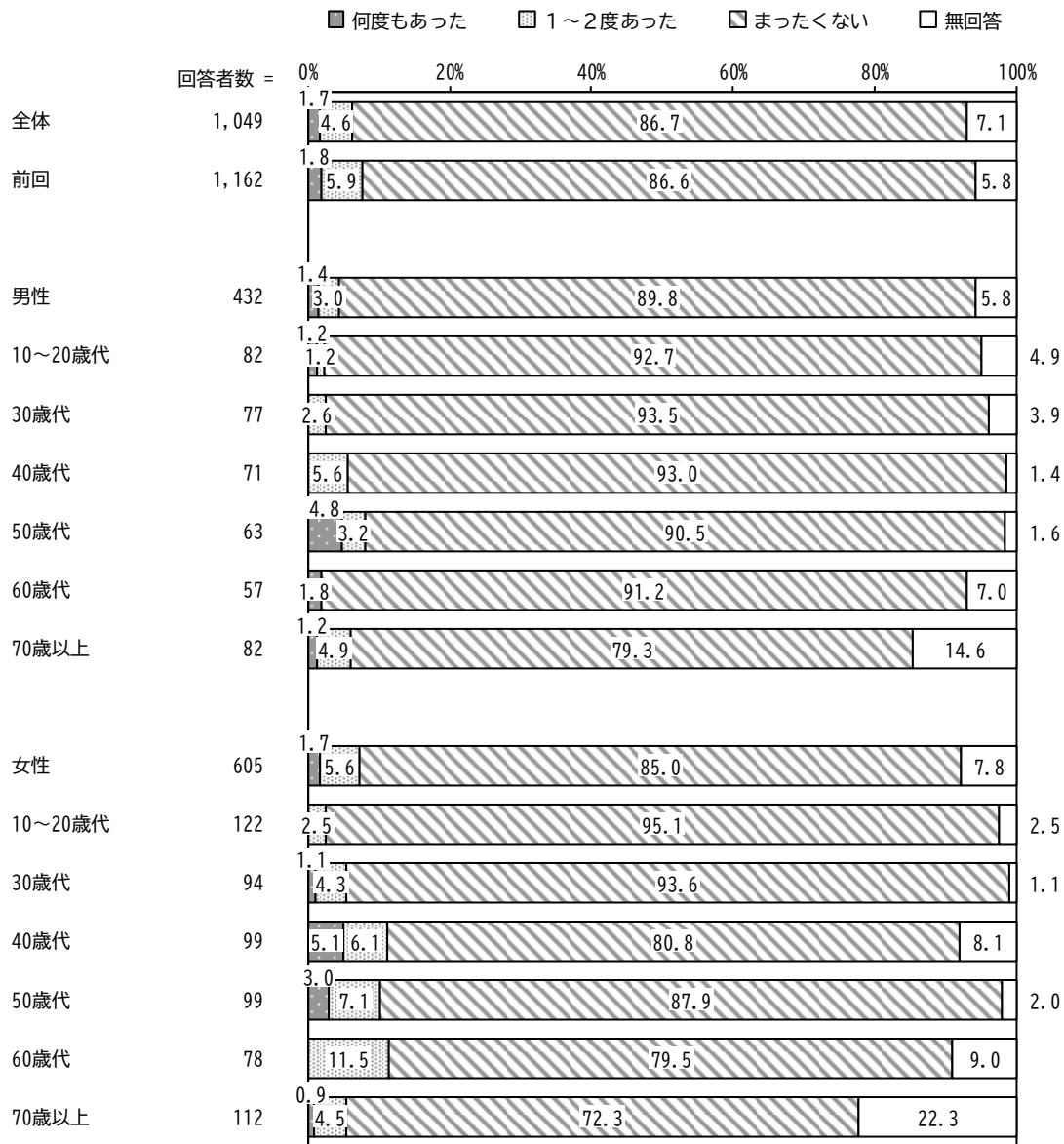
ウ. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた

「何度もあった」の割合が1.7%、「1～2度あった」の割合が4.6%、「まったくない」の割合が86.7%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「1～2度あった」の割合が高くなっています。

図表 93 DVを受けた経験「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」



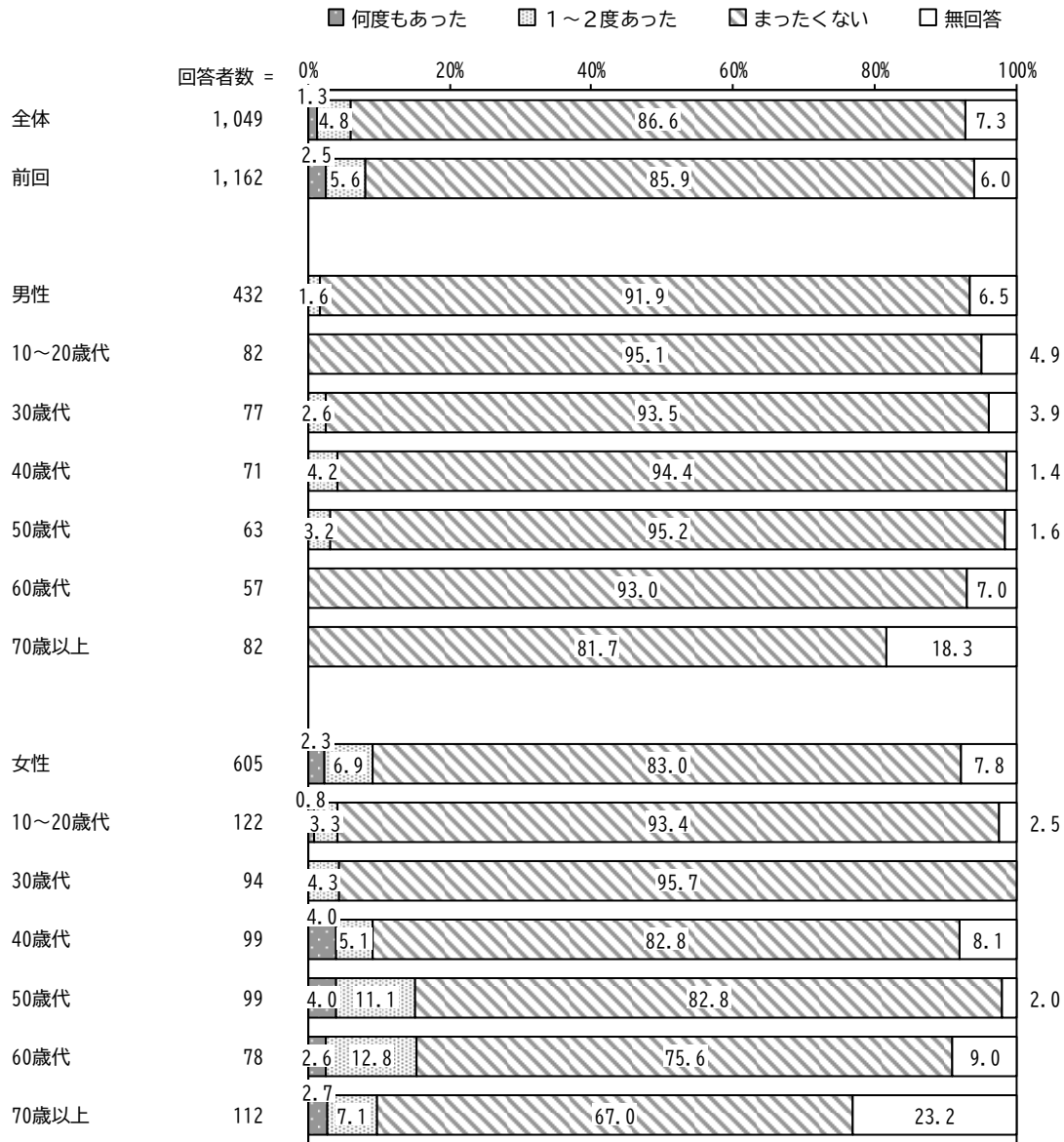
## エ. いやがっているのに性的な行為を強要された

「何度もあった」の割合が1.3%、「1～2度あった」の割合が4.8%、「まったくない」の割合が86.6%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、女性では70歳以上から30歳代まで年齢が下がるほど「まったくない」の割合が高い傾向にあります。

図表 94 DVを受けた経験「いやがっているのに性的な行為を強要された」



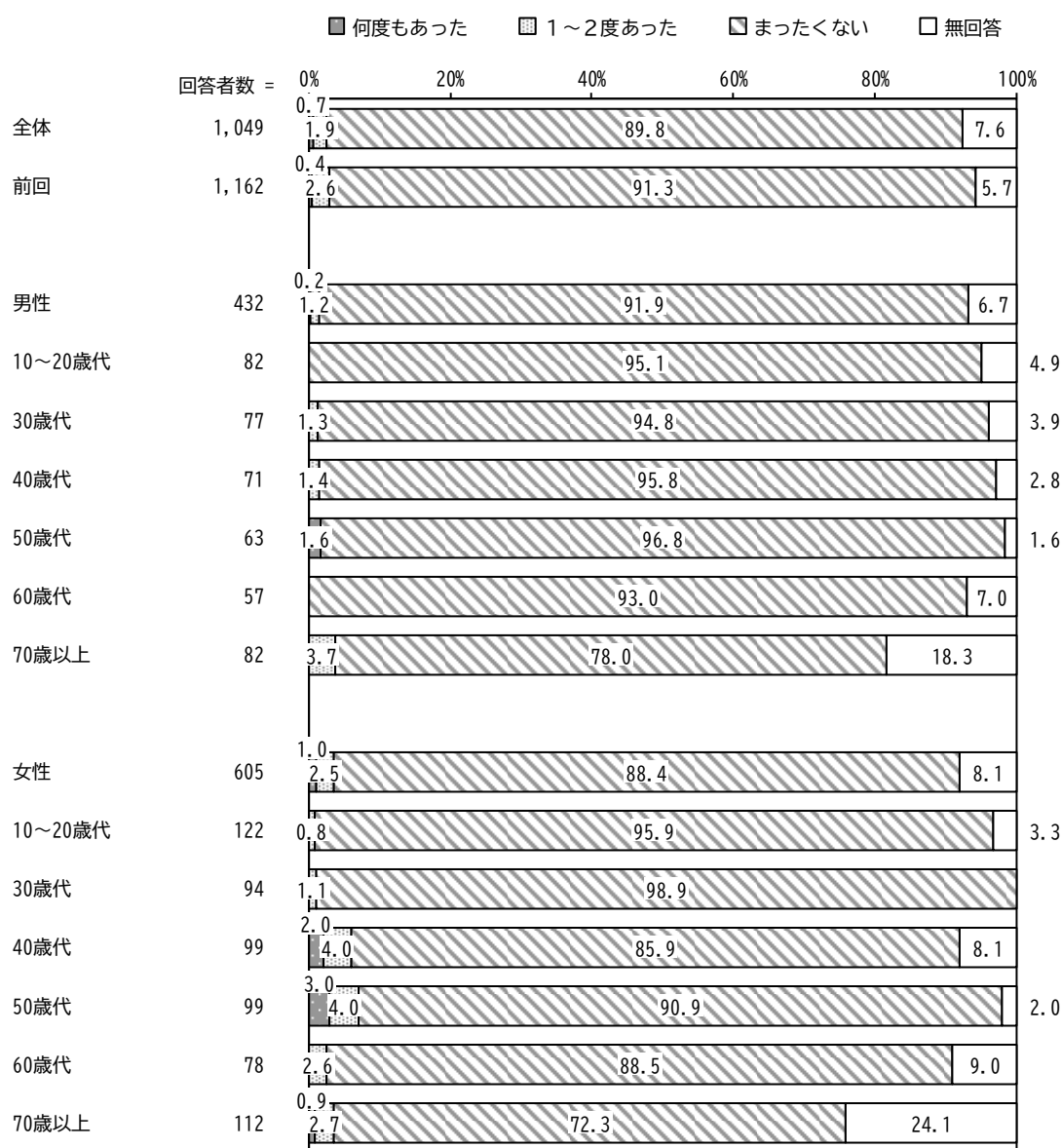
## オ. 見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せられた

「何度もあった」の割合が0.7%、「1～2度あった」の割合が1.9%、「まったくくない」の割合が89.8%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性50歳代、女性10～20歳代、女性30歳代で「まったくくない」の割合が高くなっています。

図表 95 DVを受けた経験「見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せられた」



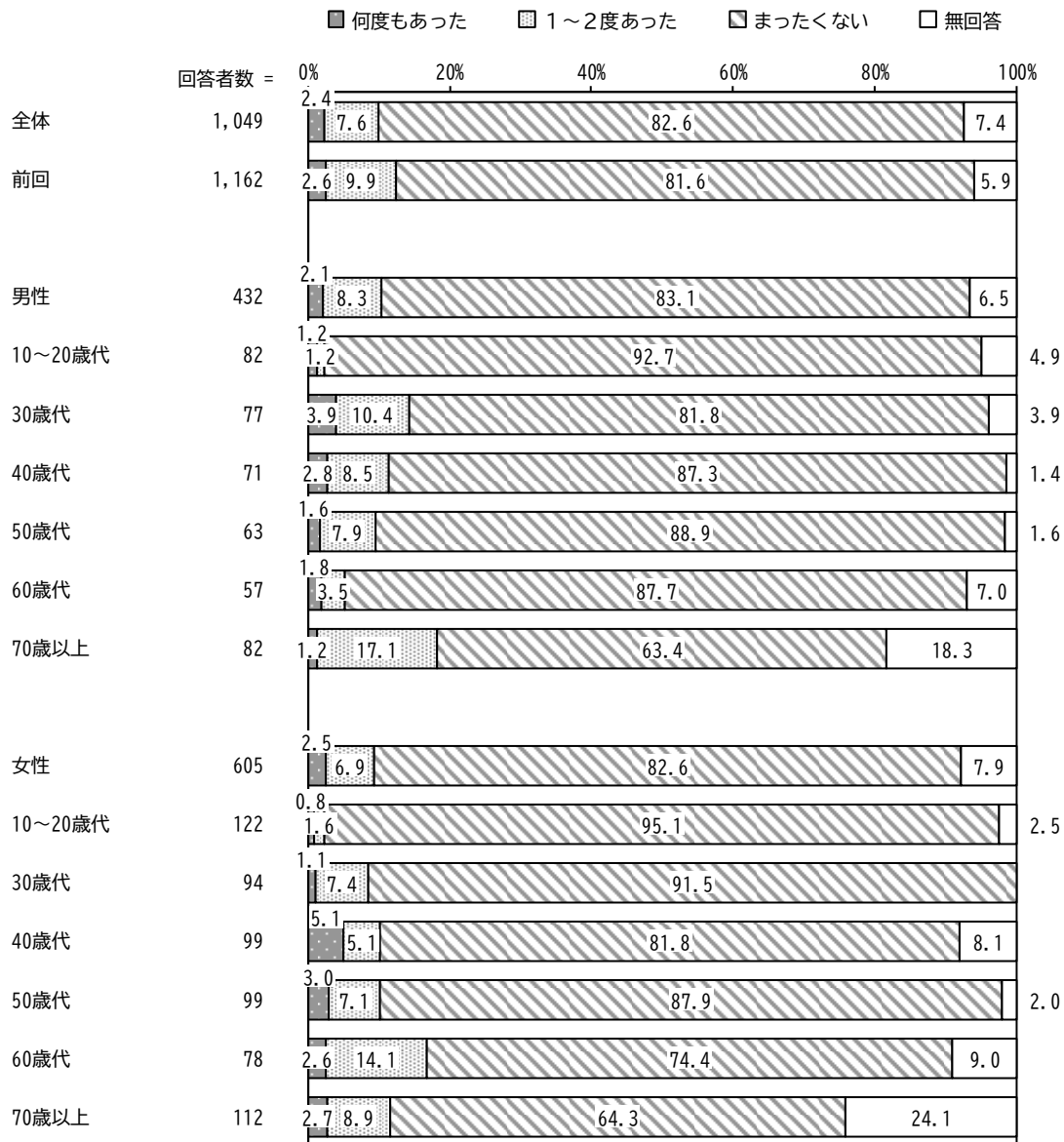
### カ. 何を言っても長期間無視され続けた

「何でもあった」の割合が2.4%、「1～2度あった」の割合が7.6%、「まったくない」の割合が82.6%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では60歳代から30歳代まで年齢が下がるほど「1～2度あった」の割合が高くなっています。また、女性10～20歳代で「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 96 DVを受けた経験「何を言っても長期間無視され続けた」



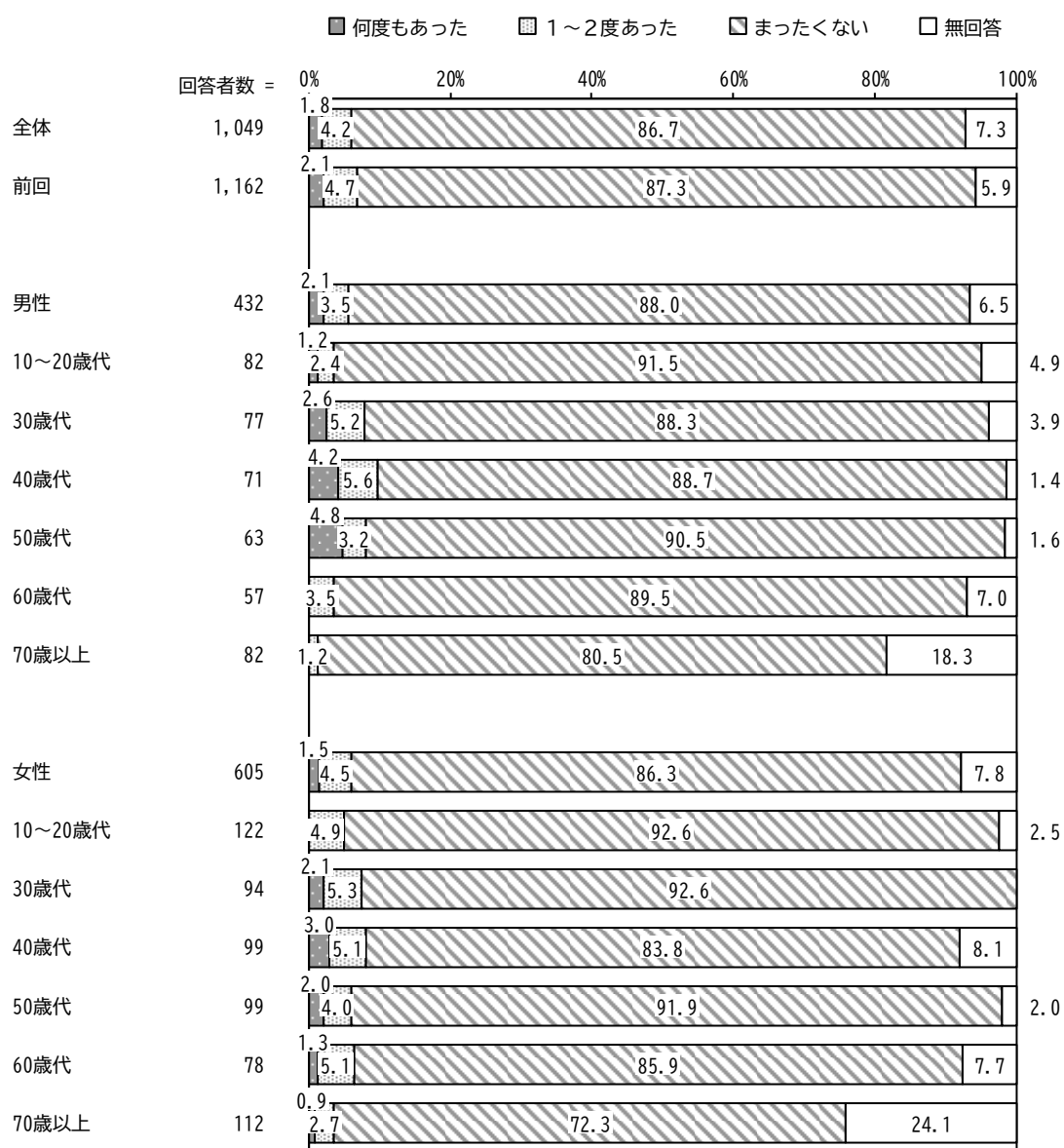
### キ. 交友関係や電話・メールを細かく監視された

「何度もあった」の割合が1.8%、「1～2度あった」の割合が4.2%、「まったくない」の割合が86.7%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、女性10～20歳代、女性30歳代、女性50歳代で「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 97 DVを受けた経験「交友関係や電話・メールを細かく監視された」



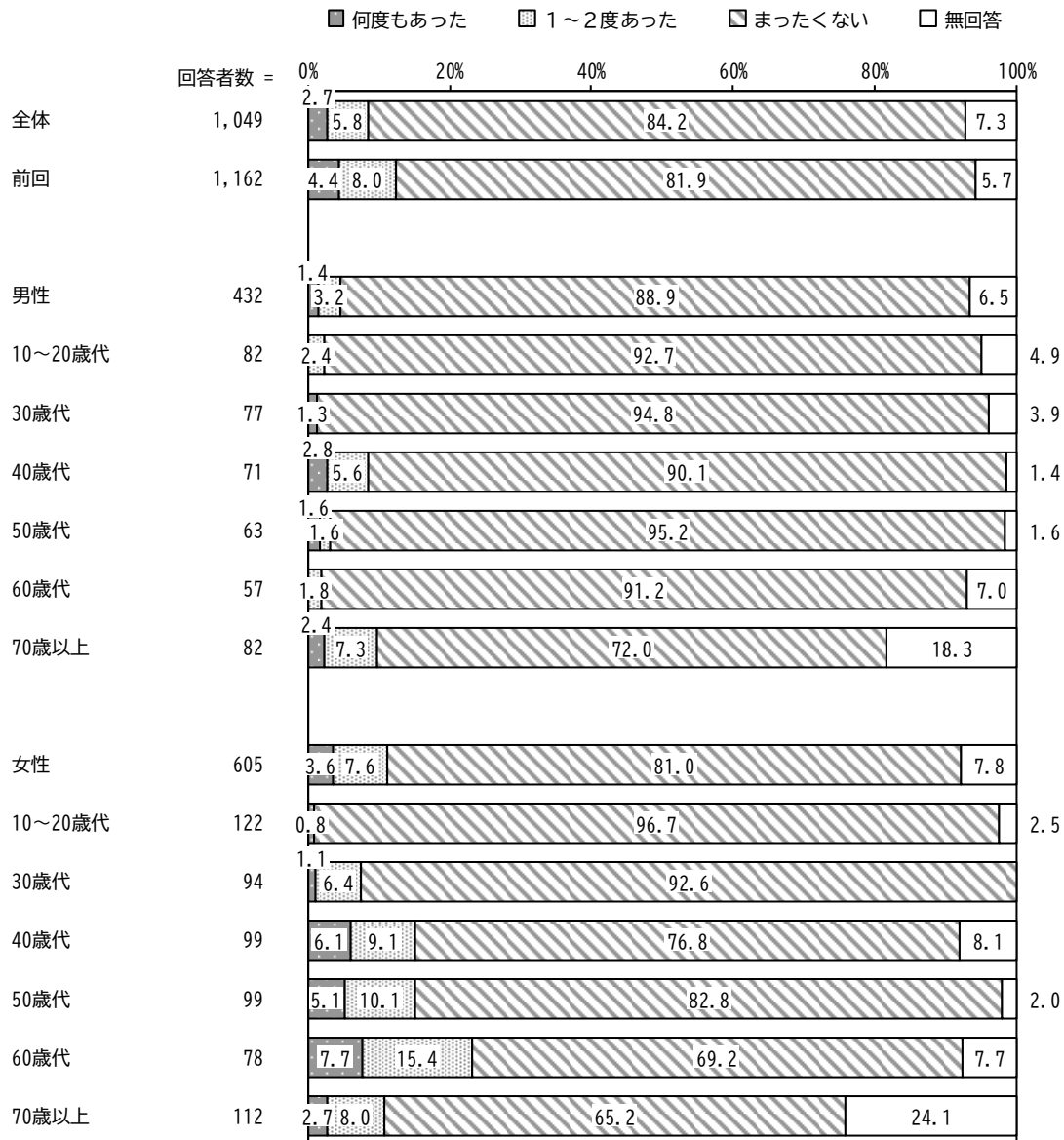
### ク。「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた

「何度もあった」の割合が2.7%、「1～2度あった」の割合が5.8%、「まったくない」の割合が84.2%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、女性では10～20歳代から60歳代まで年齢が上がるほど「1～2度あった」の割合が高くなっています。また、男性30歳代、男性50歳代で「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 98 DVを受けた経験「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた



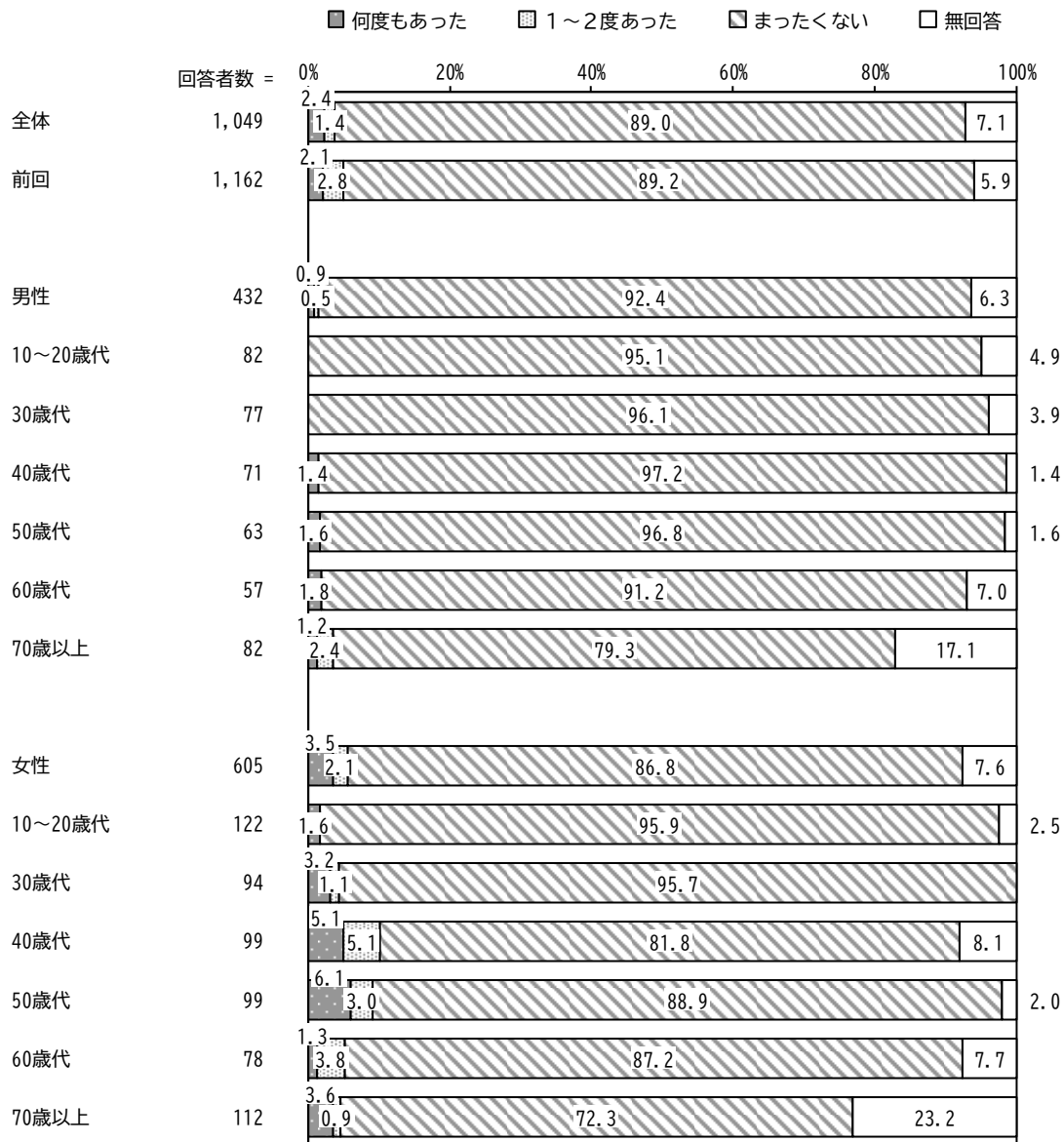
### ケ. 生活費を渡してくれなかった

「何度もあった」の割合が2.4%、「1～2度あった」の割合が1.4%、「まったくない」の割合が89.0%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性・年齢別にみると、男性では70歳以上から40歳代まで年齢が下がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 99 DVを受けた経験「生活費を渡してくれなかった」



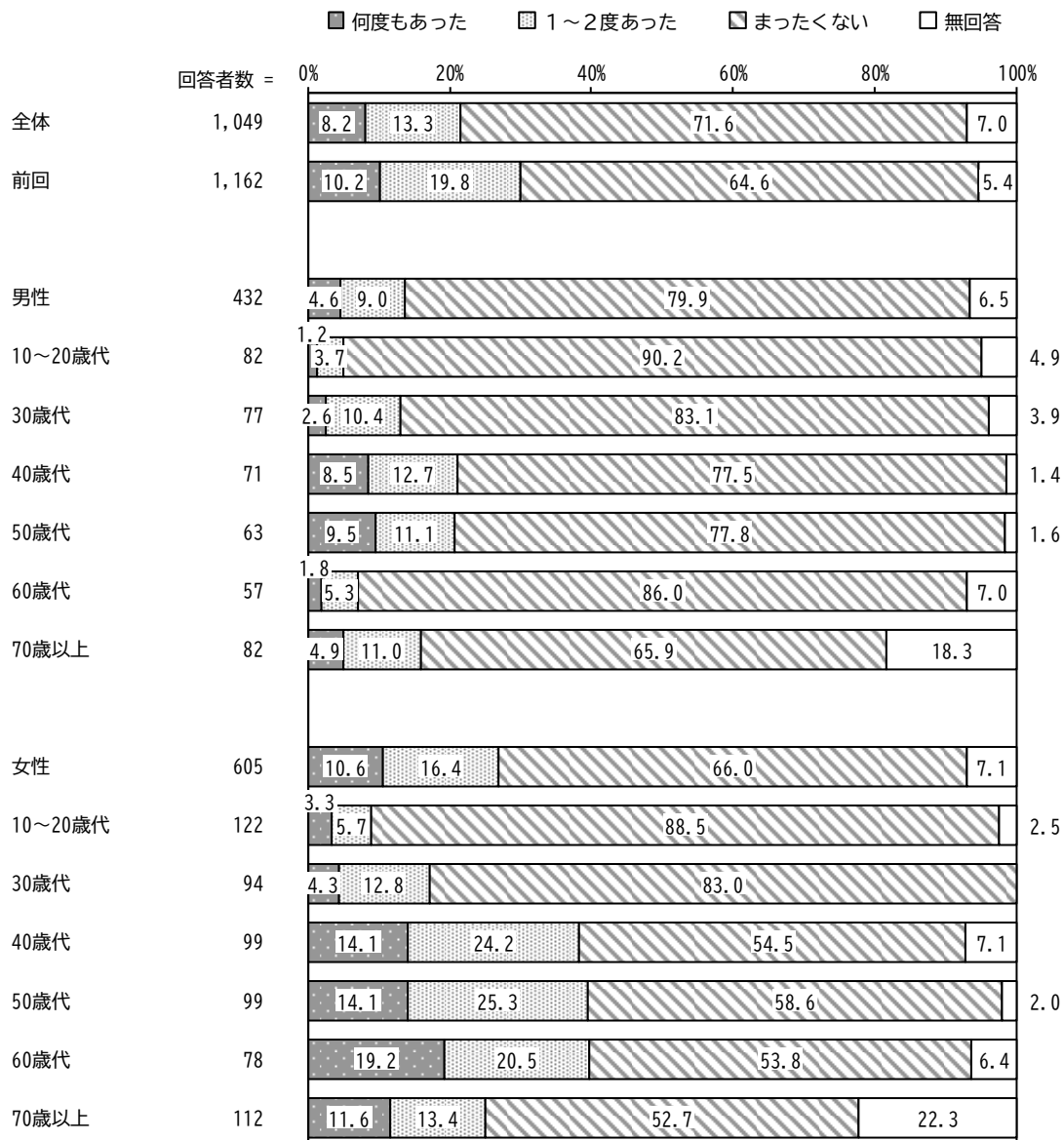
## コ. 大声でどなられた

「何度もあった」の割合が 8.2%、「1～2度あった」の割合が 13.3%、「まったくない」の割合が 71.6%となっています。

前回と比較すると、「まったくない」の割合が増加しています。一方、「1～2度あった」の割合が減少しています。

性・年齢別にみると、女性では 10～20 歳代から 60 歳代まで年齢が上がるほど「何度もあった」の割合が高い傾向にあります。また、男性 10～20 歳代で「まったくない」の割合が高くなっています。

図表 100 DVを受けた経験「大声でどなられた」



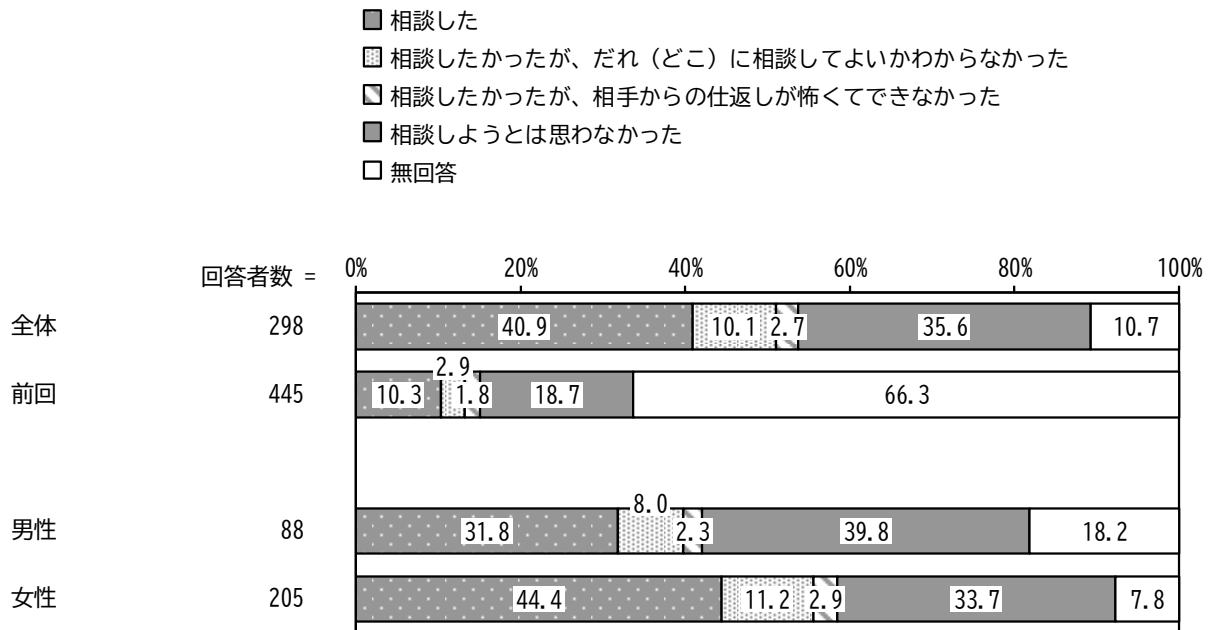
問 21 DVの被害にあった方におたずねします。DVの被害にあったとき、だれ（どこ）かに相談しましたか。（○は1つ）

「相談した」の割合が40.9%と最も高く、次いで「相談しようとは思わなかった」の割合が35.6%となっています。

前回と比較すると、「相談した」の割合が増加しています。

性別にみると、女性で「相談した」の割合が高くなっています。

図表 101 DVやセクハラ被害にあったときの相談



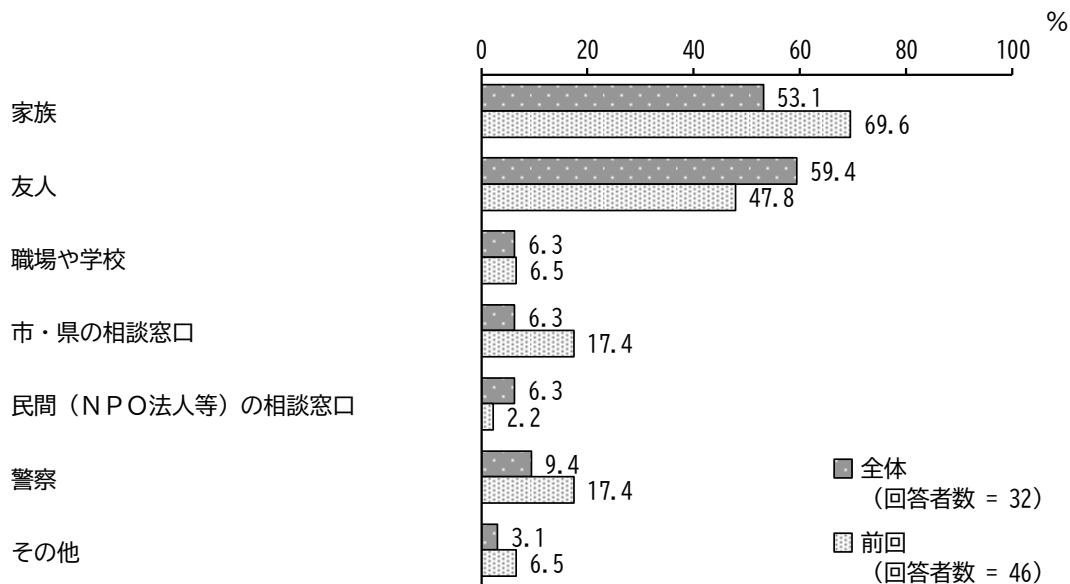
問 21 で「相談した」を選ばれた方におたずねします。

問 21-1 だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「友人」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「家族」の割合が 53.1%となっています。

前回と比較すると、「友人」の割合が増加しています。一方、「家族」「市・県の相談窓口」「警察」の割合が減少しています。

図表 102 DVの被害にあったときの相談相手（相談先）



## 6 市の男女共同参画推進に関する施策について

問 22 あなたは、加古川市男女共同参画センターをご存知ですか。また利用したことがありますか。(○は1つ)

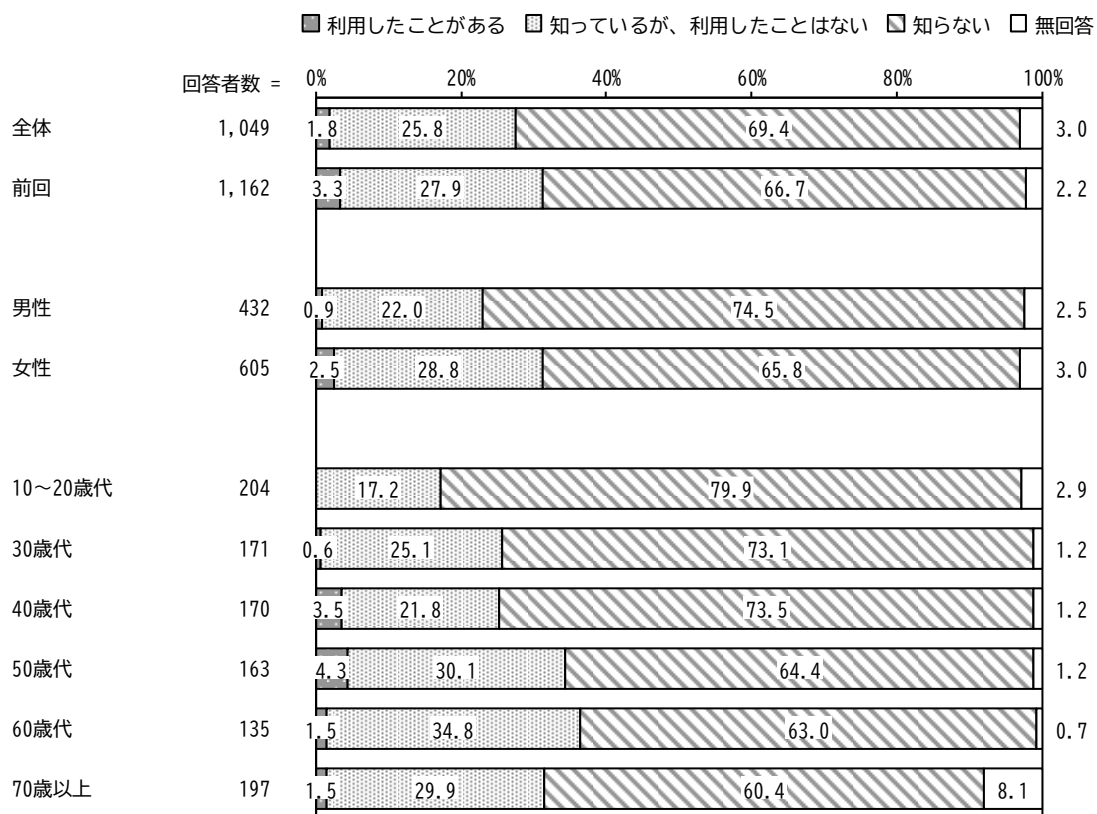
「利用したことがある」の割合が 1.8%、「知っているが、利用したことはない」の割合が 25.8%、「知らない」の割合が 69.4%となっています。

前回と比較すると、大きな変化はみられません。

性別にみると、男性で「知らない」の割合が高く、女性で「知っているが、利用したことはない」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知らない」の割合が高い傾向にあります。

図表 103 加古川市男女共同参画センターの認知度、利用度

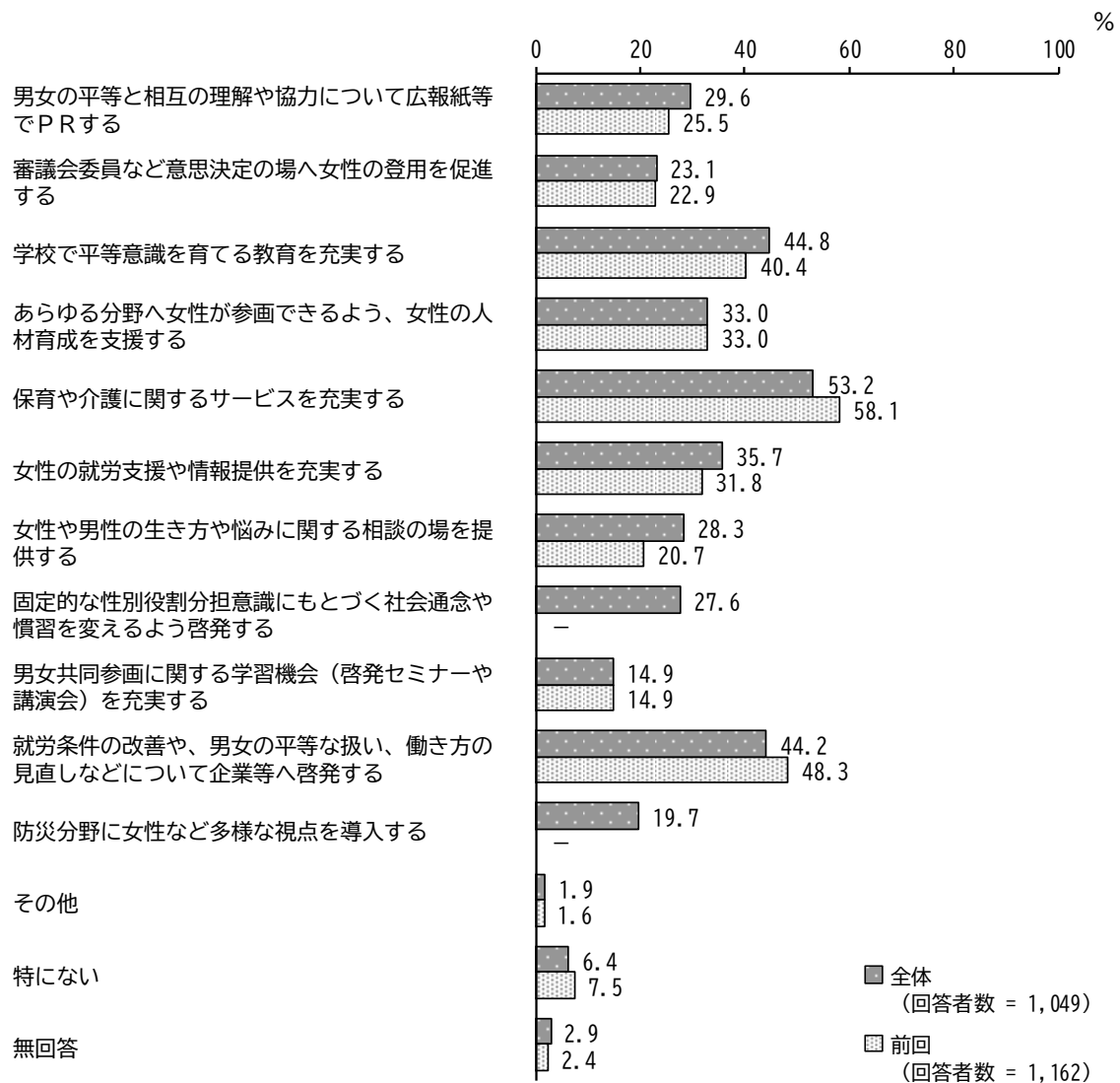


問 23 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは加古川市に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

「保育や介護に関するサービスを充実する」の割合が 53.2%と最も高く、次いで「学校で平等意識を育てる教育を充実する」の割合が 44.8%、「就労条件の改善や、男女の平等な扱い、働き方の見直しなどについて企業等へ啓発する」の割合が 44.2%となっています。

前回と比較すると、「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」の割合が増加しています。

図表 104 男女共同参画社会の実現のために加古川市に望むこと



※前回調査の選択肢では、「女性の就労支援や情報提供を充実する」が「女性の就労支援や交流・情報提供を充実する」となっており、「固定的な性別役割分担意識にもとづく社会通念や慣習を変えるよう啓発する」「防災分野に女性など多様な視点を導入する」がありませんでした。

問 24 最後になりましたが、加古川市の男女共同参画推進について、ご意見、ご要望などがございましたらご自由にお書きください。

有効回答数 1,049 件のうち、記述があったのは 182 件でした。男女共同参画推進についての自由意見の抜粋は以下のとおりです。

性別	年齢	自由意見
男性	10 歳代	学校の教師は影響を受けやすい子どもたちを受け持っていると感じ、男女ともに平等であるように接し、「男のくせに」「女なんだから」というような言葉は出さないようにしてほしいなど、学生生活を通して感じるがありました。地域の学校への呼びかけなどを望みます。
女性	10 歳代	女性はトイレに時間がかかるので、男性トイレより女性トイレの数をもっと増やすべきだと思う。またナプキンがトイレにあれば助かる。自分たちの世代は平等に思うが、おじいちゃん、おばあちゃん世代は昔のままの考えでいるので、どうしても女性は家事だからと言われてしまう。それが少し嫌に思います。
男性	20 歳代	加古川市の男女共同参画推進について、なにを行っているのか具体的に知らないが、いい方向になるように頑張ってください。
男性	20 歳代	より良い加古川市にしてください。共に頑張りましょう。
男性	20 歳代	住みやすい加古川のためにいつもありがとうございます。
男性	20 歳代	地域の祭りや催し等を運営する際、男性優位で進められていることを母に聞いて不思議に思いました。伝統は大事にしたいと思うし、昔からのならわし等で仕方ないのかなとも思うが、後進が育たないとなげいていると聞いて、それはそうだろうと思いました。
女性	20 歳代	市として、議会も含めたジェンダー平等および人権意識の向上に、より一層取り組む必要があると考える。
女性	20 歳代	能力がある(やりたいという気持ちと力量がある)人が活躍できることが大事だと思いました。
女性	20 歳代	今、結婚出産した女性への待遇が非常に手厚くなっていますが、それによって結婚出産した女性の権力が強くなりすぎていると感じることがあります。独身の女性や男性にも優しい世の中になってほしいと思います。
女性	20 歳代	子育て支援を充実させてほしいです。お金がない→働かないといけない→保育園に0才から預ける→保育園に預けるのにお金がかかるからもっと働かないと→子どもとの時間が減り、家族への申し訳ない気持ちを抱えている女性が多い気がするため。
女性	20 歳代	性差に関わらず基本的な人権に対する教育や、倫理に関する教育を推進して欲しいです。どんな立場や年齢、性別に関わらず自身の意見を発することの大切さを知る方が良いと思います。
男性	20 歳代	中学、高校等で、互いの性の事情や心理の違いなどを深く知る機会を定期的に設けるなどをした方がいい。
女性	20 歳代	子どもができて働いてない人が、働こうと思ったときに、保育園に入れるかも分からないまま次の仕事を探すハードルが高い。
男性	20 歳代	職場で、つわりへの理解がなく苦しむことがあった。つわりの大変さは人それぞれなので、本人が助けを求めるまではそっとしておくのがいいことを知ってほしい。
女性	20 歳代	私の職場は入社時(中途採用も)、男性の方が基本給が高いのでそれはおかしいんじゃないかなと思います。男性も介護休暇をとりやすくしたらいいし、もっととりやすい環境にしてほしいです。また、女性の月経の痛みを男性も知ってほしいと思います。
女性	20 歳代	働きたい女性のためにも、保育・介護等のサービスの充実とともに、そういったサービスがある、利用できるといった情報を知ってもらうことが大切だと考えます。
女性	20 歳代	職種によっては、男性優位、女性優位と偏りのある場所が多い。最終的には男女平等ではなく『その人らしい働き方・生き方』ができる社会にしてほしいです。
女性	20 歳代	男性が子育てする際の相談場所がなかったり、女性が仕事をするための知識が足りていなかったりまだまだ不足が多いと感じています。男女に違いがあるのは当たり前なので、どこかで補える場所が必要だと思います。
男性	20 歳代	これからも頑張ってください。

性別	年齢	自由意見
女性	20歳代	平等にするのであれば女性が平等に感じるだけではなく、男性も平等に感じるべきだと思うので、男女ともに対象となるような活動を実現していただけると嬉しいです。
男性	20歳代	一昔前に比べ、女性に対する不当な差別は減ってきていると思いますし、個人的な感覚ですが、むしろ女性優遇のように感じる時すらあります。性別の違いを認めつつも、性別を問わず自己実現ができ、性別を問わず真に優秀な人がリーダーになれる。そんな日本国になってほしい、それを認める日本国民があふれて欲しいなと思っています。
女性	20歳代	子どもが病気になったときに、仕事を休むか病児保育に預けるかが大変だとよく聞く。職場に保育所が併設されていても、病児保育の枠が少ないと意味がないと思う。そういうことが心配で、出産すると仕事を辞めたり、辞めても転職活動が難しい人が多いのだと思う。これから子どもを考えている身としては、両親共に子どもが育てやすい職場環境や社会になってほしい。
女性	20歳代	もう少し保育園に預けたいときに預けやすいようになってほしいです。
女性	30歳代	「男女共同参画」センターと言う場所を知らず、何をされているのかも知りませんでした。もっと、情報を教えて欲しいです。
女性	30歳代	女性が働くためには、子供を預ける先や、介護などの施設の充実、入所するまでの書類を簡潔化してほしい。まだまだ女性に負担が大きい。
男性	30歳代	結局、古い考えの人、頭の固い人、平等に反対の人が世の中からいなくなると実現しない。町内会長、市議会議員、市長、だいたいトップが男性であるかぎり実現しない。
男性	30歳代	次世代からは変わるような意識づけ、教育を目指して欲しい。ただ、家の中で不平等が根付いていると意味がないので、それを改善する活動も行ってもらいたい。
男性	30歳代	今の日本では都合の良い時だけの女性優遇の傾向があるので見直しが必要かと思います。支援が必要な人は男も女もないのですから。
女性	30歳代	今の子供達、特に男の子達が女性を見下す大人に育たないよう、現役の男性、年配の男性たちが、女性だから男性だからという態度の差を見せないようにしていくことが大切ではないかと思う。お互いが尊重されていると思えるような社会になればいいと思う。
男性	30歳代	最近の女性を優遇すれば女性が社会に参画して、男女平等だ！みたいな男女平等論はなんかズレてるなぁと感じる。
男性	30歳代	男女平等を望む立場ですが、男女ともに権利は保護されるべきです。問題を抱える女性に寄り添う一方で、困窮する男性が見捨てられていないでしょうか？ バランスに常に気をつけてください。男女ともに同一賃金、同一待遇であることは当然のことです。そうであるならば同一労働もまた当然です。権利と義務は、性別によらず等しく負うべきものです。
女性	30歳代	もっと保育園を増やしてほしい。正社員をやめて子供を産んで社会復帰をしたくとも、保育園がなく子供をあずけられない状況。同世代20~30代のママさんは日々ワンオペで心身共に疲労している。地方から来た人も多いのもっと子供や主婦に過ごしやすい土地にしてほしい。定住したいと思わない。
女性	30歳代	加古川市へ転入してまいりましたが、保育所が激戦でおどろきました。仕事をしたいのですが子が入所できなかったのも、保育に関するサービスの充実を希望します。
女性	30歳代	保育園に入れず職場復帰ができません。会社に迷惑を掛けており、こういうことがあるので、女性は会社や社会での立場が弱くなるのだらうと思います。
女性	30歳代	結婚や出産で状況は変化していくため、お互いどんな環境へ変化していくのか知る機会があれば良いのかなと思う。
男性	30歳代	男女共同とは、多くの場合男性優位を廃し、女性の地位向上を目指すといった視点で語られ、女性が社会進出する事が望ましいという前提であるが、女性は社会進出する事、男性が今まで担ってきたいわゆるリーダー的なポジションに就く事を本当に望んでいるのだろうか。女性に限らず男性でも、必ずしも全員が出世し、代表的な立場になる事を望んでいるわけではない。既存の枠組みにとらわれない、男女の共生の在り方を模索していく時代になってほしいと思う。
女性	40歳代	共働きが当たり前となっていますが、女性の家事、育児介護の負担は男性よりも大きいと感じています。女性が社会復帰しやすい職場環境や周りの理解、休みやすさ、公的機関の充実があればいいなと思います。

性別	年齢	自由意見
女性	40 歳代	女にしか生物的にできないことを考慮に入れた上で、男も女もそれ以外も、個人の思いを尊重する社会になってくれればいいと思います。
女性	40 歳代	子ども達の方が男女に関する意識や考えが柔軟なように感じている。ある程度、歳をとられた方の方が、偏った考えをされているように思う。そこを変えることで、社会全体が変わっていくように思います。男女関係なく、仕事も子育ても大人が生き生きとしていることで、それを見ている子ども達も将来に希望が膨らむと思います。
女性	40 歳代	もっと女性が生きやすく、自立できる社会づくりをして欲しいし、自分もそうなれるようになりたいです。
男性	40 歳代	能力のある女性の参画は必要、男性も家事への参画は必要。各家庭での状況に応じて、コミュニケーションして最適化していく必要がある。ベストを考え夫婦でささえ合っていけるようにしたい。
男性	40 歳代	男女共同参画は平等の推進ではないと考えます。意欲のある人がやりたい事、なりたい自分になれる機会の提供が重要だと考えます。
男性	40 歳代	小学校教師として、性別による思いこみが職業選択をせざることを人権授業で行った。性別にかかわらず、パートナー同士コミュニケーションをとりながら家庭生活を回していきたい。そして、今の子ども達が「男だから」「女だから」で振り回されず、どちらも大切にされ、すきな選択ができる様、仕事の面でもがんばっていききたいです。
女性	40 歳代	男性、女性を区別することなく、一人の人間として扱う、扱われることが大切だと思います。
男性	40 歳代	平等は土台ムリ。
男性	40 歳代	家族に縛られ、自由もなくただ搾取されるだけの人生だと悲しむ男性も居る現状を知って欲しいです。女性優位な家庭も有ると思います。
男性	40 歳代	「男女の平等」について、まだまだ社会に広く伝わっていないように感じます。ぜひ、周知する方法を検討いただき、広報していただければ幸いです。
男性	40 歳代	市役所内を改革し、男女共同参画社会作りの 1 ロールモデルになれば良いと思う。
男性	40 歳代	適材適所という言葉があるように、身体的な違いもあり特徴も違うので、なんでも平等にするのではなく公平にするべきである。同じことをさせるのではなく、無理なく力を発揮できる配置が大事。
女性	40 歳代	中小企業も男女平等に給料をいただけたら、家庭内でも男女の差がうまるとおもいます。
女性	40 歳代	昭和生まれの頭の固い男性がいる限り、男女平等などあり得ないと思っています。その辺りの男性の意識改革などできないと思いますので、若い世代向けにこれから男女平等、男女共同参画が実現できるような教育をしていって欲しいです。
女性	40 歳代	自分が 20 代の頃より随分と改善されたとは思いますが、まだまだ男尊女卑の社会だと感じる。男女平等な社会が日常であるように 加古川市には頑張ってください。
男性	40 歳代	私は教育公務員のため、出産期にキャリアが止まること以外では、待遇などで大きく男女格差を感じることはないのだと思います。実際に男性の私も育児休業を一年取得し、妻が働き、夫が家事育児を担当する生活も経験しました。民間ではまだその差があることを見聞きするため、制度でも人々の意識にも是正していく必要性は感じています。
女性	40 歳代	男女は脳にも身体にも差があって当たり前であり、男性でも女性でも辛いときはお互い補い合いフォローし合えばいいだけだと思う。
女性	40 歳代	県と連携できることがあるならしてほしい。
女性	40 歳代	保育園に預けて仕事をしていたが、おむかえの時間に一度も夫が行く事はなかったです。本当にワンオペ育児でつらかったです。正社員をあきらめ、パートになった時には、自分の価値を見いだせなくぬけがらになった。子育てが一段落しても 40 代では就職先がない。本当になかない。
女性	40 歳代	独身でパートだと肩身が狭いです。主婦の人から、なぜ社員の仕事を探さないのか、実家暮らしで甘えてお母さんのごはんを食べてる、子供を産んで育てていないと主婦ハラメントがあります。2 年前に会社が閉鎖し社員の仕事を失い、年齢的にも再就職がむずかしく現在パートです。男女平等以前の問題だと思います。

性別	年齢	自由意見
女性	40歳代	ここ最近中高生の制服が選べるようになりました。男女平等と言うけど、女子はズボンを選べるが男子はスカートを選べない。それは差別ではないんでしょうか？あれだけLGBTと言っているのに、矛盾していると思います。
女性	50歳代	このような前向きな調査をありがとうございます。
男性	50歳代	このようなアンケートを通して自分を見つめ直すことができました。また参加させて頂きたいです。
女性	50歳代	はじめて、このような取り組みをされているということをしりました。この調査をうけて、いろいろ考えたこともあり調査を続けていってほしいと思いました。
男性	50歳代	これは女の人でないといけないという仕事ははっきりいってないと思う。
女性	50歳代	男女共同参画推進については少し耳にしたことはあるが、具体的に何をしているかわからないので、広報誌などで取り上げてほしい。
女性	50歳代	男性の意識が低いと思う。
男性	50歳代	市が「男女共同参画」に向けての活動を行っていることをしらなかった。もっとメディア等でアピールすることで、男女共同参画についての意識も高まるのではないかな。
女性	50歳代	差別はダメだが区別は仕方ない。性差を正しく認識した上での男女の平等であるのですべてが平等にはならないと思っている。女性にしかできないことがある限り、平等になることはないなので、そこに固執したくない。
女性	50歳代	正規雇用者だけでなく非正規雇用者でフルタイムで働く人(派遣社員、フルタイムパート社員など)にも、育児・介護の支援(時短勤務やテレワーク)を望みます。
男性	50歳代	理想だけでは進まないの、現実を見すえた政策をとって欲しいし、その啓発のために加古川市は頑張っていて欲しいと思います。
男性	50歳代	女性は賃金が安いと思う。
男性	50歳代	昨今、女性や子育て支援は積極的に取り組まれていると思う。逆に、私みたいに子供のいない男性は損だと思う。
女性	50歳代	学校などで、若い方々から意識改革していかないと無理と思う。この世は男女差別の温床。現実問題、大人は固定観念に縛られています。
男性	50歳代	働きたい女性は働けば良い。専業主婦をやりたい女性に押し付けるものではない。
女性	50歳代	少子化少子化と言ってるのに、女性が活躍できる社会を作ろうとしていることに矛盾を感じる。加古川市には、高齢者、介護される人、その家族、介護する人など本当に困ってる人への支援をもっと充実させてほしいです。
男性	50歳代	性別を問わず「個人の能力や尊厳」が正當に評価される、より実用的で公平な施策にリソースを集中させるべきだと考えます。
女性	50歳代	講座に参加できない人が、後日動画視聴できるようになればいいと思います。
女性	50歳代	若い人たちは、男性も、柔軟な考え方ができるようになってきていると感じる。女性も自己実現のために仕事をするのが当たり前の社会になってほしい。女性が正社員として働いても、家庭生活が充実できる仕組みをもっと作って欲しい。
女性	50歳代	これからの若い女性が元気に明るく生活できる日常があることを願います。
男性	60歳代	男女共同参画がもっと進展されますように願います。
女性	60歳代	第5次男女共同参画行動計画を実施して、実際にどのような成果が上がったのかまとめたものを公表してほしい。
女性	60歳代	全てが男女平等にするべきとは思いません。男であれ女であれその人に合った事、仕事、勉強などなんの障害も無く偏見等のない世の中になると良いと思います。
女性	60歳代	相談できる場所等を増やして欲しい。
男性	60歳代	意識の向上にむけた交流会的なものに気軽に参加できる様な環境を継続的に作り上げて欲しいと思います。
女性	60歳代	男女で格差を無くすと言うよりは、仕事に関しては適材適所で。誰でもやれるはずの事を女性だからと雑用を押しつけるのは間違っていると思います。家庭生活上で共働きの場合はそれぞれ分担してやるのは普通だし、お互いに努力はすべきだと思います。
女性	60歳代	子供を産んで育てることが、会社で働くことと同等な価値のあることと評価される社会にならないと少子化も止まらないし、平安な社会にならない気がします。
女性	60歳代	具体的にどういう取組みをされているのか、全くわかりません。もっと皆に周知できる方法があると思う。

性別	年齢	自由意見
女性	60歳代	共働きで家事をする男性が増えてきたのは喜ばしいことだが、周囲の意識が追いついていないように感じる。夫と同じように仕事をしてきたが、家事・育児はほとんど一人でやって、夫を頼れなかった自分に後悔している。子どもたちには男女平等な家庭生活を築いてほしいと思う。行政の画期的な施策の推進に大いに期待しています。
女性	60歳代	男女平等、男女共同参画社会推進を望みます。
男性	60歳代	市民の方々への「男女共同参画」の啓発をして、充実した支援をすることが大切と考えます。今後も市民の1人として、男女平等であることを尊重して参ります。
男性	60歳代	この世は男と女しかない。色々な問題点もありますが、男女平等の社会を実現すべき事だと思う。一人一人を大切にすれば、男女平等の社会になると思う。
男性	60歳代	男女平等の勘違いに注意が必要だと思います。男・女の持つべき事柄を、学ぶべきです。すべてを平等になんて無理だと言う事を学ぶべきです。男らしく女らしく生活する事は正しい事です。
女性	60歳代	男女平等、生活においてみんなが豊かになる事を望みます。
女性	60歳代	加古川市がいろいろ取り組まれている事が見えない。まだまだ女性が家の事全てをしている家庭が多い。私の家庭も夫は仕事以外の町内の集まりなどには参加せず、家庭の事は手伝もしない。いろんな場でみんなで考える研修などを考えて頂きたい。
男性	60歳代	大勢が利用する公共施設には女性用トイレの数を増やす条例をつくる。
男性	60歳代	男女共同参画とは何ぞや？目的は？なにがゴール？ こんなよくわからない活動は地方政治にはそぐわないと思います。
女性	60歳代	個人個人で感じ方考え方等が全く違うので、必要とする情報も支援も異なります。画一的でなく公平感がある、若い方たちが希望が持てる加古川市であって欲しいと願います。
女性	70歳以上	こう言う施策はどんどん実施されるべきだと思う。
男性	70歳以上	もっと広報紙にPRしたり、意味、内容を、わかりやすく誰もが解るよう説明がいてと思う。
女性	70歳以上	夫が家事にも協力的だったので共働きが続けられた。今の若い夫婦は家事にも子育てにも協力している様子が見られて随分良くなったと思う。
男性	70歳以上	市民が気軽に相談できる場づくりが必要と思う。
女性	70歳以上	今も変りつつあると思いますが、まだ何年か(5年)たたないと男女共同参画社会になりそうもない気がします。
女性	70歳以上	若いうちに学ぶ事が必要だと思う。
女性	70歳以上	まだまだ男女共同参画社会と言うには、程遠い方もたくさんおられると思うので、一日も早い実現を望みます。
男性	70歳以上	80才代の者から見ると女性の参画は著しい感があります。しかし世界の水準から見ると政治や職場の環境は女性を取り残されているといわれています。男女共同参画推進は大変重要と思われるので加古川市としても他府県の市に劣らぬ活動が必要かと思えます。
女性	70歳以上	男女の別なく、男女平等に生活できるようになりたい。男の人でもやさしく、弱々しい人もいれば、女の人でも力強く弱々しくない人もおり、性質的な事もあるので、男女の別なく生活できればいいと思います。
女性	70歳以上	自分の事を人のせい、人任せにすることなく、強い意志で自分を見つめ、考えることが大切だと思います。
男性	70歳以上	まだまだ男性優位、優遇、施策等が多いと思います。女性が意見を言える場所の提供など行い参考にしてもらいたい。男女平等でないと、これからの世の中うまくいかない、まちがいありません。
男性	70歳以上	国や県の関係機関や、労働団体等の動向も、より情勢を把握して推進して下さい。
女性	70歳以上	各町内会を活用し勉強会、講習会等を実施し、どんな活動をしているか具体的に回覧板等で各町内会へ知らせる。他の取り組み(防災・学校関係、老人会など)と関連させ活動・PRなどをする。

性別	年齢	自由意見
女性	70歳以上	①毎月の広報紙で、相談窓口として女性のための労働相談、働き方相談、LGBTQ相談などが記載されているが、男女平等と相互理解についてもっと大きく広報紙や講演などでPRしてほしい。②女性の悲劇があつてからの相談解決でなく男性や上司の考え方を指導するような学習機会が必要である。③公民館などでの地域活動においては高齢者が主に占めるだけに特に男女平等の相互理解の講習会の必要性を感じる。④自治会においては、会長は男性が殆どで自治も男性中心のものの考え方で進められることが多い。女性が発言できる場と女性の意識改革の学習会の必要性を感じる。
女性	—	男尊女卑が女尊男卑にならないようにすること。家制度をおしつけないこと。介護(育児)離職を性別関係なく求められない環境。ひとつのモデルにはめこまない柔軟性をもった考え方をもつこと。答えたくないもの(プライバシー)を、尊重すること。

## IV 参考資料

# 男女共同参画に関する市民意識調査

## 調査ご協力をお願い

市民のみなさまには、日ごろから市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

加古川市では、性別にかかわらず、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざして、加古川市男女共同参画行動計画を策定するなど、さまざまな取組みを進めています。

この調査は、令和3年3月に策定した「第5次加古川市男女共同参画行動計画」の見直しにあたり、市民のみなさまのお考えやご意見をお伺いするもので、18歳以上の市民の中から3,000人を無作為に選ばせていただきました。

ご回答は無記名で、調査結果は、すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、本調査の目的以外には利用いたしません。

調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力をお願いいたします。

令和7年12月

加古川市長 岡田 康裕

### 【ご記入に際して】

- ◇ご回答は、あて名のご本人にお願いいたします（ご記入は、ご家族やご友人などに代筆していただいても構いません）。
- ◇ご回答は、あてはまる番号に○をつけてください。「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、（ ）に具体的にご記入ください。
- ◇ご回答いただいた調査票は、**無記名のまま**同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**1月9日（金）**までに郵便ポストへ投函してください。

### ◇この調査はインターネットでもご回答できます。

ウェブブラウザのURL欄に、下記URLを入力してください。

URL : <https://questant.jp/q/H8WBAARX>

スマートフォンで回答される場合は、右記の二次元コードを読み取り、アクセスしてください。



※インターネットで回答した場合は、この調査票の返送は不要です。

【お問合せ先】 加古川市男女共同参画センター

（加古川市 市民協働部 市民活動推進課）

電話 079-424-7172

FAX 079-454-4190



問6 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. いる

2. いない

問6で「1. いる」を選ばれた方におたずねします。

問6-1 あなたの一番年下のお子さんは次のいずれにあたりますか。(○は1つ)

1. 乳幼児(3歳未満)

2. 幼児(3歳以上の未就学児)

3. 小学生

4. 中学生

5. 高校生以上の生徒・学生

6. 社会人

## 2 男女の平等感などについて

問7 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	男性が 優遇	やや男性 が優遇	平等	やや女性 が優遇	女性が 優遇	わから ない
(記入例)	1	2	③	4	5	6
ア. 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
イ. 学校教育で	1	2	3	4	5	6
ウ. 職場で	1	2	3	4	5	6
エ. 地域活動で	1	2	3	4	5	6
オ. 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
カ. 慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
キ. 政治・政策決定で	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、次のア～キのような考え方に対してどのように思いますか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない
ア. 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
イ. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
ウ. 家族を養うのは男性の役割だ	1	2	3	4	5
エ. 男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がない	1	2	3	4	5
オ. こどもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5
カ. 家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい	1	2	3	4	5
キ. 育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい	1	2	3	4	5

問9 あなたは、次のような「性別によって感じる生きづらさ」や「社会の期待」をどのくらい感じることがありますか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	よくある	時々ある	あまりない	ない
ア. 性別によって、家庭や仕事で求められる役割が決まっていると感じる	1	2	3	4
イ. 性別によって、働き方や仕事の選び方が限られていると感じる	1	2	3	4
ウ. 感情や弱音を出しづらい雰囲気がある	1	2	3	4
エ. 家事や子育て、介護等の負担が一方にかたよりやすい	1	2	3	4
オ. 性別によって、意見を言いにくい場面がある	1	2	3	4
カ. 性別によって、服装やふるまいを期待されることがある	1	2	3	4
キ. 自分の性別に対する周囲の理解や配慮が十分ではないと感じる	1	2	3	4
ク. その他 ( )	1	2	3	4

### 3 家庭生活について

問 10 あなたのご家庭では、配偶者・パートナーとの役割分担はどのようになっていますか。単身者または未婚者の方は一般にどのように役割分担するのがよいと思われますか。次のア～カの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	自分がする	自分が主で 配偶者・パートナーが 協力	自分と配 偶者・パ ートナー と同程度	配偶者・パ ートナーが 主で自分が 協力	配偶者・パ ートナーが する	その他
ア. 食事の支度	1	2	3	4	5	6
イ. 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
ウ. 日々の家計管理	1	2	3	4	5	6
エ. 子育て	1	2	3	4	5	6
オ. 高齢者や病身者の 介護・看護	1	2	3	4	5	6
カ. 地域行事への参加	1	2	3	4	5	6

問 10-1 【単身者または未婚者の方は問 11 へお進みください。】

現在の家庭での配偶者・パートナーとの役割分担に対して満足していますか。(○は1つ)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 満足         | 2. どちらかといえば満足 |
| 3. どちらかといえば不満 | 4. 不満         |

問 10-1 で「3. どちらかといえば不満」「4. 不満」を選ばれた方におたずねします。

問 10-2 希望の役割分担になっていない主な理由は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事が忙しい
2. 相手とのコミュニケーション不足
3. 相手の協力が得られない
4. やり方について相手と意見が合わない
5. 相手の性別役割分担意識が強い
6. 家族などの性別役割分担意識が強い
7. 世間体が気になる
8. その他 ( )

問 11 地域活動や社会貢献活動への参加について、(A)と(B)2つの質問にお答えください。

(A) あなたは、この1年間に地域活動等に参加したことがありますか。(○は1つ)

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. この1年間に参加した | 2. この1年間に参加していない |
|---------------|------------------|

(B) あなたは、今後、地域活動等に参加したいと思えますか。(○は1つ)

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 参加したい                     |
| 2. 誘われたら参加すると思う              |
| 3. 知り合いが参加していれば参加すると思う       |
| 4. 興味はあるが、なじめるか不安なので参加しないと思う |
| 5. 興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい  |
| 6. 参加したくない                   |

問 12 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと            |
| 2. 男性が家事などを行うことに対する女性の抵抗感をなくすこと              |
| 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること                  |
| 4. 当事者(夫婦間)の考え方を尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけないこと   |
| 5. 職場の上司や同僚、家族や親戚などの理解が進むこと                  |
| 6. 労働時間短縮や、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及させること    |
| 7. 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること  |
| 8. 男性の家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと    |
| 9. 男性の家事、子育て、介護などの技能を高めるための講習会を行うこと          |
| 10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること |
| 11. 特に必要なことはない                               |
| 12. その他 ( )                                  |

問13 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度についておたずねします。  
 あなたの「希望」に最も近いものと、「現実」に最も近いものを、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

希望	現実
1. 「仕事」を優先したい	1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先したい	2. 「家庭生活」を優先している
3. 「個人の生活」を優先したい	3. 「個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい	5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい	6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい	7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先している
8. わからない	8. わからない

#### 4 就労等について

問14 女性が収入をとまなう仕事を持つことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい
2. 結婚や出産などで一時仕事をやめ、子育てが終わると再び仕事をもつ方がよい
3. 結婚をきっかけとして、仕事をやめる方がよい
4. 出産をきっかけとして、仕事をやめる方がよい
5. 介護や看護などがあっても、仕事を続ける方がよい
6. 介護や看護などがあれば、仕事をやめる方がよい
7. 仕事をもたない方がよい
8. わからない

問 15 子育てや介護等により離職した人が再就職する場合、どんなことが気がかりだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 年齢で判断されないか
2. 自分に向けた仕事につけるか
3. 求人の情報をどのようにして見つけるか
4. 自分の資格や能力が通用するか
5. 職場の人間関係がうまくいくか
6. 賃金や勤務時間、働き方、休暇など、望む労働条件が得られるか
7. 家庭との両立ができるか
8. 自分の健康状態や体力
9. 家族の理解が得られるか
10. こどもが保育所や児童クラブ等に入所できるか
11. こどもが病気の時の保育をどうするか
12. 家族の介護や看護
13. その他 ( )
14. 特にない

問 16 女性が職業生活において活躍できる環境にするために、どのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 職場のトップが女性の活躍の推進に積極的であること
2. 上司・同僚が、女性が働くことに理解があること
3. 子育て・介護との両立のための職場の支援制度が整っていること
4. 個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入
5. 女性の管理職への登用が進むこと
6. 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること
7. 女性のスキルアップのための研修等の機会が提供されること
8. 女性の活躍に取り組むグループの活動や交流、ネットワークづくりをすすめること
9. 仕事が適正に評価されること
10. 仕事の内容にやりがいがあること
11. 職場の施設・設備面で女性が働きやすい環境が整備されていること
12. 家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援
13. 保育・介護などの支援に関する公的サービスの充実
14. その他 ( )
15. 特にない

問 17 あなた自身や周りの方が、職場で何らかのハラスメント（嫌がらせ）を受けたことがありますか。  
（○は1つ）

1. 自分自身が被害にあったことがある
2. 家族・知人や職場の仲間などに被害にあった人がいる
3. 自分自身も被害にあったことがあり、家族・知人や職場の仲間などで被害にあった人もいる
4. 自分や自分の周りに被害にあった人はいない

問 17で「1. 自分自身が被害にあったことがある」、「2. 家族・知人や職場の仲間などに被害にあった人がいる」、「3. 自分自身も被害にあったことがあり、家族・知人や職場の仲間などで被害にあった人もいる」を選ばれた方におたずねします。

問 17-1 それは、次のうちいずれにあたりますか。（あてはまるものすべてに○）

1. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
2. 妊娠、出産、育児休業、介護休業等に関するハラスメント  
（制度等の利用への嫌がらせ、妊娠・出産したこと等による嫌がらせ）
3. パワー・ハラスメント（地位や人間関係などの優位性を背景にした嫌がらせ）
4. その他（ ）

問 18 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすために必要なことは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考えなど）をなくすこと
2. 各分野で必要な知識や経験を持つ女性を増やすこと
3. 女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
4. 女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
5. 社会の中で、女性がリーダーになることについての評価が高まること
6. 長時間労働の改善など、働き方の見直しを進めること
7. 家事・子育て・介護などにおける配偶者・パートナーなど家族の支援
8. 保育・介護などの支援に関する公的サービスの充実
9. その他（ ）
10. 特にない

## 5 困難な問題を抱える女性への支援、DV等の状況について

問 19 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されています。あなたは、困難な問題を抱える女性(DV被害者、性犯罪・性暴力被害者、予期せぬ妊娠による妊婦など)を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1. 相談窓口の周知       | 2. 相談支援            |
| 3. 就労支援          | 4. シェルター等への一時保護    |
| 5. 生活再建のための自立支援  | 6. 住宅確保に向けた支援      |
| 7. 関係機関・民間団体との連携 | 8. 人権尊重・男女平等に関する教育 |
| 9. その他 ( )       |                    |

問 20 配偶者や恋人などパートナーからの暴力(DV)について、(A)と(B)2つの質問にお答えください。

(A) あなたは、ア～コのような行為がDVにあたると思いますか。1、2のいずれかに○をつけてください。

(B) あなたは配偶者や恋人などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。1～3のいずれかに○をつけてください。

(A)		項目	(B)		
DVだと思う	DVだと思わない		何度もあった	1～2度あった	まったくない
1	2	ア. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	1	2	3
1	2	イ. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた (実際に治療を受けていない場合も含む)	1	2	3
1	2	ウ. 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた	1	2	3
1	2	エ. いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
1	2	オ. 見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せられた	1	2	3
1	2	カ. 何を言っても長期間無視され続けた	1	2	3
1	2	キ. 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
1	2	ク. 「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた	1	2	3
1	2	ケ. 生活費を渡してくれなかった	1	2	3
1	2	コ. 大声でどなられた	1	2	3

問 21 DVの被害にあった方におたずねします。DVの被害にあったとき、だれ（どこ）かに相談しましたか。（○は1つ）

1. 相談した
2. 相談したかったが、だれ(どこ)に相談してよいかわからなかった
3. 相談したかったが、相手からの仕返しが怖くてできなかった
4. 相談しようとは思わなかった

問 21 で「1. 相談した」を選ばれた方におたずねします。

問 21-1 だれ(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族
2. 友人
3. 職場や学校
4. 市・県の相談窓口
5. 民間(NPO法人等)の相談窓口
6. 警察
7. その他 ( )

## 6 市の男女共同参画推進に関する施策について

問 22 あなたは、加古川市男女共同参画センターをご存知ですか。また利用したことがありますか。（○は1つ）

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

問 23 男女共同参画社会を実現していくために、あなたは加古川市に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女の平等と相互の理解や協力について広報紙等でPRする
2. 審議会委員など意思決定の場へ女性の登用を促進する
3. 学校で平等意識を育てる教育を充実する
4. あらゆる分野へ女性が参画できるよう、女性の人材育成を支援する
5. 保育や介護に関するサービスを充実する
6. 女性の就労支援や情報提供を充実する
7. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
8. 固定的な性別役割分担意識にもとづく社会通念や慣習を変えるよう啓発する
9. 男女共同参画に関する学習機会(啓発セミナーや講演会)を充実する
10. 就労条件の改善や、男女の平等な扱い、働き方の見直しなどについて企業等へ啓発する
11. 防災分野に女性など多様な視点を導入する
12. その他( )
13. 特にない

問 24 最後になりましたが、加古川市の男女共同参画推進について、ご意見、ご要望などがございましたらご自由にお書きください。


以上で調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

記入漏れがないかご確認のうえ、  
返信用の封筒に入れて、切手を貼らずに  
1月9日(金)までにポストへ投函してください。

加古川市男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

発行年月：令和8年3月

発行：加古川市 市民協働部 市民活動推進課  
〒675-0065 加古川市加古川町篠原町 21-8  
カピル 21 ビル 5階

電話：079-424-7172